

少子化に関する意識調査

～報告書～

2024年11月29日

目次

調査概要	3
回答者属性	4
サマリ～子どもを持つことへの意向と課題～	5
サマリ～複数子どもを持つことへの意向と課題～	6
サマリ～出産・育児支援への希望～	7
各論(原則、各設問全体値＋年代別など詳細編の2ページで構成)	
【未婚者】結婚の意向	8
【子どもがいない人】子どもを持つ意向	16
【子どもを望まない人】子どもを望まない理由	20
【子どもを望む人】理想の数と望む理由	24
【子どもがいる人】子どもを望んだ理由	32
【子どもを望む人・子どもがいる人】多子社会に向けての考え	37
【全員】少子化の状況に対する考え	50
【全員】地域・企業・国の出産・子育てに対する対応についての考え	57
【全員】岸田政権の「異次元の少子化対策」への評価	64
【全員】少子化対策の財源や社会的責任についての考え	69
【全員】少子化による労働力不足に対する考え	78

調査概要

- 調査対象 全国の15～45歳の一般男女個人
- 調査手法 インターネット調査
- 調査期間 2024年9月26日(木)～2024年9月30日(月)
- 回収数 全国を6エリアに分け、エリア毎に性年代別人口構成比に合わせて割付・回収。

		北海道・東北	首都圏	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	小計
男性	15-25歳	97	342	164	157	77	101	938
	26-35歳	94	356	160	142	72	96	920
	36-45歳	127	448	208	182	97	128	1,190
女性	15-25歳	90	331	153	156	72	100	902
	26-35歳	91	339	147	146	70	100	893
	36-45歳	125	422	194	188	96	132	1,157
合計		624	2,238	1,026	971	484	657	6,000

※エリア内訳

北海道・東北	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県		
首都圏	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	
中部	新潟県	富山県	石川県	福井県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
近畿	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県			
中国・四国	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
九州・沖縄	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	

回答者属性

SC5.あなたのお住まいの自治体の区分をお答えください。

	政令指定都市／東京23区	中核市(人口20万人以上)	それ以外の市	町村	無回答
全体 (N=6,000)	2056 34.3	1282 21.4	2077 34.6	585 9.8	0 0.0

SC6.あなたについて、現在あてはまるものをお答えください。

	未婚・子どもなし	未婚・子どもあり	既婚(事実婚含む)・子どもなし	既婚(事実婚含む)・子どもあり	離死別・子どもなし	離死別・子どもあり	無回答
全体 (N=6,000)	3857 64.3	78 1.3	505 8.4	1385 23.1	69 1.2	106 1.8	0 0.0

SC7.お子様は何人いらっしゃいますか。

	1人	2人	3人以上	無回答
全体 (n=1,569)	641 40.9	702 44.7	226 14.4	0 0.0

SC8.あなたの同居家族をお答えください。

	なし(一人暮らし)	配偶者・パートナー	子ども(未就学児)	子ども(小学生)	子ども(中学生・高校生)	子ども(大学生・専門学校生・大学院生)	子ども(社会人)	子ども(その他)	孫	自分の親	義理の親	祖父母	その他の親族・家族	親族以外(友人・知人等)	無回答
全体 (N=6,000)	1480 24.7	1922 32.0	765 12.8	711 11.9	419 7.0	54 0.9	34 0.6	2 0.0	2 0.0	2451 40.9	54 0.9	246 4.1	902 15.0	44 0.7	0 0.0

F1.あなたのご職業をお答えください。

	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	お勤め(派遣社員・パート・アルバイト)	個人経営の経営主	自由・自営業	主婦・主夫	学生	無職	その他	無回答
全体 (N=6,000)	2459 41.0	1055 17.6	126 2.1	243 4.1	402 6.7	1008 16.8	566 9.4	141 2.4	0 0.0

F5.あなたの最終学歴をお答えください。

	中学校	高等学校	専門学校	短期大学	大学	大学院	その他	答えたくない	無回答
表側 (N=6,000)	561 9.4	1537 25.6	710 11.8	354 5.9	2142 35.7	261 4.4	154 2.6	281 4.7	0 0.0

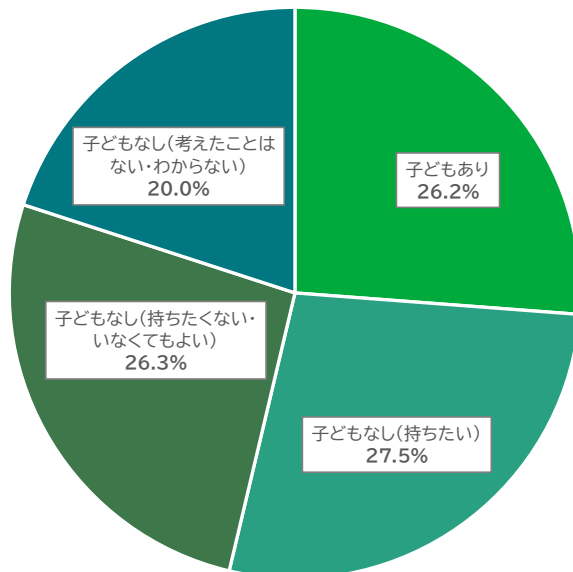
サマリ～子どもを持つことへの意向と課題～

【子どもの有無・将来的希望、要因】

「子どもあり」と「子どもなし(持ちたい)」が合計で53.7%と、半数強を占めている。

将来的な子どもの希望の回答は正規雇用では「持ちたい」が4割強を占めるのに対し、非正規雇用では「持ちたくない・いなくてもよい」が4割強と、雇用形態により将来的な希望に対する差が見られた。

(N=6,000)



子どもを持ちたくない理由は「経済的な負担が大きいから(養育費、教育費)」が最も高い。

女性は男性よりも「自分の自由な時間や生活を優先したい」「出産・育児に自信がない」「子どものしつけなどストレスが増えそう」の割合が高い傾向にあり、経済面以外での懸念もみられる。また、男女の26-35歳、非正規雇用においては「給与水準が低く経済的余裕がない」の割合が高い。

子どもを望む理由・子どもを持った理由ともに「子育ての喜びや楽しみを経験したいから」が約5割と突出して高い。

子どもを望む理由では、女性の26-45歳では加えて「親や親族の期待に応えたい」もやや高い傾向にある。一方、男性は子どもを望む理由では「家系家族の存続のために必要」、子どもを持った理由では「パートナーが子どもを望んでいた」の回答が女性に対し高い傾向にあり、男女での差が見られる。

サマリ～複数子どもを持つことへの意向と課題～

【理想と実際に持つと思う子どもの数、ギャップの要因】

理想とする子どもの人数、実際に持つと思う子どもの人数ともに「2人」が最も高い結果となった。

「1人」を理想とする人は、実際に持つと思う人数を理想の数が上回ったが、「2人」「3人以上」を理想とする人は、実際に持つと思う人数が理想を下回った。（「2人」は約16pt、「3人以上」は約12ptの差）

また、現在の子どもの数別の理想の子どもの数の回答では、現在の子どもが2人層で「理想通り」の回答が6割を占める。

一方、現在の子どもの数が3人層では、理想より「多い」の回答が3割を超えている。

理想よりも実際に持つと思う子どもの人数が少ない理由は、子どもを望まない理由同様に「経済的な負担が大きいから（養育費、教育費）」が最も高く、次いで「給与水準が低く経済的余裕がないから」が続く。

「給与水準が低く経済的余裕がない」は男性26-45歳と、非正規雇用において高い傾向にある。

また、居住区分別では、「経済的な負担が大きい」が東京23区でやや高く、町村で低い結果となった。

【3人以上の子どもを持つことに対する意向】

3人以上の子どもを持たない・持ちたくない理由は「経済的負担が大きいから（養育費、教育費など）」が最も高い。

女性は加えて、「育児のストレスが増える」の回答がいずれの年代においても男性よりも高い。

反対に、3人以上の子どもを持った・持ちたい理由は「兄弟・姉妹が多い環境で育てたいから」が47%と突出して高い。

現在子どもが3人以上いる層では、子どもなしや現在の子どもが2人以下の層に対し、上記理由の割合は大きく下回り、

「特に明確な理由はない・わからない」が約3割を占めている。

自身・世の中ともに3人以上の子どもを持つことを可能にする条件は「賃金の上昇」が最も高い。

次いで「教育費の無料化・支援の拡大」「子どもの人数に応じた支援や補助」「出産・子育てに対する公的支援の強化」があげられ、出産・育児や、子どもに関連する公的支援が求められている。

サマリ～出産・育児支援への希望～



【出産・子育てに対する障害・影響度】

地域で子育てをする上での障害は「生活コストの高さ(家賃、食費など)」、「子育てにかかる費用の高さ」と高く、コストが主な障害となっている。

特に東京23区では「生活コストの高さ」が4割にのぼり、居住区分による差がみられる。

【企業】職場環境(給与水準、労働時間、職場の雰囲気、上司・同僚の理解)と、【国】制度(児童手当、育児休業給付金など)の「影響がある計」がともに55%を超え、上位2項目としてあげられる。

性年代別では、いずれも女性で「影響を与える」という認識が強く、【国】環境整備(保育所の整備、労働法制の改革など)や【企業】支援制度(育児休暇、時短勤務、住宅勤務制度など)が女性26-45歳で高く、【企業】職場環境は女性36-45歳で6割強となる。

【子どもを産み育てやすい社会にするためには】

今後日本が子どもを産み育てやすい社会になるためには、国(政府)の社会的責任や役割が最も重要であると考えられており、企業と地方自治体が続く。

現状の子どもの数別では、2人や3人以上になると各主体に対する責任や役割が重要という意識が強くなる傾向があり、国(政府)については7割を超え、3人以上では企業や地方自治体についても7割に近い。

地域で子育ての障害を解消するために欲しい取り組みとしては「子育て世帯への経済的支援の拡充」、出産や子育てをしやすくするために企業が力を入れるべきことは「賃金の引き上げ」が最も高い。

女性26-35歳では地域での子育ての障害解消のためには「在宅勤務・テレワークの普及促進」が2番目に高く、企業が力を入れるべきことでは女性26-45歳で「短時間勤務制度の導入・利用促進」において3割以上と高くなっているため、「賃金の引き上げ」に加えて、女性の出産後の社会復帰に対する意欲や、育児と仕事の両立に対する意向が高くみられる。

【未婚者】結婚の意向

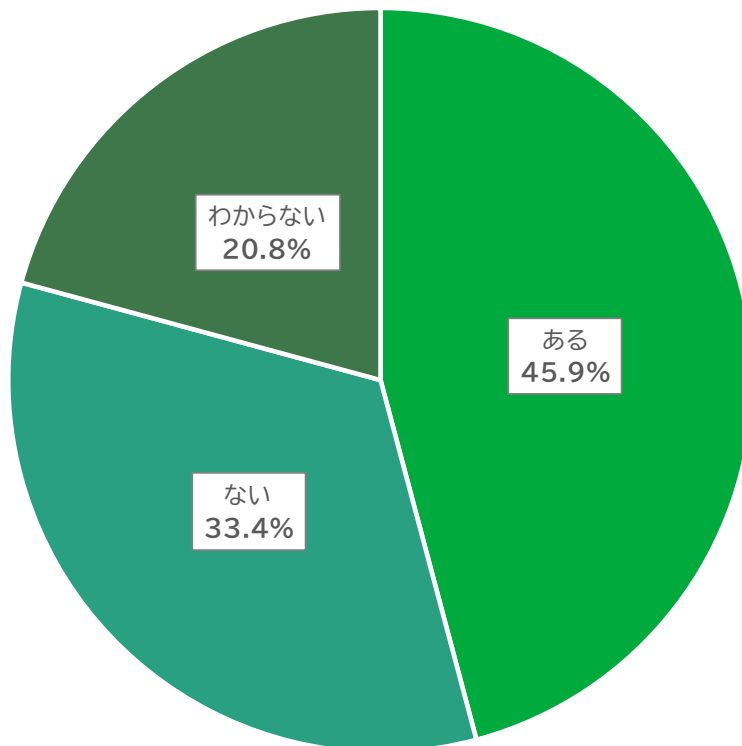
【未婚者】

将来の結婚の意向・現実的な結婚の見込み

結婚意向が「ある」人は46%と半数弱で、「ない」(33%)は3分の1程度。「わからない」は21%。
現実的な結婚の見込みについては、「結婚すると思う」が27%で、「結婚しないと思う」(39%)を下回る。「わからない」が34%。
意向に対して、現実の見込みの方が低くなっている。

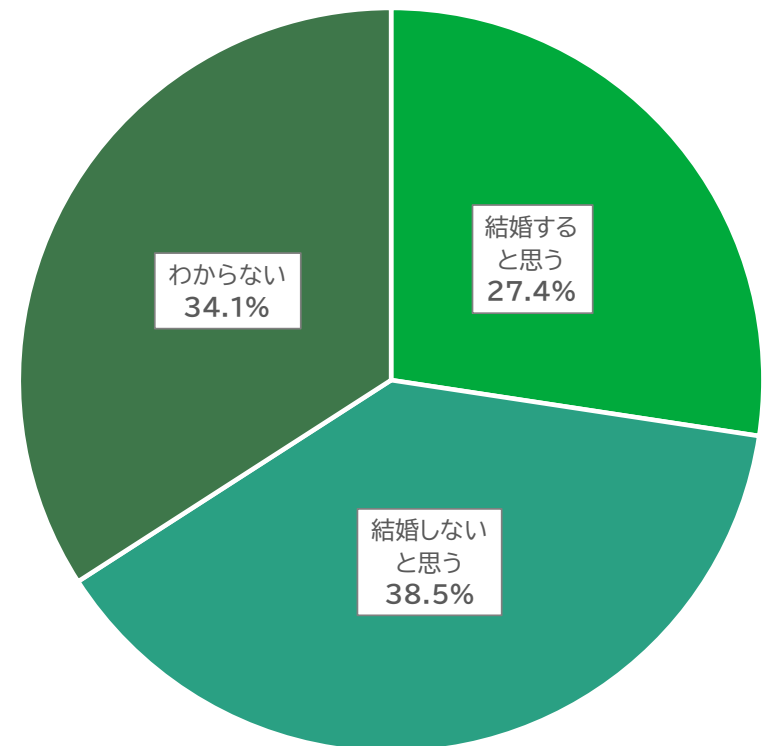
Q01. 将来、結婚したいという気持ちはありますか。

(n=3,935)



Q02. 現実的なことを考えて、生涯でご自身が実際に結婚すると思いますか。

(n=3,935)



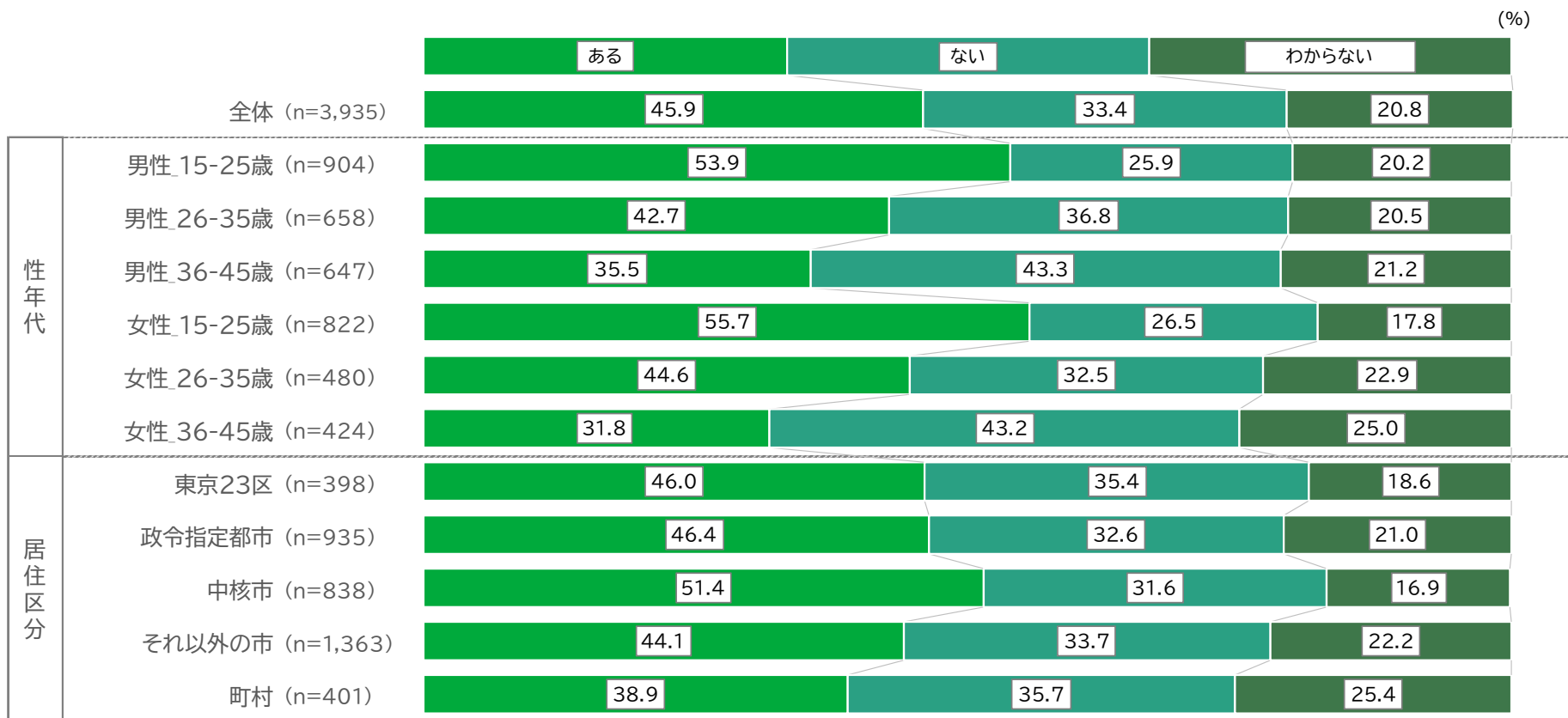
【未婚者】

将来の結婚の意向



結婚の意向について性年代別で見ると、男女とも若年層ほど「ある」の割合が高く、15-25歳では5割を超える。36-45歳では「ない」が4割を超え、「ある」の割合を上回る。各年代とも男女差は小さい。居住区分別で見ると、「ある」の割合は中核市で5割強と最も高く、町村で4割弱と最も低い。東京23区、政令指定都市、それ以外の市では「ある」の割合が45%前後で、大きな差はない。

Q01. 将来、結婚したいという気持ちはありますか。



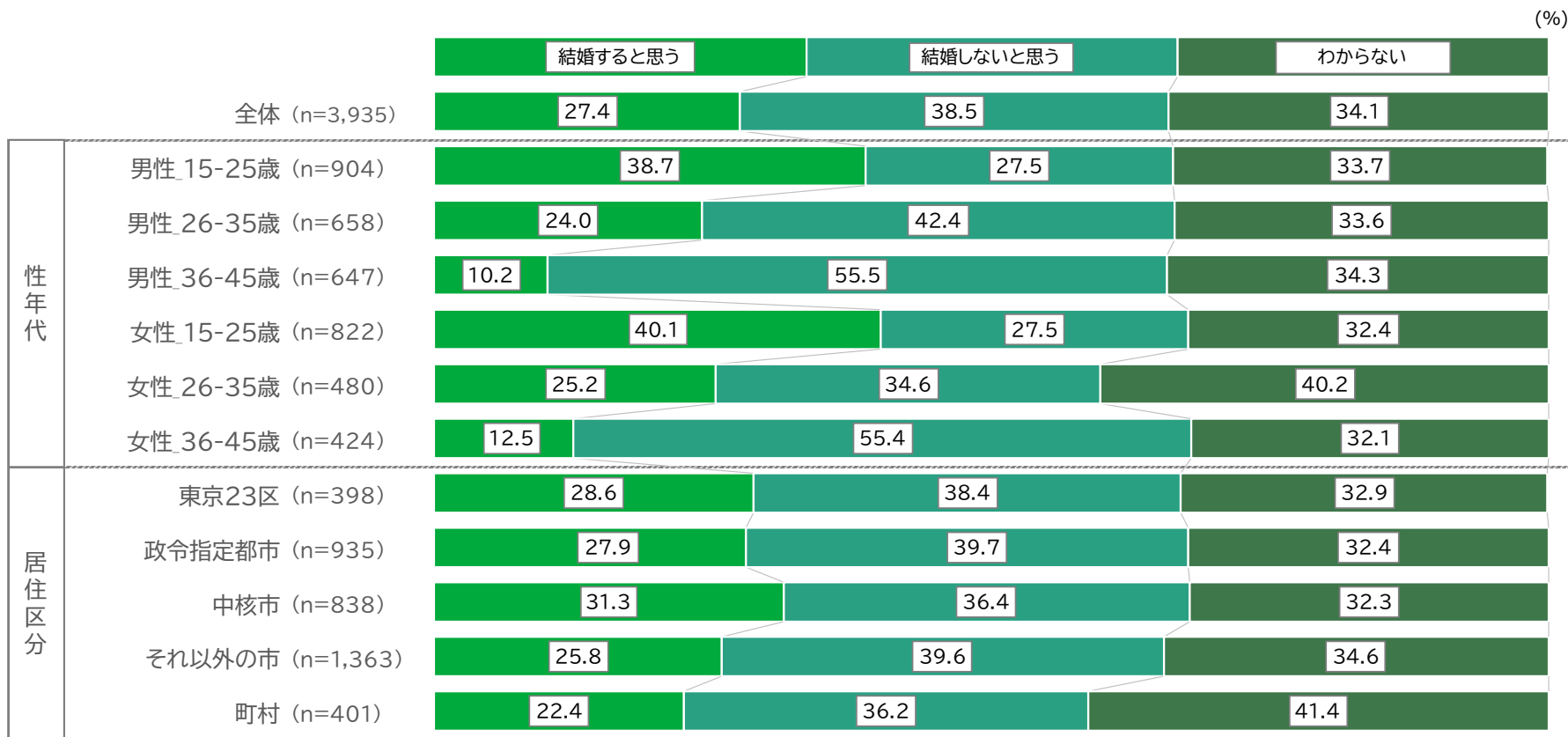
【未婚者】

現実的な結婚の見込み



現実的な結婚の見込みを性年代別でみると、男女とも若年層ほど「結婚すると思う」の割合が高く、15-25歳では約4割。36-45歳では「結婚しないと思う」が5割を超え、女性26-35歳では「わからない」が4割で最も多い。居住区分別でみると、東京23区、政令指定都市、中核市では「結婚すると思う」が3割前後で、町村では2割強とやや低い。

Q02.現実的なことを考えて、生涯でご自身が実際に結婚すると思いますか。

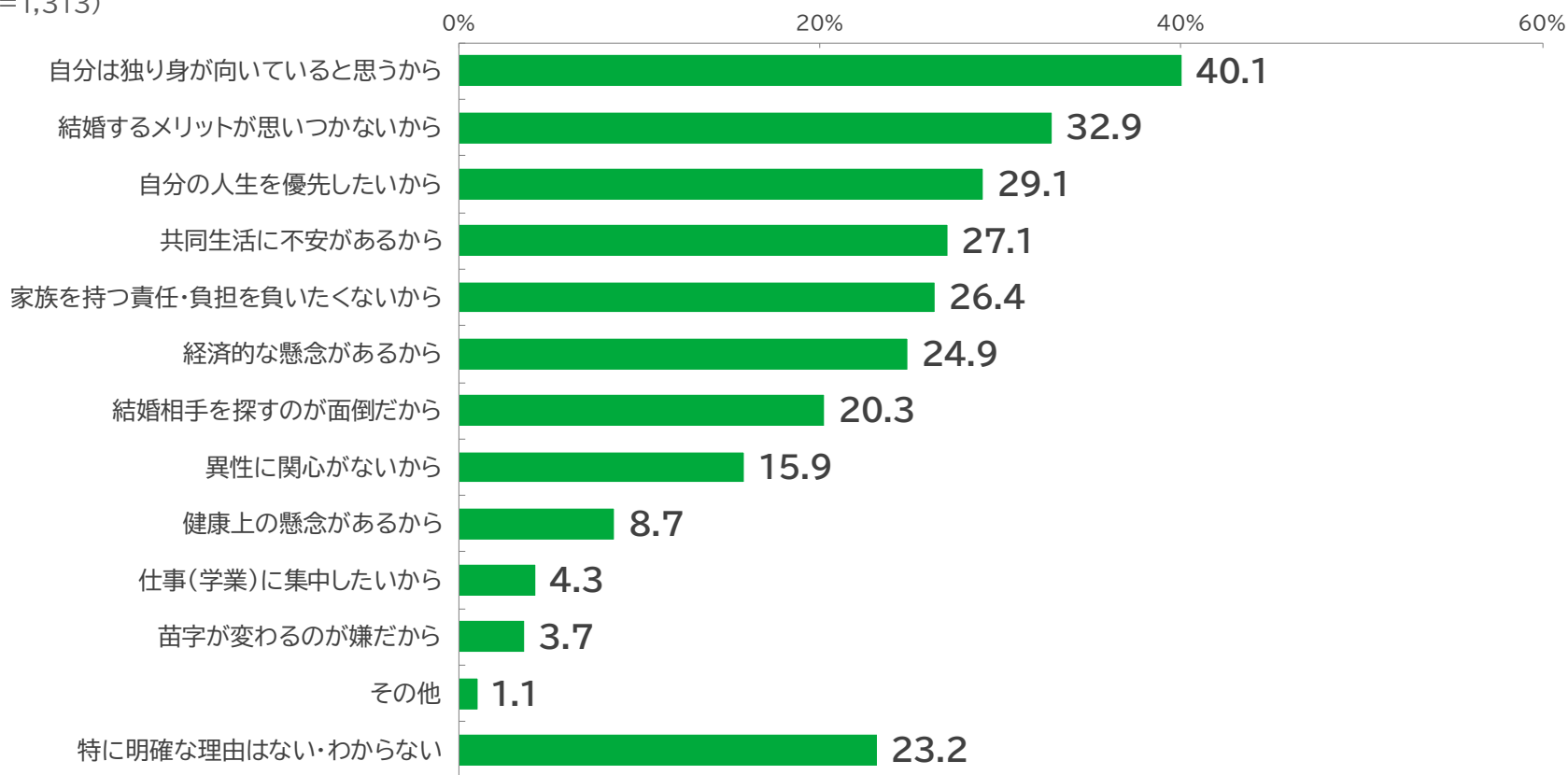


【未婚&結婚を希望しない人】 結婚を希望しない理由①

「自分は独り身が向いていると思うから」(40%)が最も多く、以下「結婚するメリットが思いつかないから」(33%)、「自分の人生を優先したいから」(29%)と続く。「特に明確な理由はない・わからない」が2割を超える。

Q03.あなたが結婚を希望しない理由はなんですか。

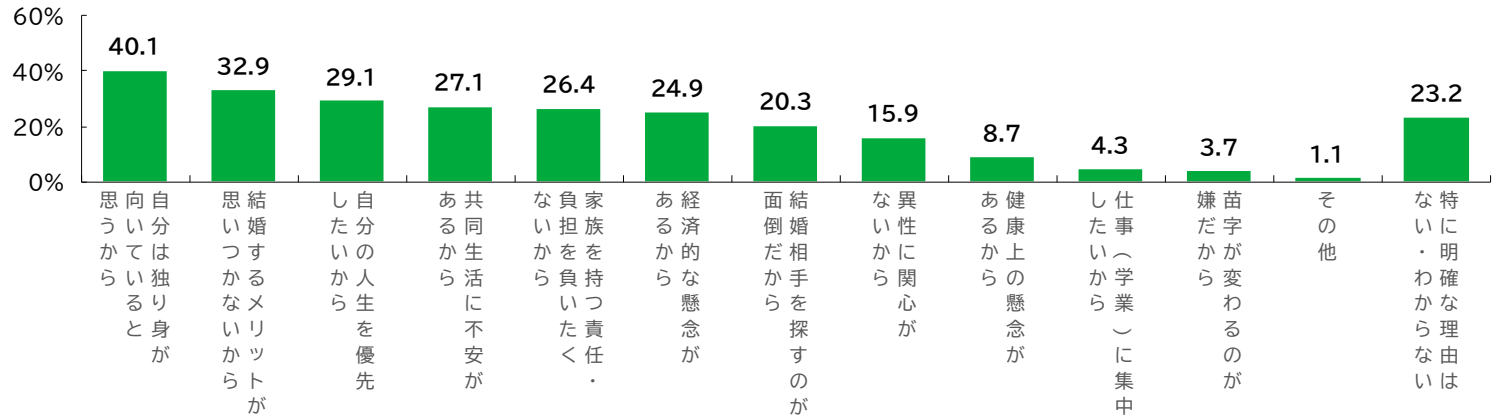
全体 (n=1,313)



【未婚&結婚を希望しない人】 結婚を希望しない理由②

性年代別でみると、「経済的な懸念がある」は各年代とも男性の方が高く、特に男性26-45歳では2番目に多くなっている。女性36-45歳では「自分は独り身が向いていると思う」が5割を超えるなど他層より高い割合の項目が多く、理由が明確である傾向。「異性に関心がない」は各年代とも女性の方が高い。居住区分別でみると、理由が不明確な人の割合は町村で4割強と特に高く、東京23区でも他層より高い。正規/非正規別でみると、非正規雇用では「経済的な懸念がある」が3割強で、正規雇用層に比べて高いのが目立つ。

Q03.あなたが結婚を希望しない理由は何ですか。



		全体 (n=1,313)	40.1	32.9	29.1	27.1	26.4	24.9	20.3	15.9	8.7	4.3	3.7	1.1	23.2	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=234)	30.8	27.4	25.2	20.1	25.2	23.9	17.1	11.1	6.4	5.1	0.9	0.9	29.9		
	男性 26-35歳 (n=242)	40.1	30.2	32.6	25.6	25.2	35.5	21.5	7.9	9.9	4.5	2.5	0.8	26.9		
	男性 36-45歳 (n=280)	42.5	31.8	23.6	25.4	27.5	36.1	16.8	10.0	10.0	1.8	1.1	1.1	21.4		
	女性 15-25歳 (n=218)	31.2	33.9	32.6	22.0	26.1	13.3	20.2	24.3	4.6	7.8	6.0	1.8	24.3		
	女性 26-35歳 (n=156)	43.6	37.2	28.2	31.4	24.4	14.7	22.4	19.2	7.7	5.1	8.3	0.0	23.1		
	女性 36-45歳 (n=183)	56.3	40.4	34.4	43.2	29.5	17.5	26.8	29.0	13.7	2.2	6.6	1.6	11.5		
居住区分	東京23区 (n=141)	32.6	25.5	23.4	24.1	20.6	17.0	15.6	9.2	5.7	5.7	7.1	0.0	27.0		
	政令指定都市 (n=305)	45.9	35.1	32.8	31.8	24.9	21.6	23.6	21.0	9.2	3.9	4.9	2.0	19.3		
	中核市 (n=265)	40.0	34.7	32.5	24.2	26.8	26.0	20.8	15.5	7.2	4.5	2.6	1.1	21.5		
	それ以外の市 (n=459)	43.4	34.9	28.8	29.8	31.2	29.8	22.0	15.9	10.5	4.8	3.3	0.9	19.6		
	町村 (n=143)	25.2	25.9	21.7	16.8	18.9	21.7	11.9	12.6	7.7	2.1	1.4	0.7	42.7		
正 / 正規 非正規	正規雇用 (n=408)	40.2	37.5	30.6	25.0	24.5	18.1	21.3	13.2	5.1	3.2	4.2	0.7	21.1		
	非正規雇用 (n=277)	45.1	32.9	26.0	30.0	26.7	31.8	21.3	17.3	14.1	4.3	5.4	0.4	19.5		

■ : 全体より+5ポイント以上

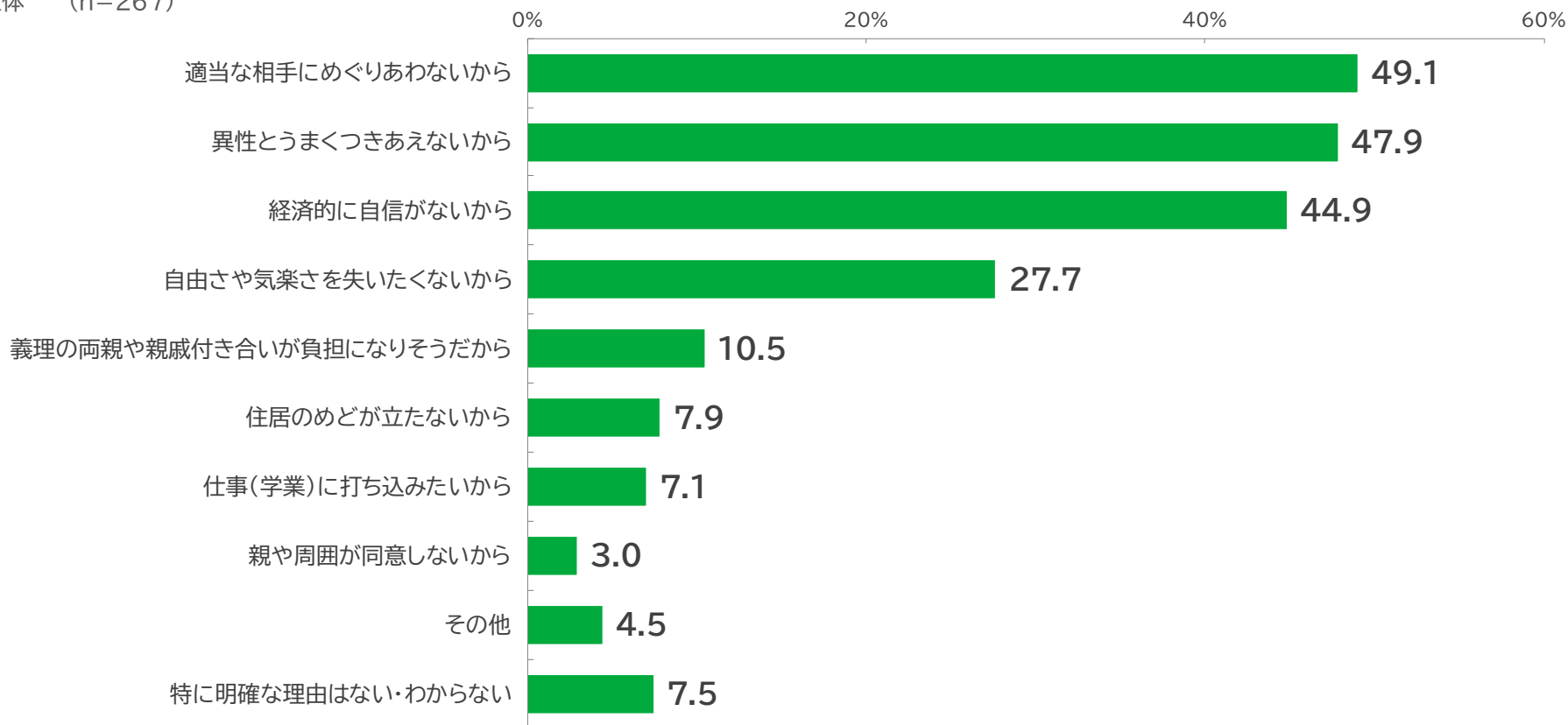
■ : 全体より-5ポイント以下

【未婚&結婚意向あるが現実的にはしないと思う人】 結婚意向有で結婚しないと思う理由①

「適当な相手にめぐりあわないから」(49%)、「異性とうまくつきあえないから」(48%)、「経済的に自信がないから」(45%)が上位に並ぶ。

Q04.結婚願望はあるものの、実際は結婚しないと思う理由は何ですか。

全体 (n=267)



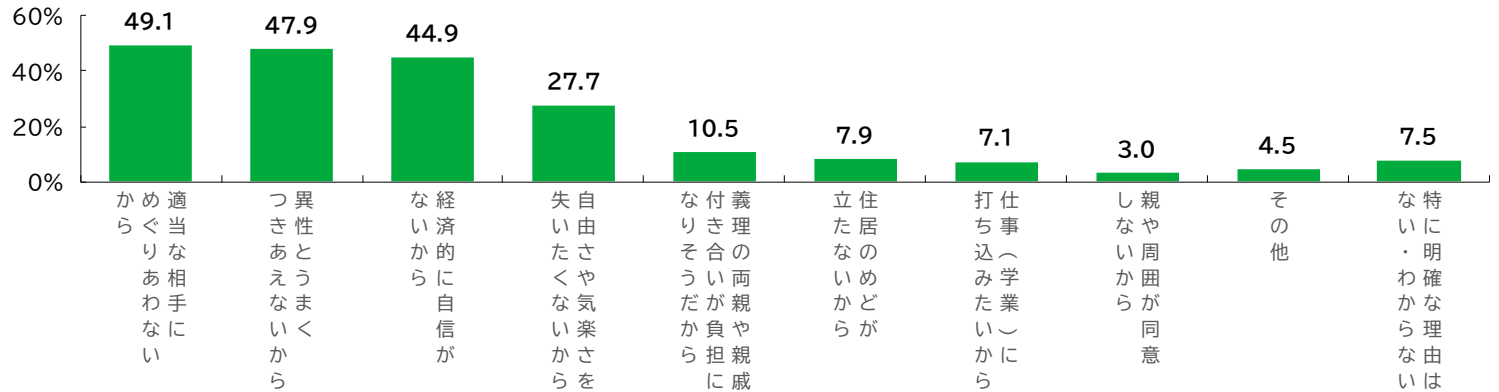
【未婚&結婚意向あるが現実的にはしないと思う人】

結婚意向有で結婚しないと思う理由②



性年代別でみると、「適当な相手にめぐりあわない」は男女とも36-45歳で高い。「異性とうまくつきあえない」は男性15-25歳、女性26-35歳で、「経済的に自信がない」は男性26-45歳でそれぞれ高い。居住区分別でみると、政令指定都市で「異性とうまくつきあえない」が高め。正規/非正規別でみると、上位2項目では正規雇用の割合が高く、非正規雇用を大きく上回る。非正規雇用では「義理の両親や親戚付き合いが負担になりそう」などが正規雇用より高い。(一部回答者数が少ないため参考値)

Q04. 結婚願望はあるものの、実際は結婚しないと思う理由はなんですか。



		49.1	47.9	44.9	27.7	10.5	7.9	7.1	3.0	4.5	7.5	(%)
全体 (n=267)		49.1	47.9	44.9	27.7	10.5	7.9	7.1	3.0	4.5	7.5	
性年代	男性 15-25歳 (n=54)	44.4	57.4	35.2	27.8	5.6	7.4	9.3	3.7	1.9	7.4	
	男性 26-35歳 (n=46)	41.3	45.7	63.0	19.6	6.5	6.5	8.7	4.3	4.3	4.3	
	男性 36-45歳 (n=66)	54.5	47.0	57.6	30.3	10.6	10.6	0.0	0.0	7.6	10.6	
	女性 15-25歳 (n=47)	44.7	42.6	34.0	25.5	12.8	10.6	17.0	6.4	4.3	8.5	
	女性 26-35歳 (n=23)	52.2	56.5	39.1	34.8	21.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	
	女性 36-45歳 (n=31)	61.3	38.7	29.0	32.3	12.9	3.2	3.2	0.0	3.2	6.5	
居住区分	東京23区 (n=26)	50.0	50.0	50.0	34.6	7.7	0.0	3.8	3.8	0.0	7.7	
	政令指定都市 (n=64)	50.0	54.7	42.2	26.6	6.3	7.8	3.1	3.1	3.1	7.8	
	中核市 (n=63)	47.6	44.4	46.0	28.6	14.3	7.9	12.7	3.2	4.8	3.2	
	それ以外の市 (n=92)	51.1	47.8	43.5	25.0	9.8	7.6	4.3	2.2	6.5	8.7	
	町村 (n=22)	40.9	36.4	50.0	31.8	18.2	18.2	18.2	4.5	4.5	13.6	
正 / 正規 非 正規	正規雇用 (n=105)	54.3	45.7	41.0	32.4	7.6	8.6	2.9	3.8	3.8	5.7	
	非正規雇用 (n=42)	35.7	35.7	42.9	28.6	16.7	9.5	11.9	4.8	11.9	4.8	

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

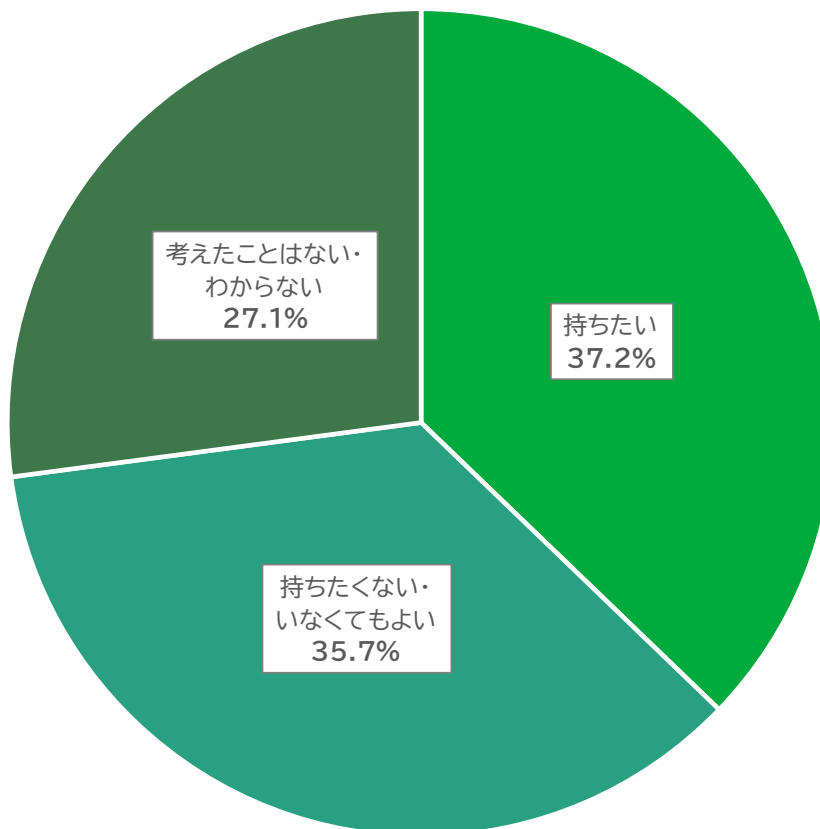
【子どもがいない人】子どもを持つ意向

【子どもがいない人】 将来的な子どもの希望①

子どもを「持ちたい」人は37%で、「持ちたくない・いなくてもよい」(36%)とほぼ同率。「考えたことはない・わからない」は27%。

Q05.あなたは、将来的に子どもを持ちたいと思いますか。

(n=4,431)



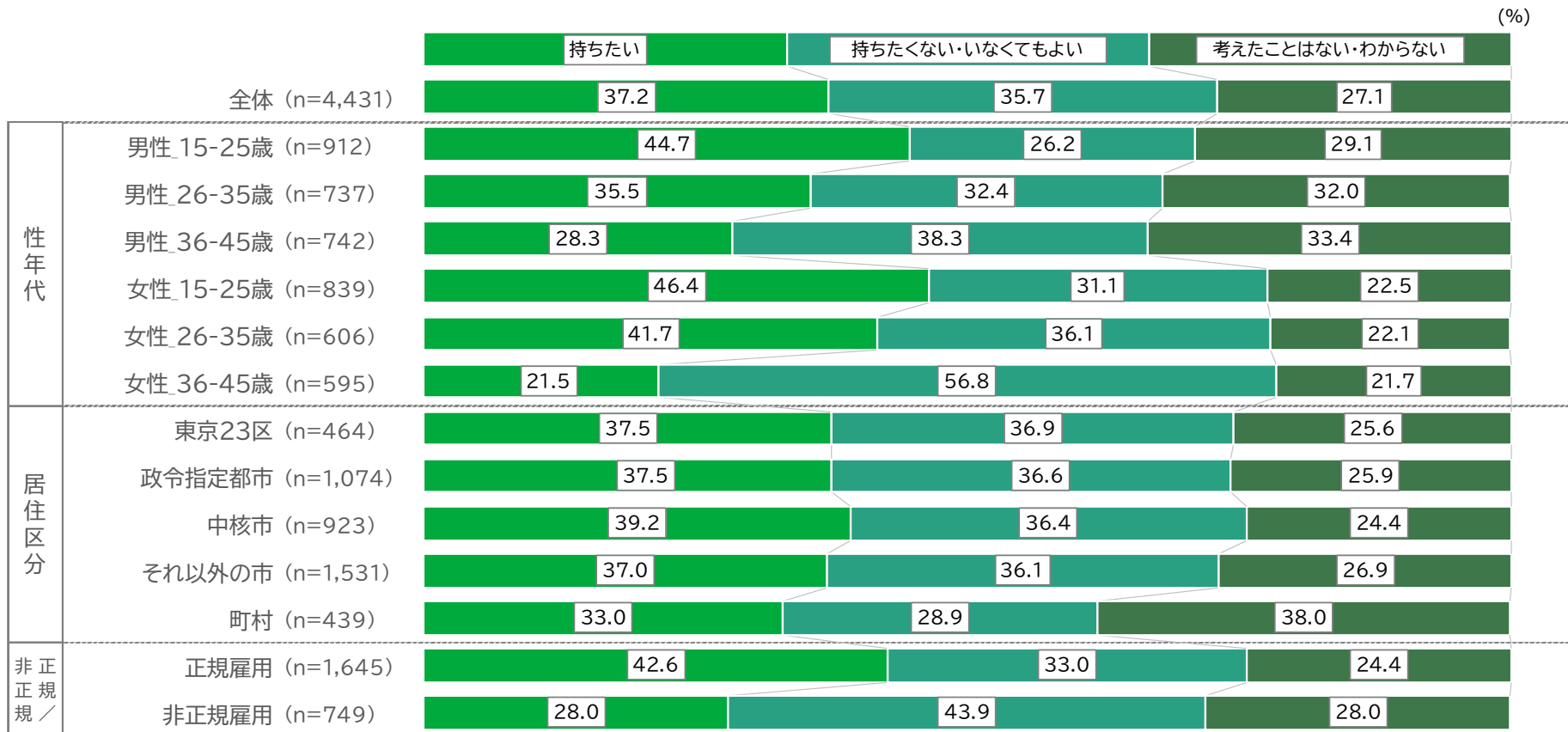
【子どもがいない人】

将来的な子どもの希望②



性年代別でみると、男女とも若年層ほど「持ちたい」の割合が高い。26-35歳では女性の方が「持ちたい」の割合が高いが、36-45歳では男性の方が高く、女性36-45歳では「持ちたくない・いなくてもよい」が5割を超える。居住区分別でみると、「持ちたい」の割合は町村でやや低い。正規/非正規別でみると、正規雇用では「持ちたい」が4割強だが、非正規雇用では「持ちたくない・いなくてもよい」が4割強を占める。

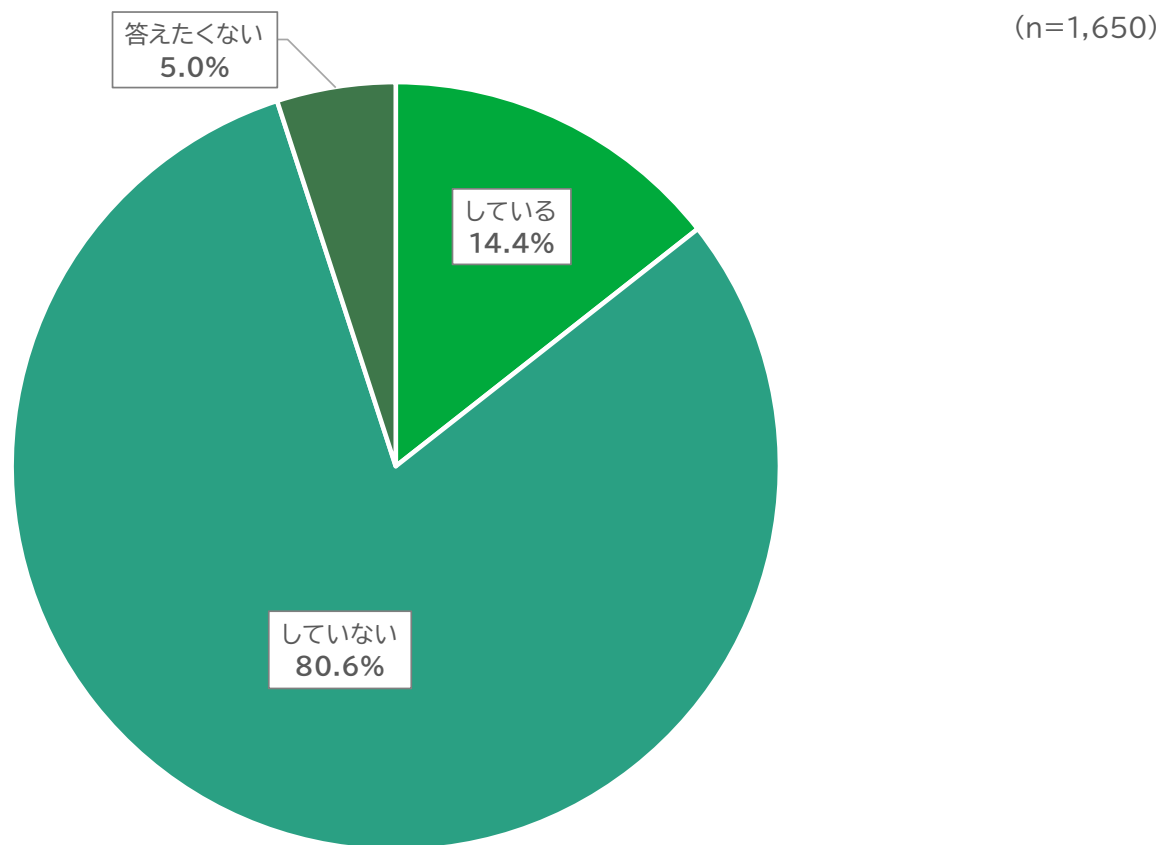
Q05.あなたは、将来的に子どもを持ちたいと思いますか。



【子どもがいない&子どもを持ちたい人】 (子どもを持ちたい人)妊活の有無

子どもを持ちたい人で妊活を「している」のは14%。

Q5SQ.あなたは現在子どもを持つための活動(妊活など)をしていますか。



【子どもを望まない人】子どもを望まない理由

【子どもがいない&子どもを望まない人】

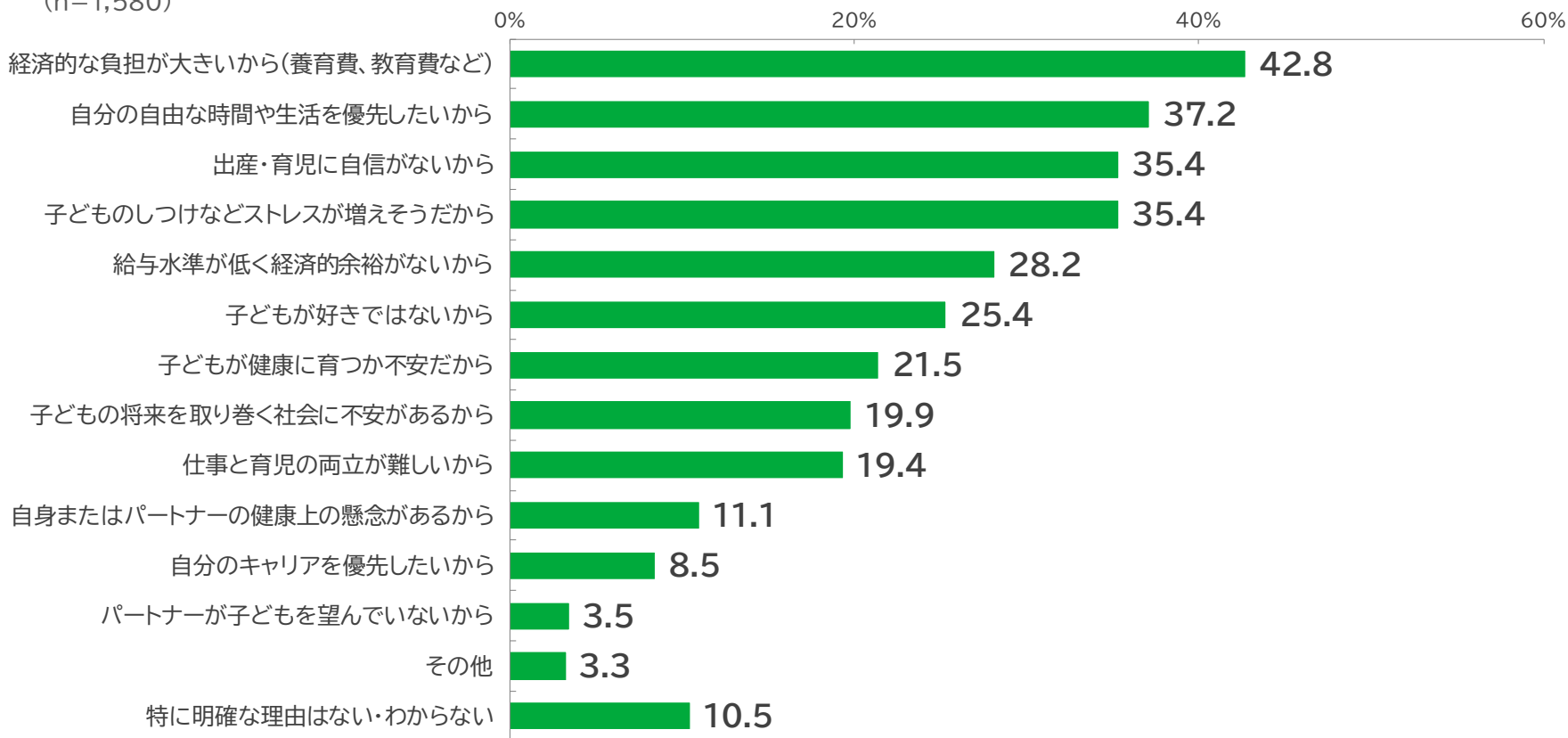
子どもを持ちたくない理由①



「経済的な負担が大きいから」(43%)が最も多く、以下「自分の自由な時間や生活を優先したいから」(37%)、「出産・育児に自信がないから」、「子どものしつけなどストレスが増えそうだから」(ともに35%)と続く。

Q06.あなたが、将来「子どもを持ちたくない・いなくてもよい」と思う理由は何ですか。

全体 (n=1,580)

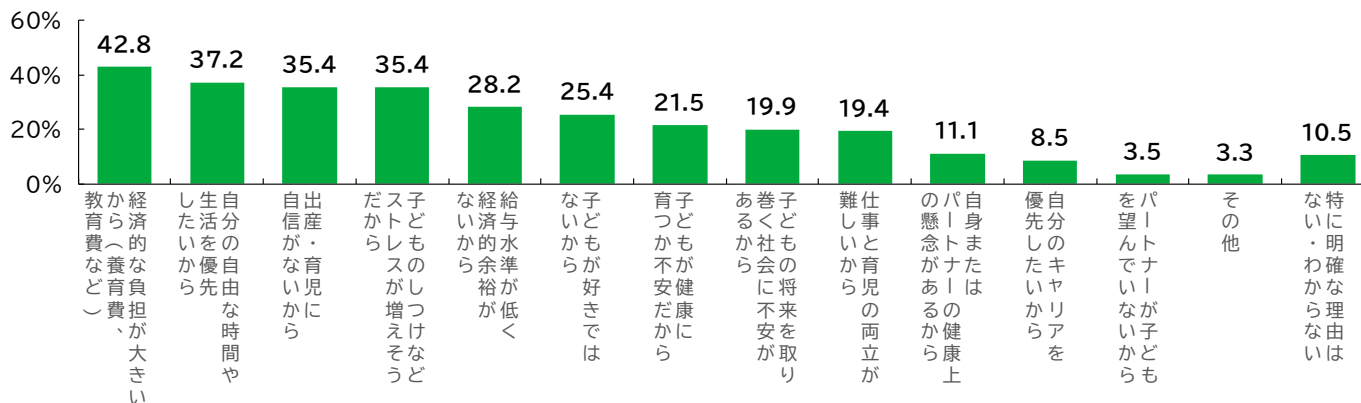


【子どもがいない&子どもを望まない人】

子どもを持ちたくない理由②

性年代別でみると、「自分の自由な時間や生活を優先したい」「出産・育児に自信がない」「子どものしつけなどストレスが増えそう」の割合は女性で高くなっている。「給与水準が低く経済的余裕がない」は男性26-45歳、女性26-35歳で高い。居住区分別でみると、町村では「子どもが健康に育つか不安」が他層より高い。正規/非正規別でみると、非正規雇用で「出産・育児に自信がない」「給与水準が低く経済的余裕がない」などが高い。

Q06.あなたが、将来「子どもを持ちたくない・いなくてもよい」と思う理由は何ですか。



		全体 (n=1,580)	42.8	37.2	35.4	35.4	28.2	25.4	21.5	19.9	19.4	11.1	8.5	3.5	3.3	10.5
性年代	男性 15-25歳 (n=239)	35.6	34.3	25.9	28.0	20.5	18.0	19.7	15.5	19.2	9.2	10.9	4.6	2.1	14.2	
	男性 26-35歳 (n=239)	47.3	39.7	27.6	38.9	34.3	27.6	21.3	20.9	20.9	12.6	8.4	4.6	2.1	10.9	
	男性 36-45歳 (n=284)	38.4	27.5	22.2	28.2	32.4	15.8	17.3	17.3	13.0	8.8	3.2	2.8	2.1	17.6	
	女性 15-25歳 (n=261)	46.7	42.5	49.0	41.0	20.3	29.1	20.7	19.2	24.5	10.3	16.9	1.9	1.1	6.5	
	女性 26-35歳 (n=219)	45.7	43.4	43.8	41.1	36.1	29.7	26.0	26.0	26.5	10.5	7.3	3.2	4.1	7.3	
	女性 36-45歳 (n=338)	43.5	37.3	42.9	36.4	26.6	31.7	24.0	21.0	15.1	14.5	5.6	4.1	7.1	6.8	
居住区分	東京23区 (n=171)	38.6	40.4	31.6	33.9	22.2	26.3	18.1	24.0	18.1	8.2	13.5	4.7	2.9	12.3	
	政令指定都市 (n=393)	46.1	39.4	36.6	39.2	29.0	27.0	21.1	24.2	21.6	13.5	10.4	4.1	2.5	8.9	
	中核市 (n=336)	42.0	34.8	30.4	32.1	25.3	22.9	21.7	16.4	15.2	10.4	8.3	2.4	5.1	8.9	
	それ以外の市 (n=553)	42.5	36.7	38.2	35.3	31.1	26.8	21.3	18.4	19.7	11.2	5.6	3.4	2.5	10.5	
	町村 (n=127)	41.7	33.9	38.6	35.4	28.3	20.5	26.8	16.5	23.6	9.4	8.7	3.9	4.7	17.3	
非正規/正規	正規雇用 (n=543)	39.8	33.9	29.7	34.4	26.7	23.9	21.5	19.2	20.8	9.0	7.7	5.2	4.2	9.2	
	非正規雇用 (n=329)	44.4	35.3	37.7	38.9	37.4	26.1	21.9	21.0	20.4	14.3	6.1	3.0	2.1	9.7	

■ : 全体より+5ポイント以上

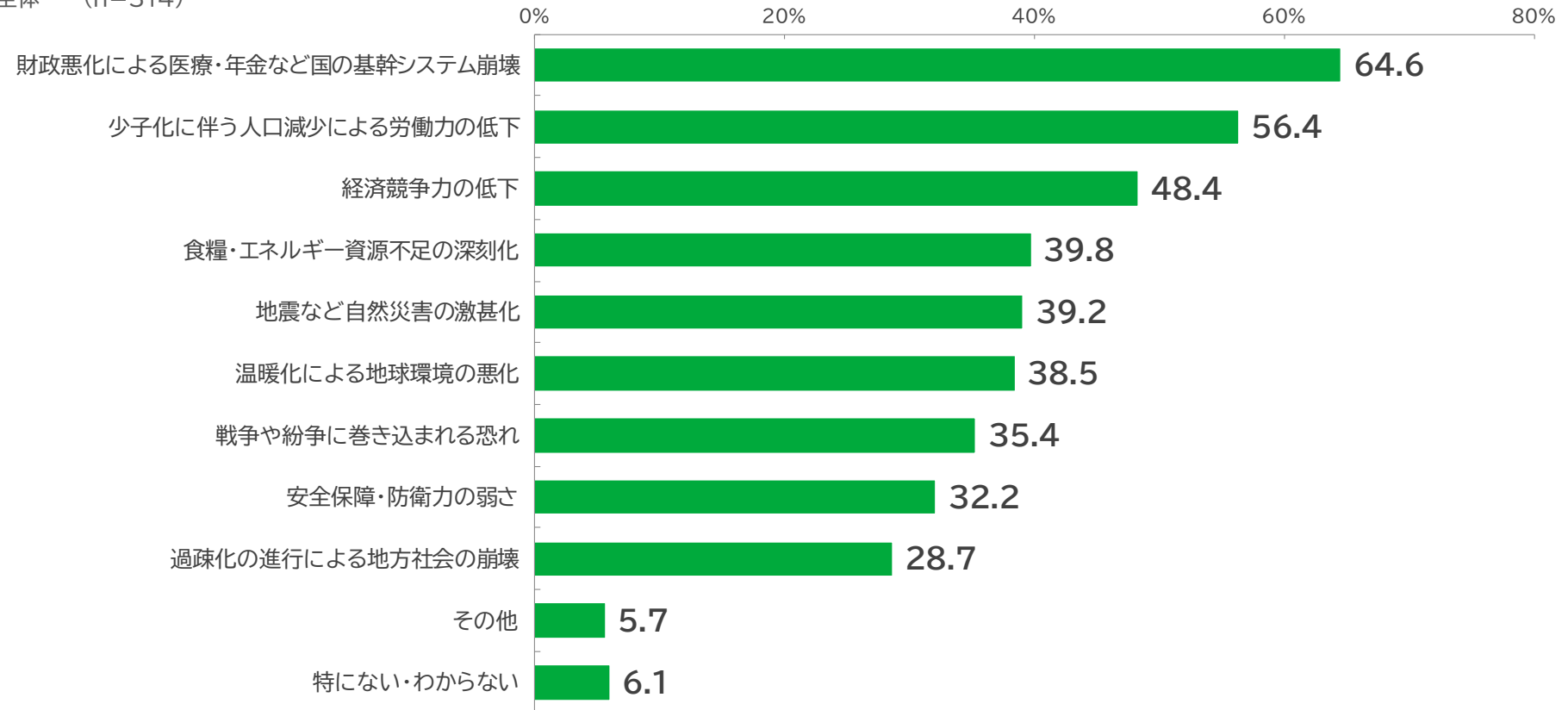
■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいない&子どもを望まない人(前問で「子どもの将来を取り巻く社会に不安がある」と回答した人)】 「子どもの将来を取り巻く社会に不安」を持つ理由

「財政悪化による医療・年金など国の基幹システム崩壊」(65%)が最も多く、以下「少子化に伴う人口減少による労働力の低下」(56%)、「経済競争力の低下」(48%)と続く。

Q6SQ.「子どもの将来を取り巻く社会に不安がある」とは具体的にどのような不安をもちますか。

全体 (n=314)



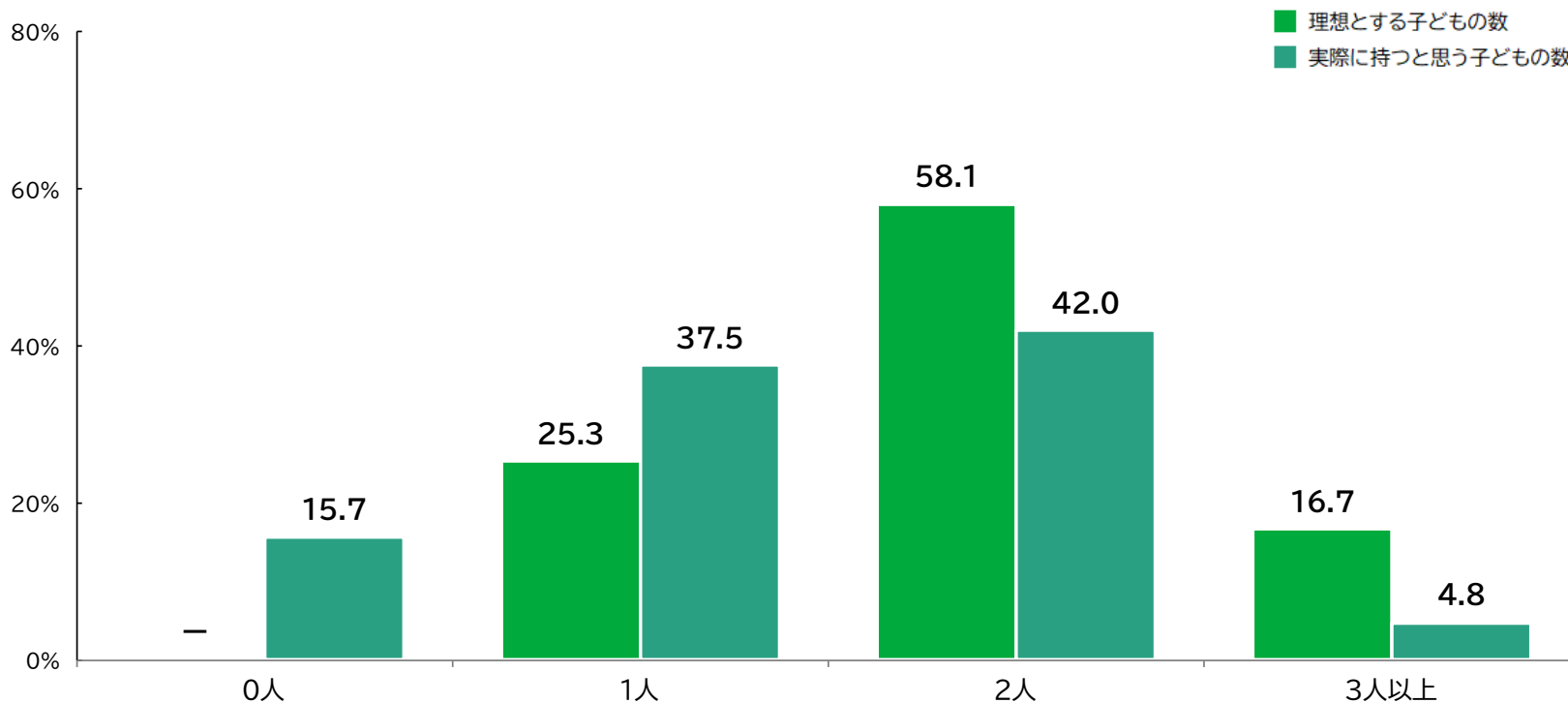
【子どもを望む人】理想の数と望む理由

【子どもがいない&子どもを望む人】 理想・実際に持つと思う子どもの人数①

子どもを持ちたいと思う人が理想とする子どもの人数は「2人」が58%で最も多く、「1人」が25%、「3人以上」が17%。実際に持つと思う子どもの人数でも「2人」(42%)が最多だが、「1人」(38%)との差は小さい。「0人」が16%を占め、「3人以上」は5%にとどまる。

Q7AB.あなたが理想とする子どもの人数は何人ですか。また、現実的に考えて、実際に生涯で持つと思う子どもの人数は何人ですか。
「実際に持つと思う子どもの数」は、理想の子どもの数と同じか、それ以下の人数をお答えください。

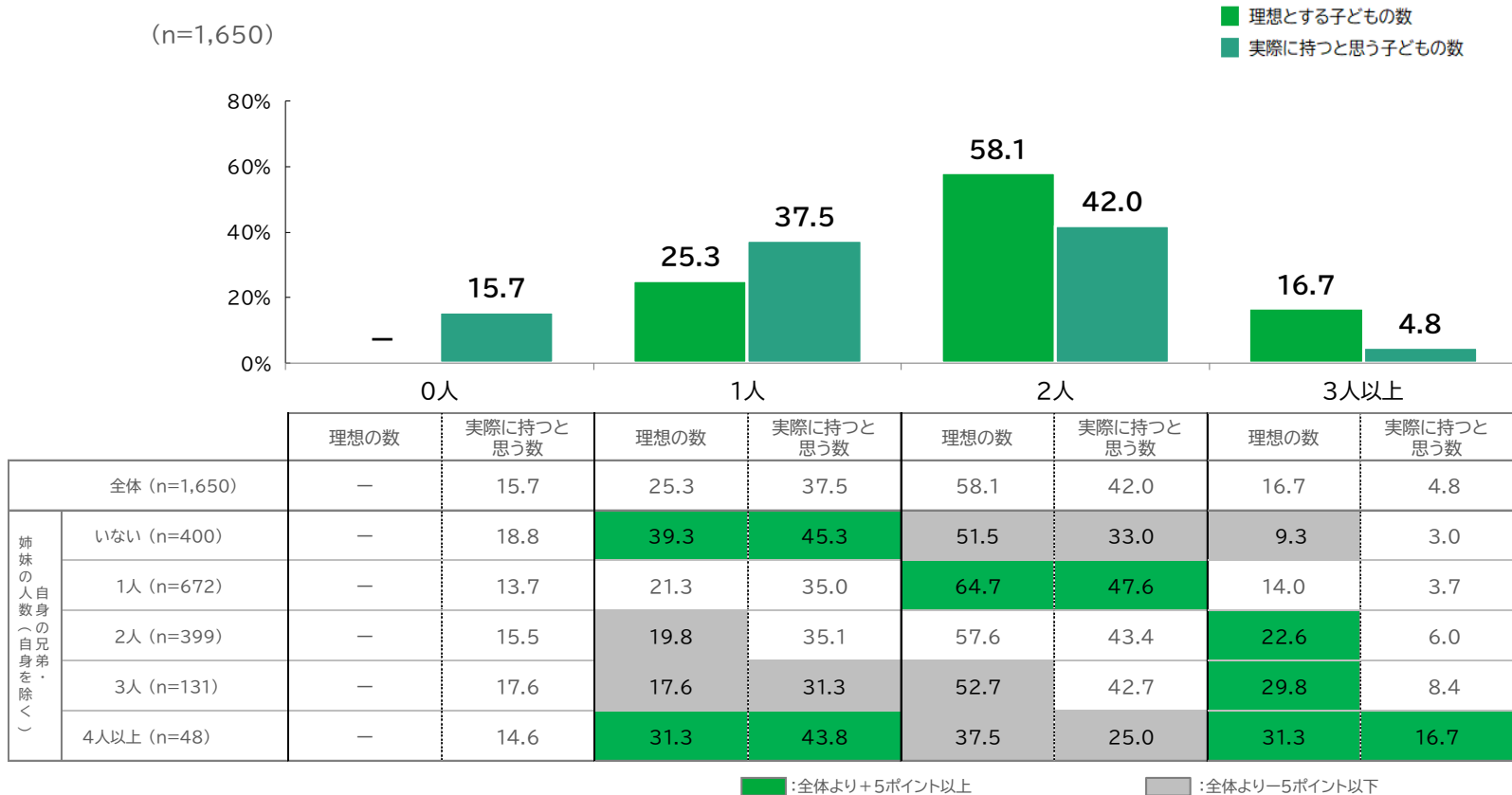
(n=1,650)



【子どもがいない&子どもを望む人】 理想・実際に持つと思う子どもの人数②

自身の兄弟・姉妹の人数(自身を除く)別にみると、兄弟・姉妹がいない人は理想と実際に持つと思う子どもの人数ともに「1人」、兄弟・姉妹が1人いる人は「2人」において全体より+5pt以上と高い。そして、兄弟・姉妹が2人以上になると、理想の子ども人数が「3人以上」の回答が全体よりも高い傾向にある。自身の兄弟の数と同じ人数の子どもを持ちたいという意向が伺える。ただ、兄弟・姉妹が「4人以上」の人は理想・実際に持つと思う子ども人数は「3人以上」に加え、「1人」と回答する割合も高い。

Q7AB.あなたが理想とする子どもの人数は何人ですか。また、現実的に考えて、実際に生涯で持つと思う子どもの人数は何人ですか。
「実際に持つと思う子どもの数」は、理想の子ども数と同じか、それ以下の人数をお答えください。



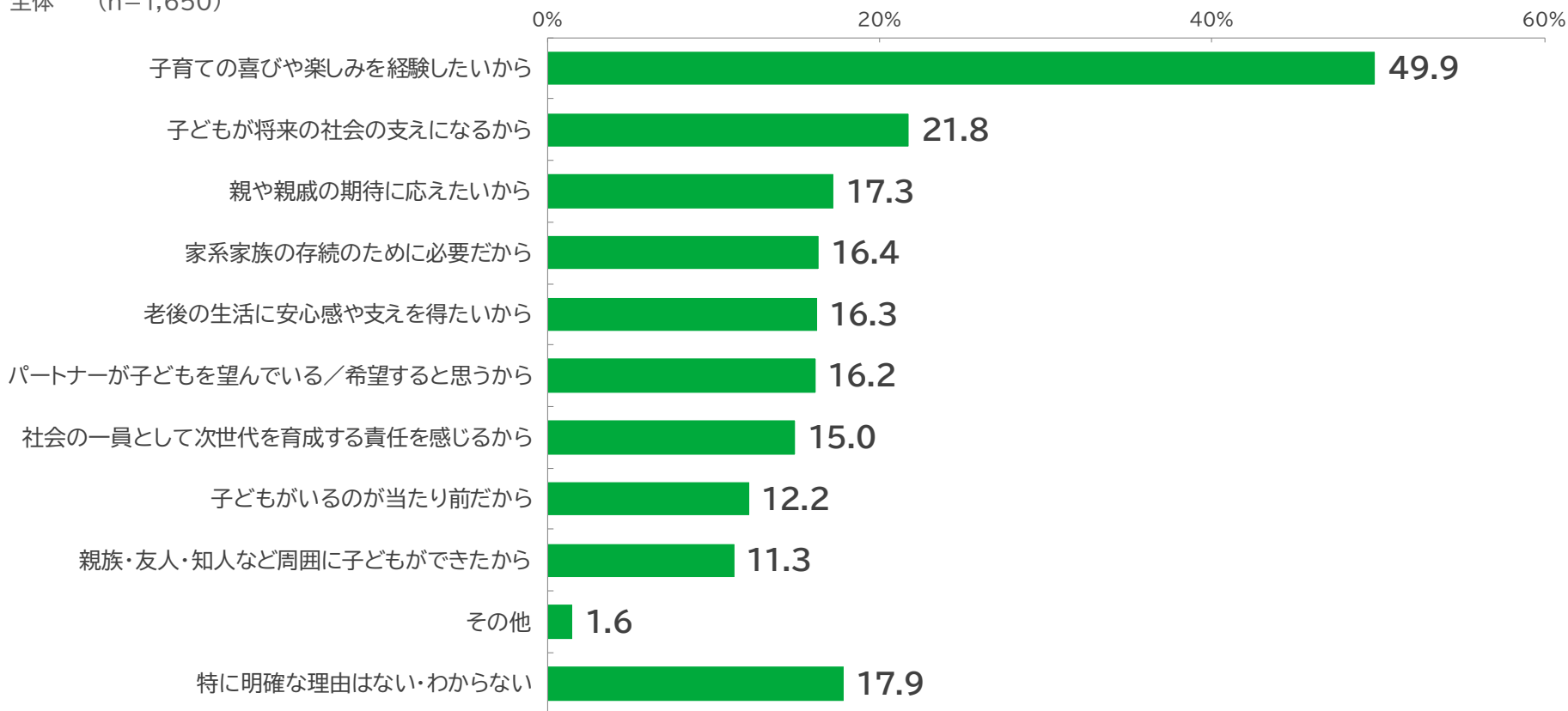
【子どもがいない&子どもを望む人】

子どもを望む理由①

「子育ての喜びや楽しみを経験したいから」(50%)が最も多く、突出して高くなっている。次いで多いのは「子どもが将来の社会の支えになるから」(22%)。

Q08.あなたが子どもを望む理由は何ですか。

全体 (n=1,650)



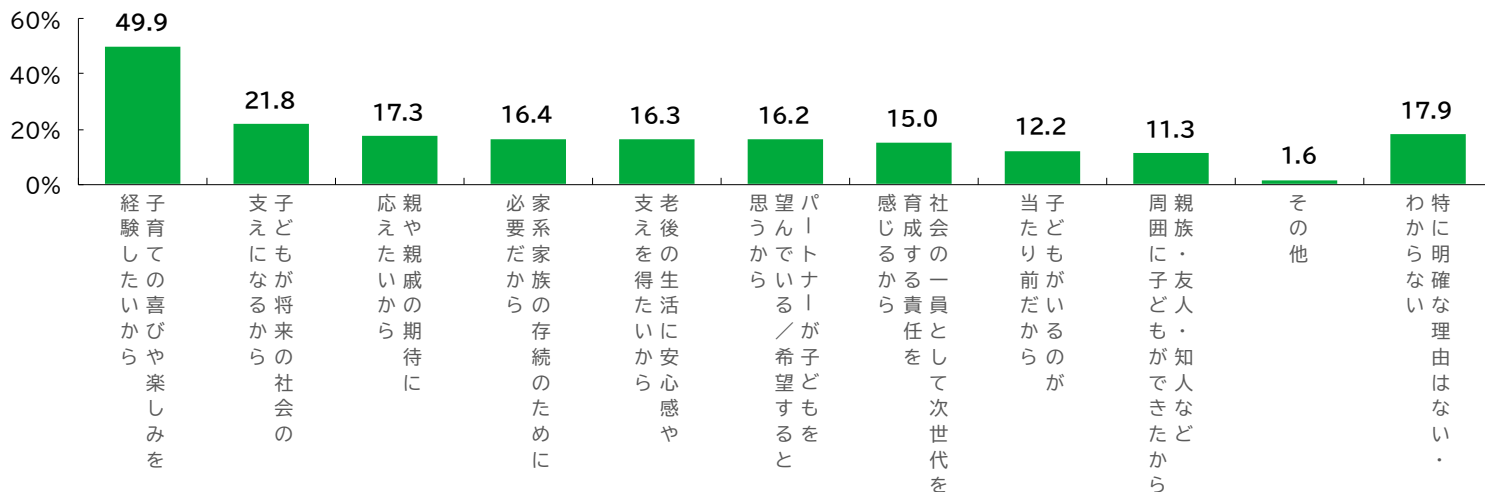
【子どもがいない&子どもを望む人】

子どもを望む理由②



性年代別でみると、「子育ての喜びや楽しみを経験したい」はいずれの年代でも女性の方が高いが、「子どもが将来の社会の支えになる」は女性の35歳以下では低い。また「家系家族の存続のために必要」はいずれの年代でも男性の方が高い。居住区分別でみると、町村では「子育ての喜びや楽しみを経験したい」が他層より低い。東京23区では「パートナーが子どもを望んでいる/希望すると思う」が他層より高め。

Q08.あなたが子どもを望む理由は何ですか。



		全体 (n=1,650)	49.9	21.8	17.3	16.4	16.3	16.2	15.0	12.2	11.3	1.6	17.9	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=408)	47.5	26.2	14.5	19.9	16.7	15.4	18.6	11.8	8.8	1.7	16.9		
	男性 26-35歳 (n=262)	43.5	27.5	21.8	20.6	15.6	22.5	24.0	11.8	14.1	1.1	16.4		
	男性 36-45歳 (n=210)	44.8	23.3	17.1	23.8	20.5	18.1	19.0	12.9	11.4	1.4	20.0		
	女性 15-25歳 (n=389)	57.6	16.5	10.5	11.8	14.1	12.6	9.8	12.9	7.7	1.5	18.3		
	女性 26-35歳 (n=253)	48.6	13.8	23.7	10.3	14.6	12.6	6.7	11.5	16.2	1.2	20.6		
	女性 36-45歳 (n=128)	58.6	25.0	25.8	10.9	19.5	20.3	10.2	12.5	14.1	3.9	14.1		
居住区分	東京23区 (n=174)	52.9	20.7	17.8	14.9	14.9	21.3	16.1	15.5	12.6	1.1	15.5		
	政令指定都市 (n=403)	49.4	19.9	17.9	15.9	17.9	16.4	13.2	11.7	12.2	2.0	17.6		
	中核市 (n=362)	50.8	24.0	17.7	16.3	16.3	13.5	15.5	12.4	12.7	0.8	18.2		
	それ以外の市 (n=566)	50.4	23.3	17.7	17.1	16.8	15.7	15.5	12.9	9.7	1.9	17.0		
	町村 (n=145)	44.1	16.6	13.1	17.2	11.7	17.9	15.2	6.2	9.7	2.1	24.1		

■ : 全体より+5ポイント以上

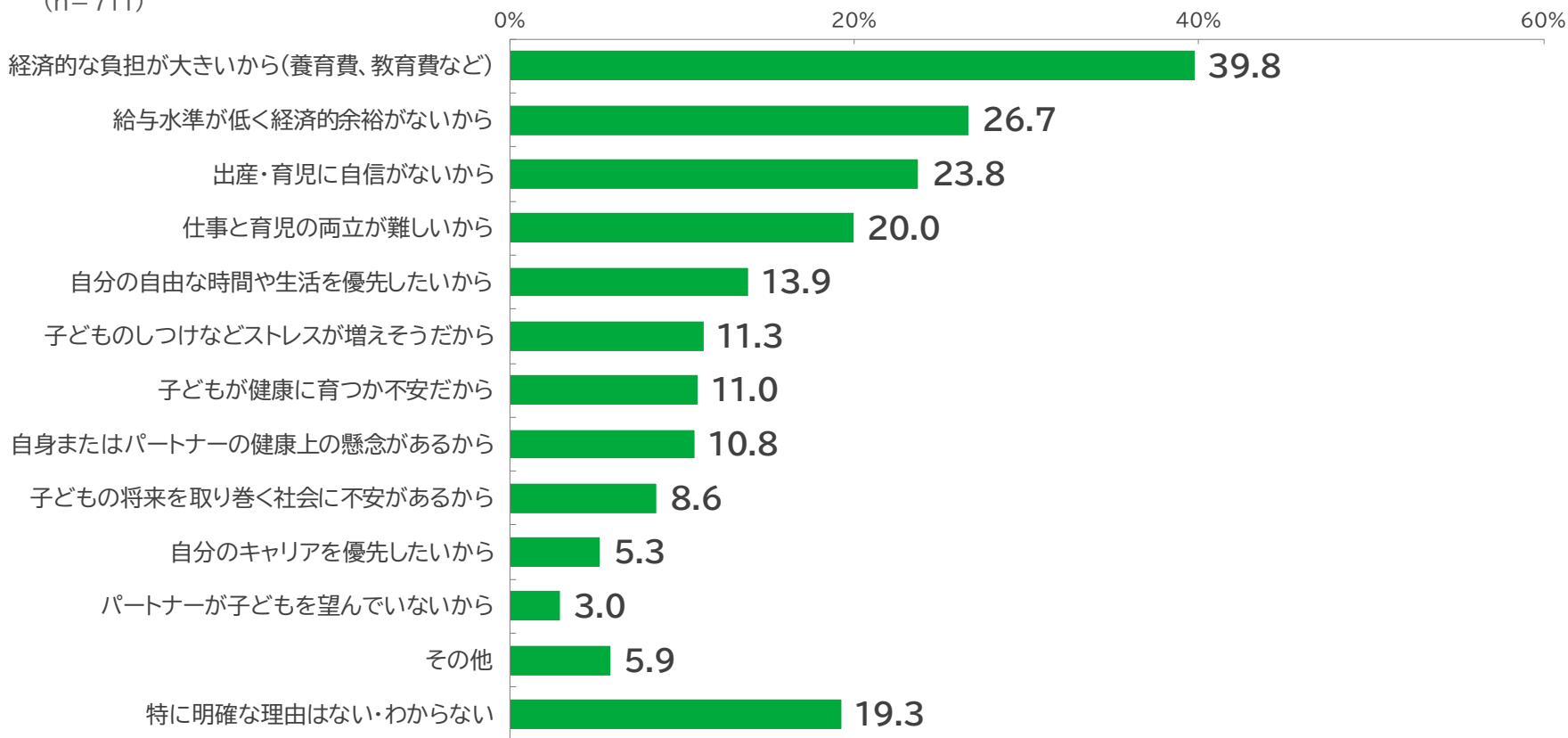
■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいない&理想より実際に持つと思う子どもの数が少ない人】 理想より実際に持つと思う子どもの人数が少ない理由①

「経済的な負担が大きいから」(40%)が最も多く、以下「給与水準が低く経済的余裕がないから」(27%)、「出産・育児に自信がないから」(24%)、「仕事と育児の両立が難しいから」(20%)と続く。

Q09.あなたが実際に持つと思う子どもの数が理想の数より少ない理由は何ですか。

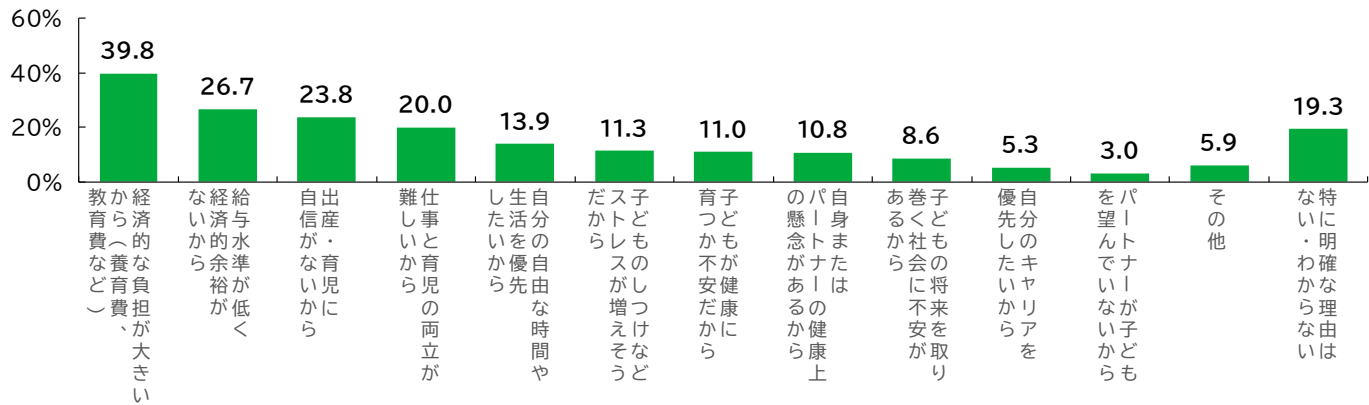
全体 (n=711)



【子どもがいない＆理想より実際に持つと思う子どもの数が少ない人】 理想より実際に持つと思う子どもの人数が少ない理由②

性年代別でみると、「経済的な負担が大きい」は女性15-25歳で高く、「給与水準が低く経済的余裕がない」は男性26-45歳で高い。「仕事と育児の両立が難しい」は男女とも15-25歳で高く、上位3項目に入る。居住区分別でみると、「経済的な負担が大きい」は東京23区でやや高く、町村で低い。正規/非正規別でみると、正規雇用では「仕事と育児の両立が難しい」が高く、非正規雇用では「給与水準が低く経済的余裕がない」「出産・育児に自信がない」「自身またはパートナーの健康上の懸念がある」が高い。

Q09.あなたが実際に持つと思う子どもの数が理想の数より少ない理由は何ですか。



		全体 (n=711)	39.8	26.7	23.8	20.0	13.9	11.3	11.0	10.8	8.6	5.3	3.0	5.9	19.3
性年代	全体 (n=711)	39.8	26.7	23.8	20.0	13.9	11.3	11.0	10.8	8.6	5.3	3.0	5.9	19.3	(%)
	男性 15-25歳 (n=137)	40.9	24.8	29.9	26.3	14.6	10.9	11.7	8.8	8.8	8.8	2.9	1.5	20.4	
	男性 26-35歳 (n=122)	36.9	36.1	18.0	17.2	13.1	14.8	11.5	5.7	10.7	6.6	4.9	2.5	17.2	
	男性 36-45歳 (n=108)	38.0	35.2	12.0	16.7	14.8	10.2	9.3	13.9	11.1	5.6	2.8	7.4	23.1	
	女性 15-25歳 (n=145)	48.3	21.4	28.3	26.2	14.5	16.6	9.7	9.0	4.1	6.2	1.4	1.4	17.2	
	女性 26-35歳 (n=113)	35.4	20.4	27.4	16.8	12.4	6.2	8.8	11.5	5.3	0.9	0.9	9.7	21.2	
居住区分	女性 36-45歳 (n=86)	36.0	23.3	24.4	11.6	14.0	5.8	16.3	19.8	14.0	2.3	5.8	18.6	16.3	
	東京23区 (n=67)	44.8	25.4	16.4	19.4	14.9	10.4	9.0	7.5	9.0	10.4	1.5	3.0	16.4	
	政令指定都市 (n=182)	41.8	23.6	24.7	20.3	17.0	11.5	11.0	9.9	8.8	4.9	3.3	7.7	18.1	
	中核市 (n=149)	36.2	28.9	24.8	21.5	13.4	13.4	12.8	14.8	8.7	5.4	5.4	6.0	15.4	
	それ以外の市 (n=247)	41.3	28.7	26.7	19.8	13.4	11.3	10.9	10.1	8.5	4.9	1.6	6.9	21.9	
非正規/正規	町村 (n=66)	31.8	24.2	15.2	16.7	7.6	6.1	9.1	10.6	7.6	3.0	3.0	0.0	24.2	
	正規雇用 (n=305)	37.4	26.9	21.3	19.3	13.1	12.5	11.1	8.2	7.9	5.6	3.3	8.9	19.3	
	非正規雇用 (n=113)	34.5	37.2	27.4	12.4	13.3	8.8	8.0	20.4	9.7	4.4	6.2	5.3	18.6	

■ : 全体より+5ポイント以上 ■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいない＆理想より実際に持つと思う子どもの数が少ない人

(前問で「子どもの将来を取り巻く社会に不安がある」と回答した人)】

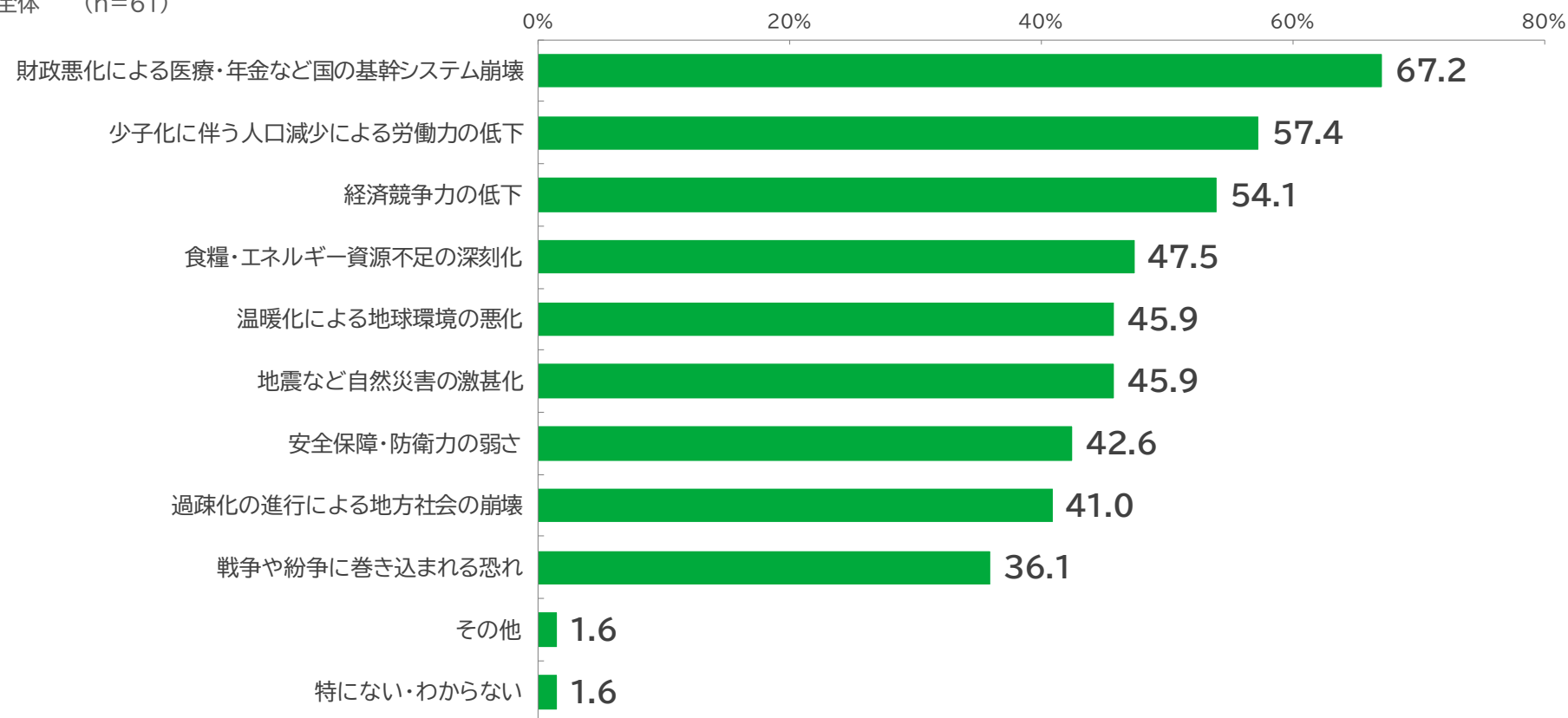


「子どもの将来を取り巻く社会に不安」を持つ理由

「財政悪化による医療・年金など国の基幹システム崩壊」(67%)が最も多く、以下「少子化に伴う人口減少による労働力の低下」(57%)、「経済競争力の低下」(54%)と続く。

Q9SQ.「子どもの将来を取り巻く社会に不安がある」とは具体的にどのような不安をもちますか。

全体 (n=61)



【子どもがいる人】子どもを望んだ理由

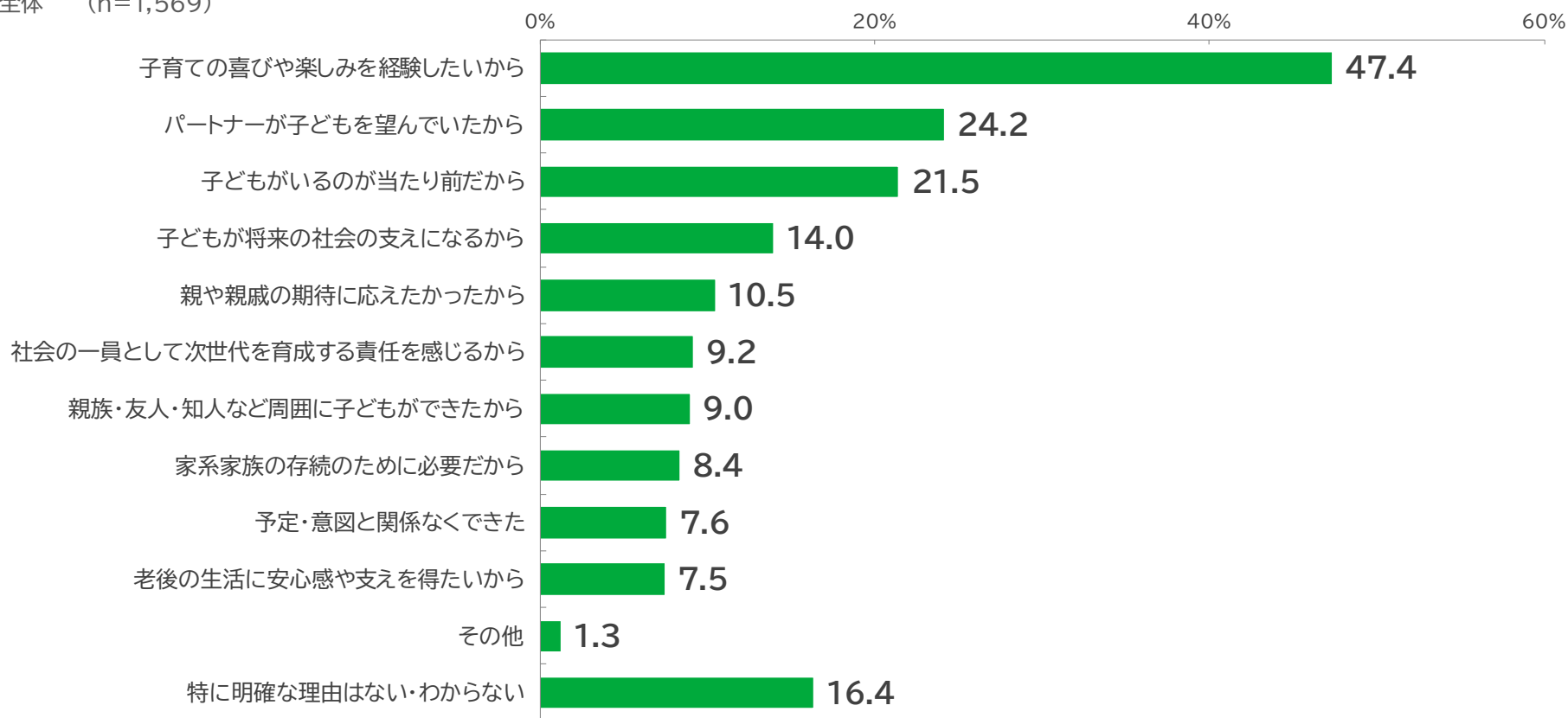
【子どもがいる人】

子どもを望んだ・持った理由①

「子育ての喜びや楽しみを経験したいから」(47%)が最も多く、突出して多くなっている。次いで多いのは「パートナーが子どもを望んでいたから」(24%)、「子どもがいるのが当たり前だから」(22%)。

Q10.あなたが子どもを望んだ・持った理由は何ですか。

全体 (n=1,569)

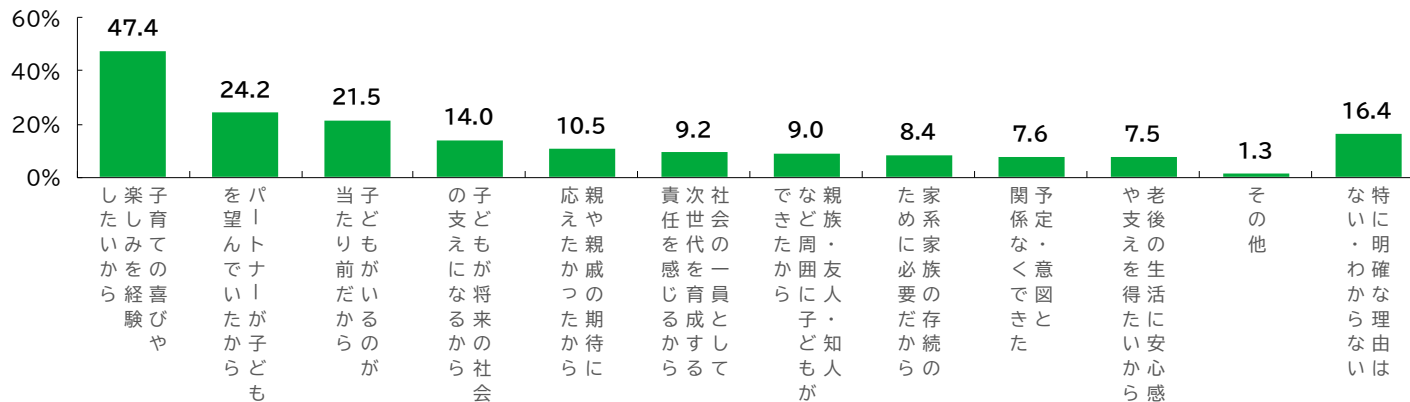


【子どもがいる人】

子どもを望んだ・持った理由②

性年代別でみると、「子育ての喜びや楽しみを経験したい」や「子どもがいるのが当たり前」は男性では年齢が上がるほど高くなり、女性では26-45歳で高い。「パートナーが望んでいた」は男性26-45歳で高いほか、「将来の社会の支えになる」も男性で高く、若年層ほど高い傾向。居住区分別でみると、「子育ての喜びや楽しみを経験したい」は政令指定都市、それ以外の市で高い。東京23区では「親や親戚の期待に応えなかった」「親族・友人・知人など周囲に子どもができた」が他層より高い。正規/非正規別では、正規雇用で「パートナーが望んでいた」「将来の社会の支えになる」などが高く、非正規雇用で「子育ての喜びや楽しみを経験したい」などが高い。(一部回答者数が少ないため参考値)

Q10.あなたが子どもを望んだ・持った理由は何ですか。



		全体 (n=1,569)	47.4	24.2	21.5	14.0	10.5	9.2	9.0	8.4	7.6	7.5	1.3	16.4	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=26)	19.2	19.2	11.5	30.8	11.5	19.2	23.1	7.7	0.0	19.2	0.0	23.1		
	男性 26-35歳 (n=183)	36.6	29.5	18.0	22.4	12.0	12.6	11.5	10.9	3.3	9.8	1.1	15.3		
	男性 36-45歳 (n=448)	42.9	31.9	24.3	17.6	7.6	12.3	5.6	12.1	4.7	8.5	0.7	18.3		
	女性 15-25歳 (n=63)	20.6	17.5	11.1	6.3	4.8	11.1	14.3	6.3	12.7	7.9	0.0	28.6		
	女性 26-35歳 (n=287)	54.0	22.3	21.6	12.2	13.9	10.1	11.8	6.6	8.7	7.7	1.0	16.0		
	女性 36-45歳 (n=562)	55.5	18.1	21.9	9.4	11.0	4.6	8.2	5.9	10.7	5.3	2.1	13.9		
居住区分	東京23区 (n=130)	45.4	23.8	22.3	16.2	17.7	13.1	16.2	10.0	7.7	10.8	0.0	6.9		
	政令指定都市 (n=388)	52.8	27.6	21.6	13.7	10.8	10.6	10.6	8.8	5.2	6.7	0.8	16.8		
	中核市 (n=359)	41.2	23.7	24.2	15.0	10.0	10.3	8.4	11.7	12.0	11.1	1.1	16.4		
	それ以外の市 (n=546)	50.2	23.6	19.6	13.9	10.3	6.8	7.1	6.6	6.2	6.0	2.2	15.8		
	町村 (n=146)	39.7	18.5	20.5	11.0	4.8	8.9	6.8	4.8	8.9	3.4	0.7	26.7		
正/非正規	正規雇用 (n=814)	46.9	29.6	25.2	18.6	11.8	10.7	9.8	11.4	5.7	9.8	0.9	13.8		
	非正規雇用 (n=306)	52.0	17.6	20.3	11.1	7.8	6.5	7.5	5.6	11.8	6.2	2.3	15.0		

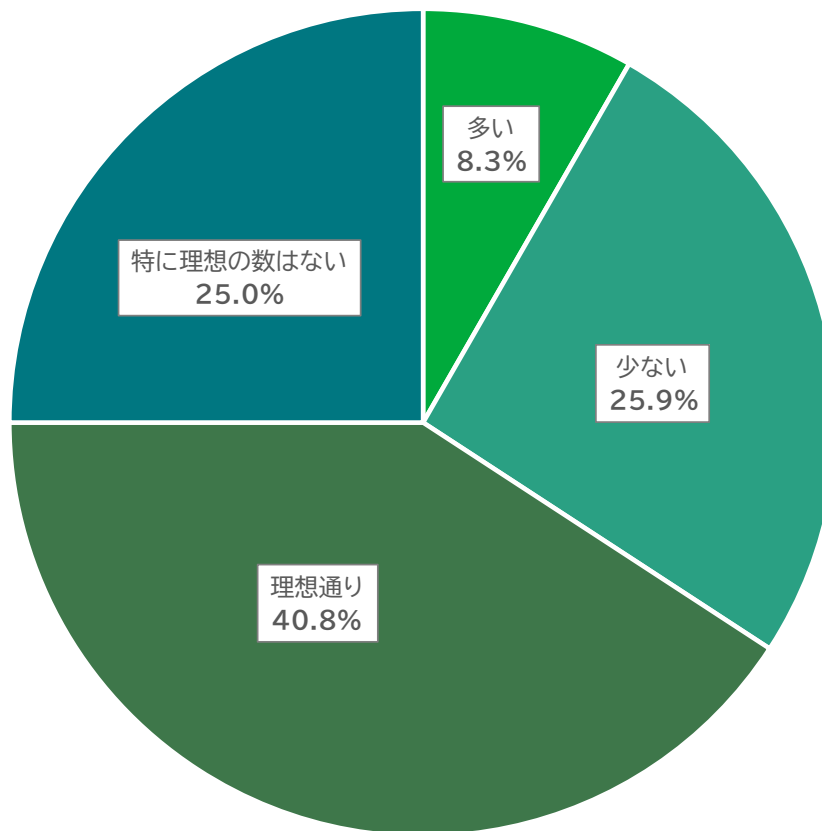
【子どもがいる人】

現在の子どもの数が理想通りか①

現在の子どもの数が理想と比べて「多い」人は8%、「少ない」人は26%で、「理想通り」が41%と最も多い。「特に理想の数はない」が25%。

Q11.現在のお子さんの人数は、ご自身の理想よりも多いですか、少ないですか。

(n=1,569)

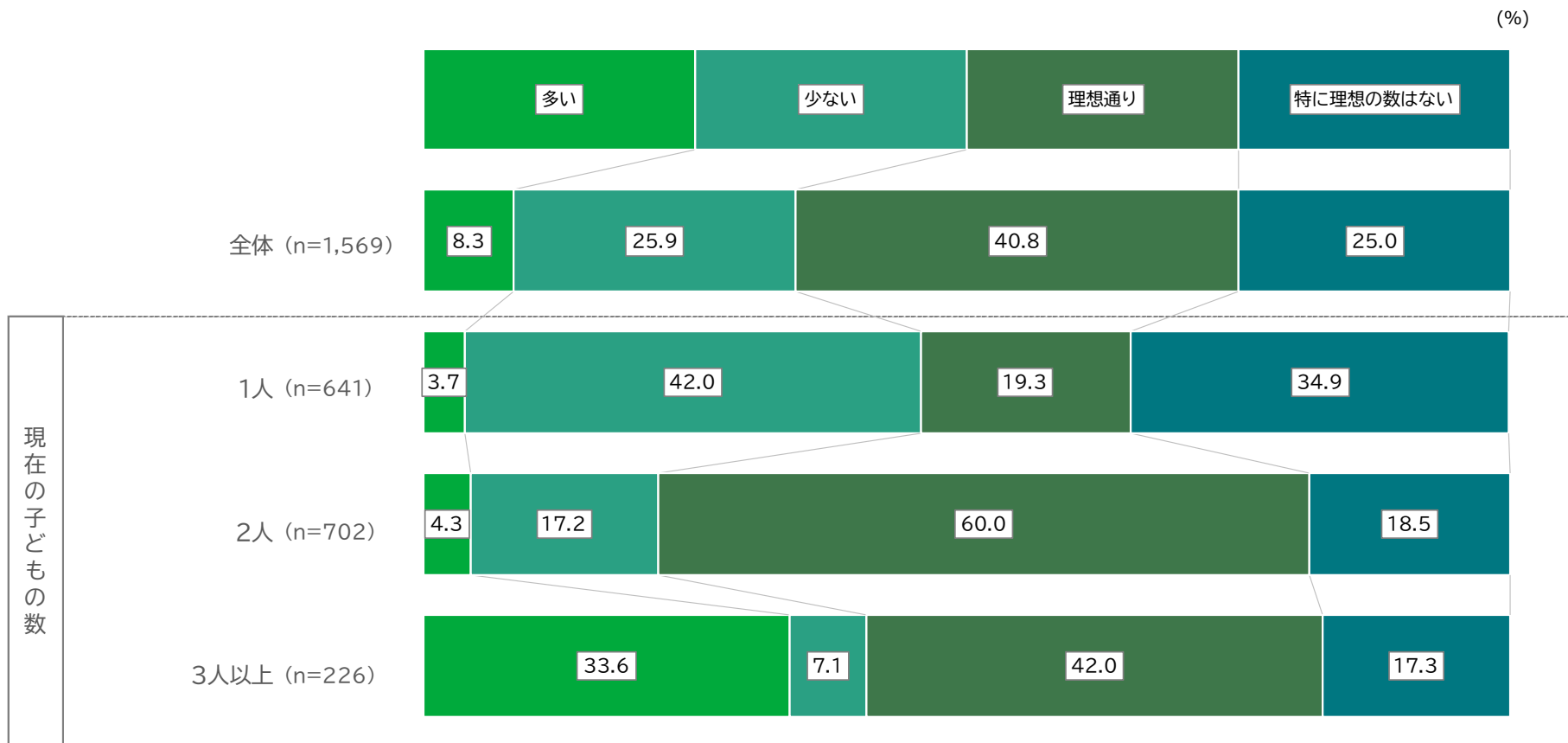


【子どもがいる人】

現在の子どもの数が理想通りか②

現在の子どもの数と理想との比較を現在の子どもの数別でみると、1人層では「少ない」が4割強と最も高いが、「特に理想の数はない」が3割を超え、他層より高い。2人層では「理想通り」が6割を占める。3人層では「理想通り」が4割強で最も高いが、「多い」が3割を超える。

Q11.現在のお子さんの人数は、ご自身の理想よりも多いですか、少ないですか。



【子どもを望む人・子どもがいる人】 多子社会に向けての考え

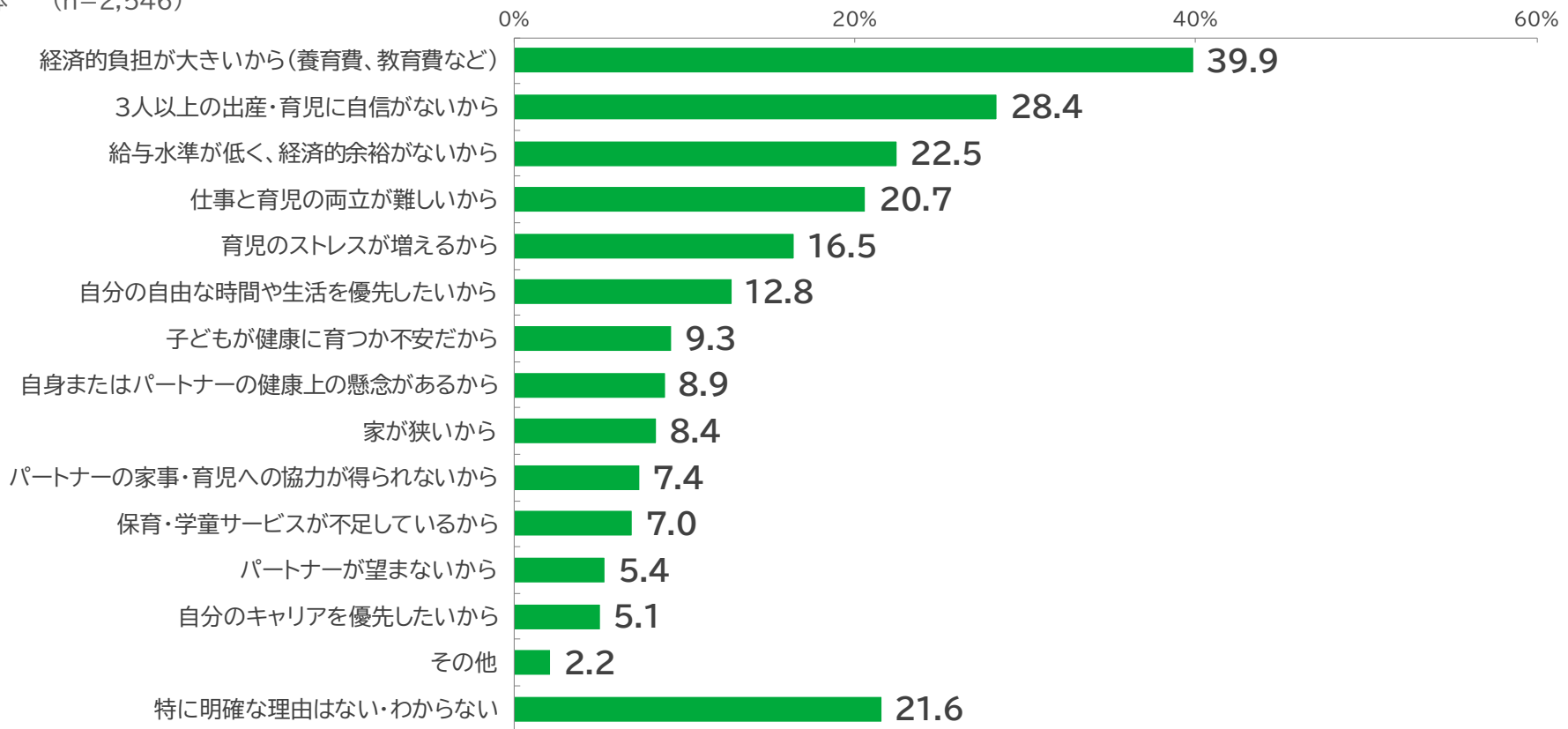
【子どもを望む人：理想の数が2人以下、子あり：現状も理想も2人以下（または理想の数は無い人）】 3人以上の子どもを持たない・持ちたくない理由①



「経済的負担が大きいから」(40%)が最も多く、次いで「3人以上の出産・育児に自信がないから」(28%)、「給与水準が低く経済的余裕がないから」(23%)、「仕事と育児の両立が難しいから」(21%)。また、「特に明確な理由はない・わからない」が2割強を占める。

Q12. 子どもの理想の数が2人以下(もしくは理想の数は無い)とお答えの方におうかがいします。3人以上の子どもを持つと思わない理由は何ですか。

全体 (n=2,546)

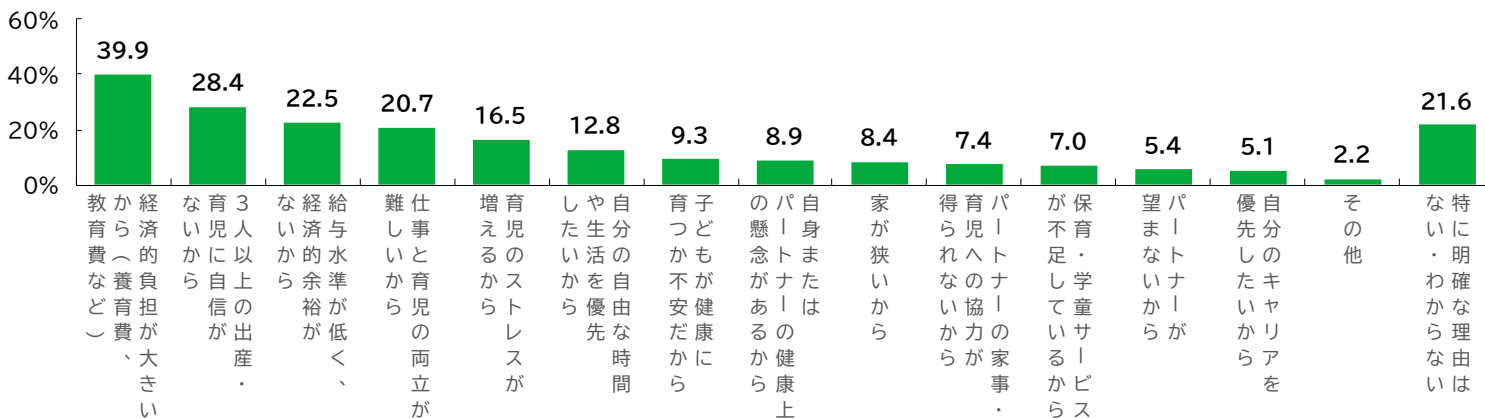


【子どもを望む人：理想の数が2人以下、子あり：現状も理想も2人以下（または理想の数は無い人）】 3人以上の子どもを持たない・持ちたくない理由②



性年代別でみると、上位2項目は女性26-45歳で高めとなったほか、「育児のストレスが増える」はいずれの年代でも女性の方が高い。居住区分別でみると、上位2項目は政令指定都市、それ以外の市で高め。正規/非正規別では、非正規雇いで「3人以上の出産・育児に自信がない」「給与水準が低く経済的余裕がない」「育児のストレスが増える」などが正規雇用と比較して高い。

Q12. 子どもの理想の数が2人以下（もしくは理想の数は無い）とお答えの方におうかがいします。3人以上の子どもを持つと思わない理由は何ですか。



		全体 (n=2,546)	39.9	28.4	22.5	20.7	16.5	12.8	9.3	8.9	8.4	7.4	7.0	5.4	5.1	2.2	21.6
性年代	男性 15-25歳 (n=366)	36.3	25.7	18.0	24.0	10.4	12.8	11.5	10.7	4.9	6.8	5.5	4.4	8.2	0.3	24.6	
	男性 26-35歳 (n=360)	34.4	19.2	25.6	18.3	11.1	10.0	9.2	6.9	8.6	6.4	11.4	6.7	6.9	1.4	23.3	
	男性 36-45歳 (n=519)	39.7	18.9	25.8	17.1	11.6	9.8	6.4	10.2	8.9	4.8	6.0	8.1	3.5	2.3	22.7	
	女性 15-25歳 (n=347)	34.6	30.0	15.6	18.4	17.0	11.5	9.5	5.5	4.6	4.3	8.1	2.9	6.6	1.2	25.6	
	女性 26-35歳 (n=440)	43.4	36.6	23.2	23.6	22.3	17.0	10.2	8.9	9.5	7.3	7.3	3.9	5.0	3.4	19.1	
	女性 36-45歳 (n=514)	47.1	38.5	24.1	22.4	24.3	14.8	9.7	10.1	12.1	13.4	5.3	5.4	2.5	3.7	16.3	
居住区分	東京23区 (n=252)	36.9	23.8	15.1	18.3	15.5	11.5	9.5	10.3	10.3	10.7	6.0	7.9	8.3	2.8	19.8	
	政令指定都市 (n=652)	42.5	30.4	26.8	22.2	17.2	14.4	11.2	9.7	10.0	7.1	9.0	4.3	5.5	2.1	21.8	
	中核市 (n=569)	35.0	24.6	20.0	19.3	15.3	13.0	7.7	7.4	7.6	7.2	7.4	6.9	6.3	2.6	22.3	
	それ以外の市 (n=860)	43.8	31.5	23.1	21.2	16.9	11.9	9.0	8.5	7.8	7.1	6.0	4.4	3.4	2.1	20.5	
	町村 (n=213)	32.9	25.8	21.6	20.2	17.4	12.2	8.5	10.8	6.6	6.6	5.2	5.6	4.2	0.9	25.4	
正 / 正規 非 正規	正規雇用 (n=1,204)	40.0	23.8	24.0	22.8	13.0	11.0	8.4	9.3	8.3	5.6	7.9	6.0	5.5	2.0	21.1	
	非正規雇用 (n=395)	42.0	33.4	29.6	23.3	19.2	13.4	9.9	9.1	9.9	12.2	7.1	6.8	3.5	3.0	19.5	

■ : 全体より+5ポイント以上

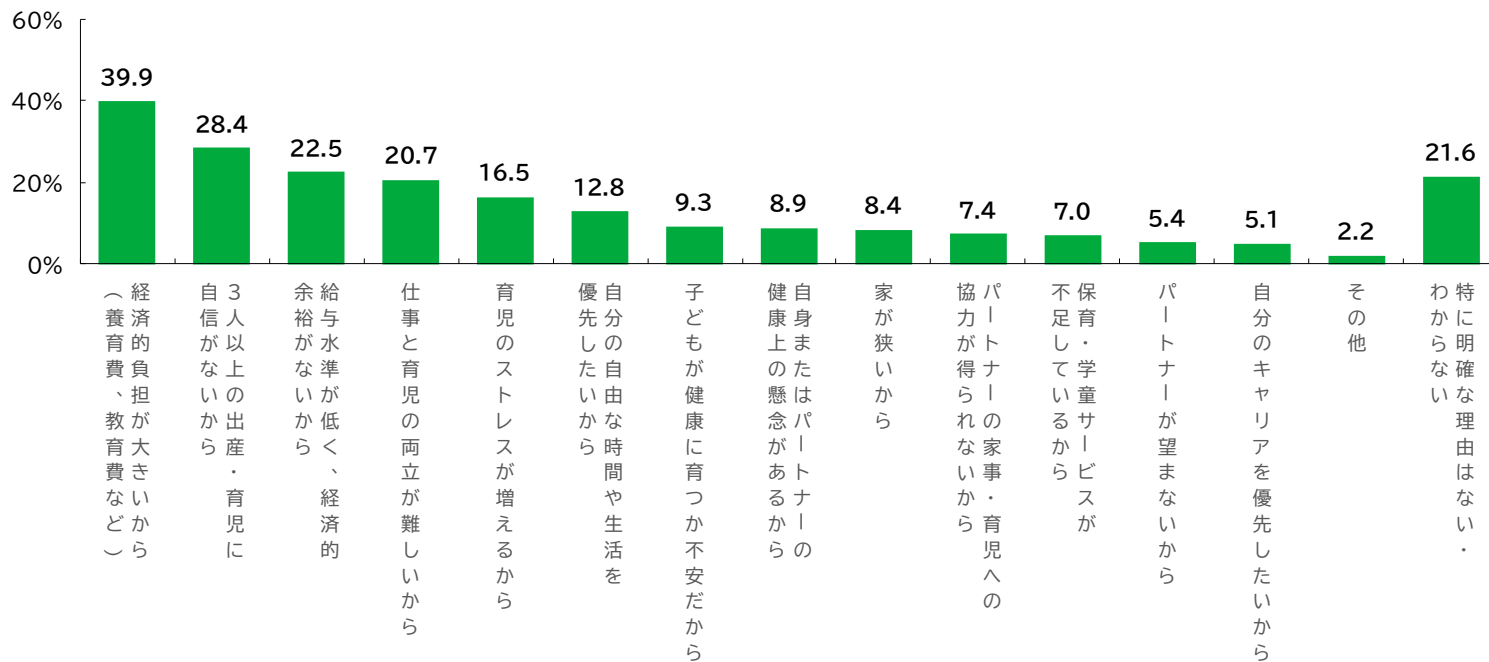
■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもを望む人:理想の数が2人以下、子あり:現状も理想も2人以下(または理想の数は無い人)】 3人以上の子どもを持たない・持ちたくない理由③



現在の子どもの有無別でみると、子ども2人以下層では「経済的負担が大きい」「育児のストレスが増える」「家が狭い」「パートナーの家事・育児への協力が得られない」が子どもなし層より高くなっている。

Q12. 子どもの理想の数が2人以下(もしくは理想の数は無い)とお答えの方におうかがいします。3人以上の子どもを持つと思わない理由は何ですか。



		全体 (n=2,546)	39.9	28.4	22.5	20.7	16.5	12.8	9.3	8.9	8.4	7.4	7.0	5.4	5.1	2.2	21.6	(%)
2人以上理想の層数	現在子どもなし (n=1,375)	37.8	26.7	22.0	19.3	13.7	12.0	10.2	8.4	4.9	4.9	6.6	3.3	5.7	1.5	23.9		
	現在子ども2人以下 (n=1,171)	42.4	30.5	23.1	22.2	19.7	13.7	8.2	9.5	12.6	10.4	7.5	7.8	4.4	3.1	18.9		

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

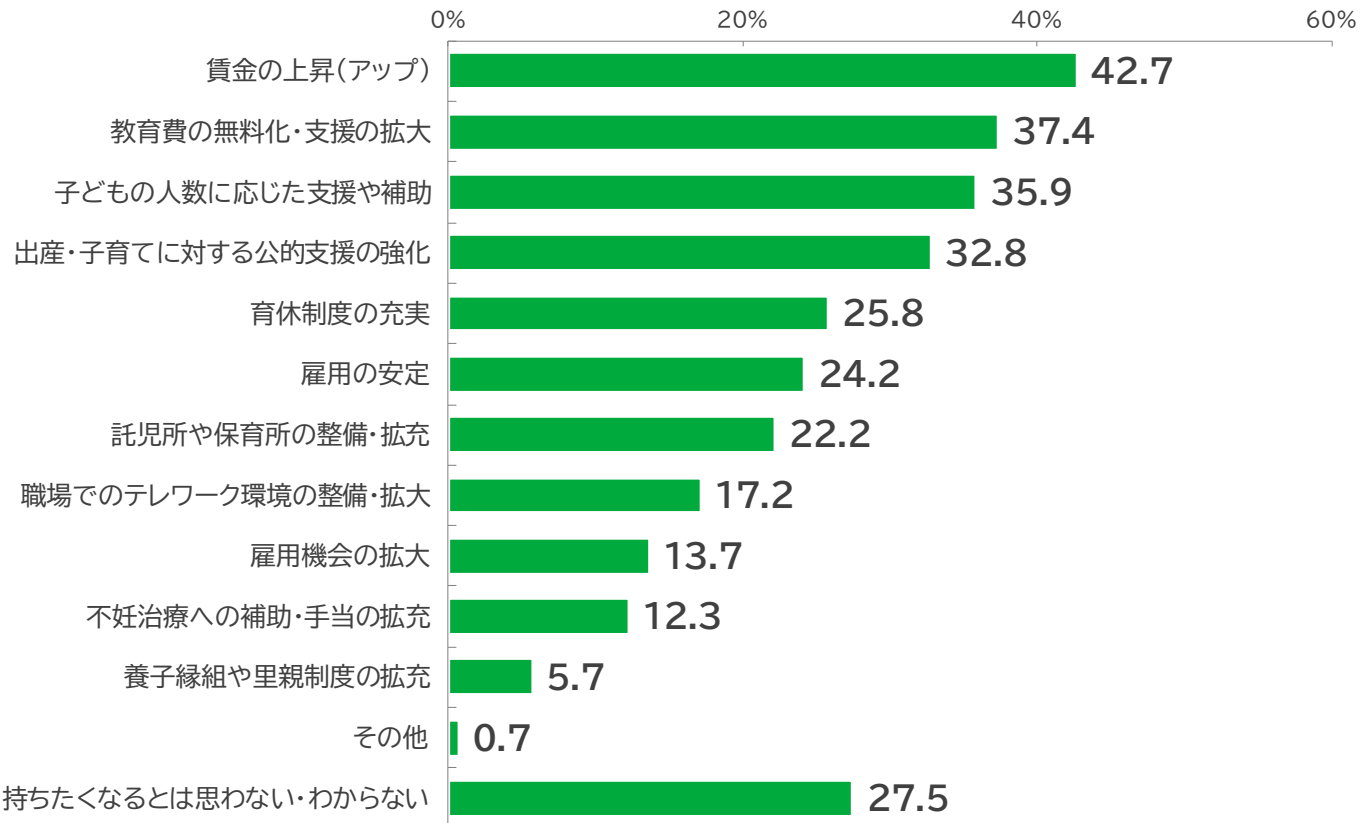
【子どもを望む人：理想の数が2人以下、子あり：現状も理想も2人以下（または理想の数は無い人）】 自身が3人以上の子どもをもつことを可能にする条件①



「賃金の上昇」(43%)が最も多く、以下「教育費の無料化・支援の拡大」(37%)、「子どもの人数に応じた支援や補助」(36%)、「出産・子育てに対する公的支援の強化」(33%)と続く。一方で「どのような条件でも3人以上の子どもを持ちたくなるとは思わない・わからない」が3割弱を占める。

Q13.どのような条件が満たされることで、あなた自身は3人以上の子どもを持ちたくなるとおもいますか。

全体 (n=2,546)

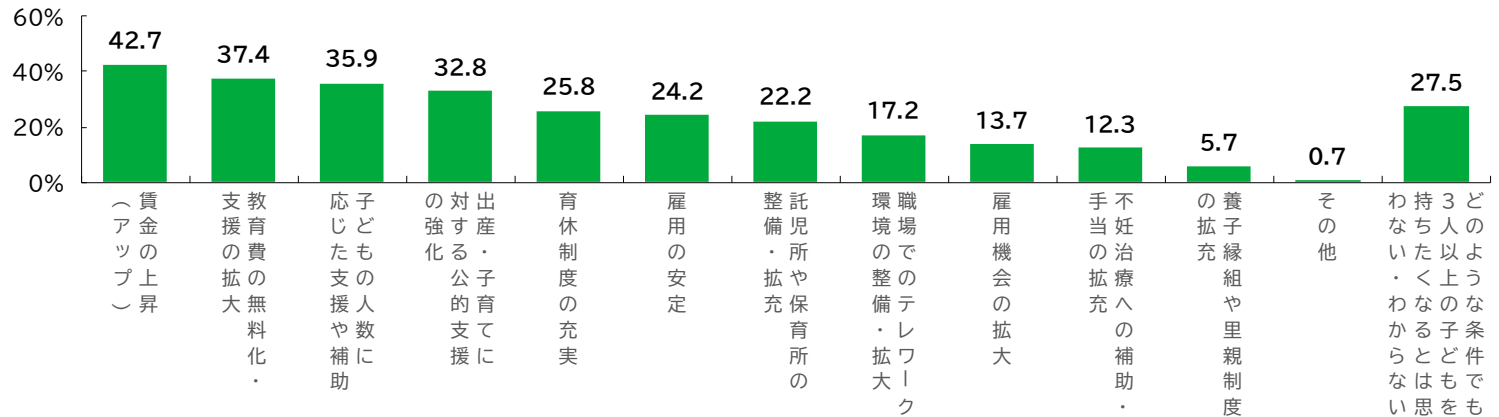


【子どもを望む人：理想の数が2人以下、子あり：現状も理想も2人以下（または理想の数は無い人）】 自身が3人以上の子どもをもつことを可能にする条件②



性年代別でみると、「賃金の上昇」は男性36-45歳、女性26-35歳で高い。女性26-35歳では「教育費の無料化・支援の拡大」「子どもの人数に応じた支援や補助」「出産・子育てに対する公的支援の強化」「育休制度の充実」「託児所や保育所の整備・拡充」も他層より高い。居住区分別でみると、政令指定都市で「教育費の無料化・支援の拡大」が高い。正規/非正規別では、正規雇用で「賃金の上昇」「育休制度の充実」「職場でのテレワーク環境の整備・拡大」、非正規雇用で「雇用機会の拡大」が高い。

Q13.どのような条件が満たされることで、あなた自身は3人以上の子どもを持ちたいと思いますか。



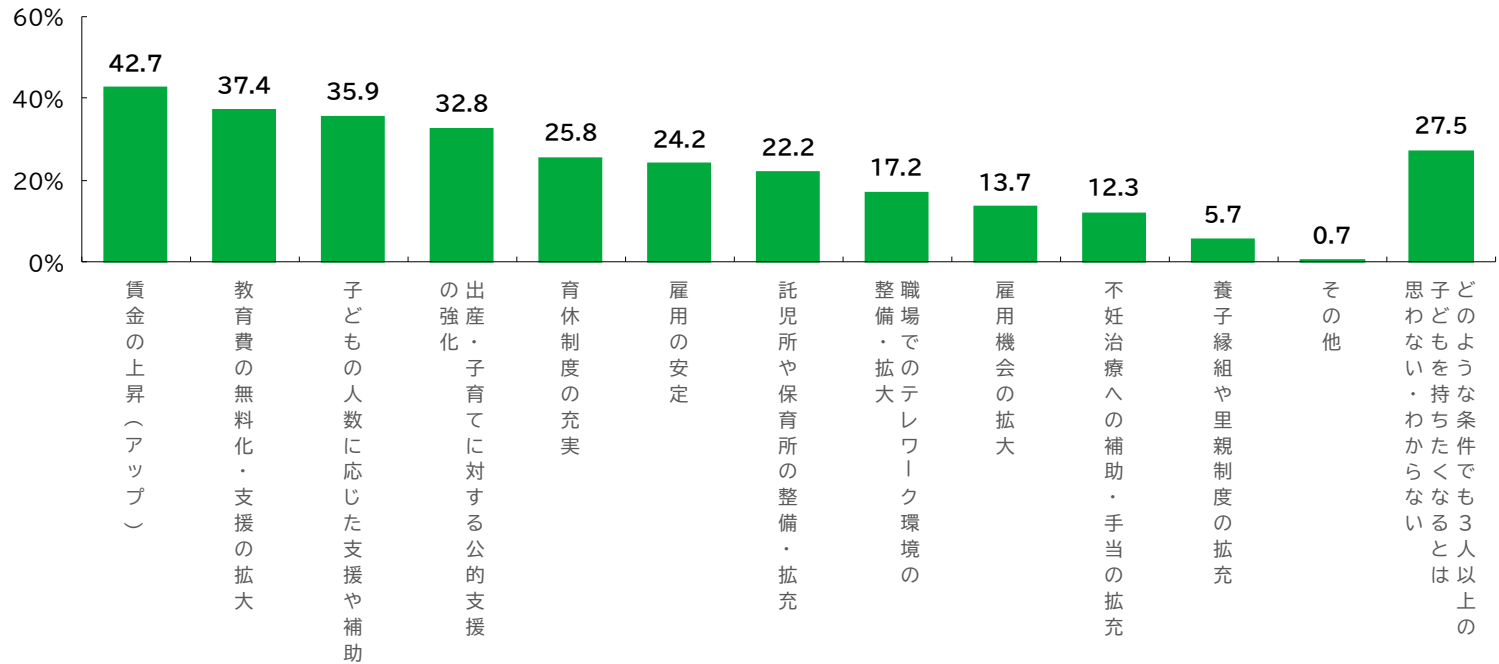
全体 (n=2,546)		42.7	37.4	35.9	32.8	25.8	24.2	22.2	17.2	13.7	12.3	5.7	0.7	27.5	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=366)	39.3	33.3	32.5	30.1	28.1	25.7	19.7	17.5	10.9	11.2	9.0	0.0	23.2	
	男性 26-35歳 (n=360)	42.2	33.6	34.7	31.4	25.6	23.1	20.0	18.9	15.6	13.3	6.1	0.6	23.6	
	男性 36-45歳 (n=519)	48.0	37.8	37.6	27.6	21.2	25.0	19.5	15.8	13.7	9.6	4.6	0.8	27.9	
	女性 15-25歳 (n=347)	36.0	34.6	33.1	29.7	28.5	21.0	22.2	15.9	12.7	9.8	5.8	0.3	30.0	
	女性 26-35歳 (n=440)	47.5	43.9	41.8	42.5	34.1	24.8	29.8	21.6	13.6	13.4	4.1	1.1	25.0	
	女性 36-45歳 (n=514)	40.3	38.9	34.4	34.6	20.2	24.7	21.6	14.4	15.0	15.6	5.6	1.0	33.1	
居住区分	東京23区 (n=252)	42.1	33.7	32.9	29.0	23.0	19.4	20.6	21.4	10.7	15.9	6.3	0.4	24.2	
	政令指定都市 (n=652)	46.6	44.2	39.1	35.1	29.0	24.7	23.2	17.6	13.7	14.7	5.7	0.5	24.4	
	中核市 (n=569)	37.3	30.9	30.8	30.2	24.3	21.6	20.0	16.0	13.7	10.4	7.4	0.5	29.3	
	それ以外の市 (n=860)	43.8	38.4	37.8	35.7	26.5	27.6	23.5	16.5	14.3	11.0	4.7	0.8	28.5	
	町村 (n=213)	40.8	34.3	36.2	24.9	21.1	21.6	21.1	16.9	14.6	10.3	5.2	1.4	31.5	
正/非正規	正規雇用 (n=1,204)	47.2	38.0	36.2	32.6	28.1	24.1	23.6	19.9	13.6	13.8	5.6	0.4	24.3	
	非正規雇用 (n=395)	42.0	37.7	36.5	32.9	22.5	26.3	23.0	13.7	18.5	11.1	6.6	1.0	31.9	

【子どもを望む人：理想の数が2人以下、子あり：現状も理想も2人以下（または理想の数は無い人）】 自身が3人以上の子どもをもつことを可能にする条件③



現在の子どもの有無別でみると、子どもなし層では「育休制度の充実」「雇用の安定」が子ども2人以下層より高めになっている。

Q13.どのような条件が満たされることで、あなた自身は3人以上の子どもを持ちたいと思いますか。



全体 (n=2,546)		42.7	37.4	35.9	32.8	25.8	24.2	22.2	17.2	13.7	12.3	5.7	0.7	27.5	(%)
2人未満理想下の層数	現在 子どもなし (n=1,375)	42.3	35.7	34.9	31.6	28.2	26.2	22.0	18.9	14.7	13.5	6.5	0.4	26.4	
	現在 子ども2人以下 (n=1,171)	43.1	39.4	37.1	34.2	23.1	21.9	22.3	15.2	12.5	10.8	4.9	1.0	28.7	

■ : 全体より+5ポイント以上

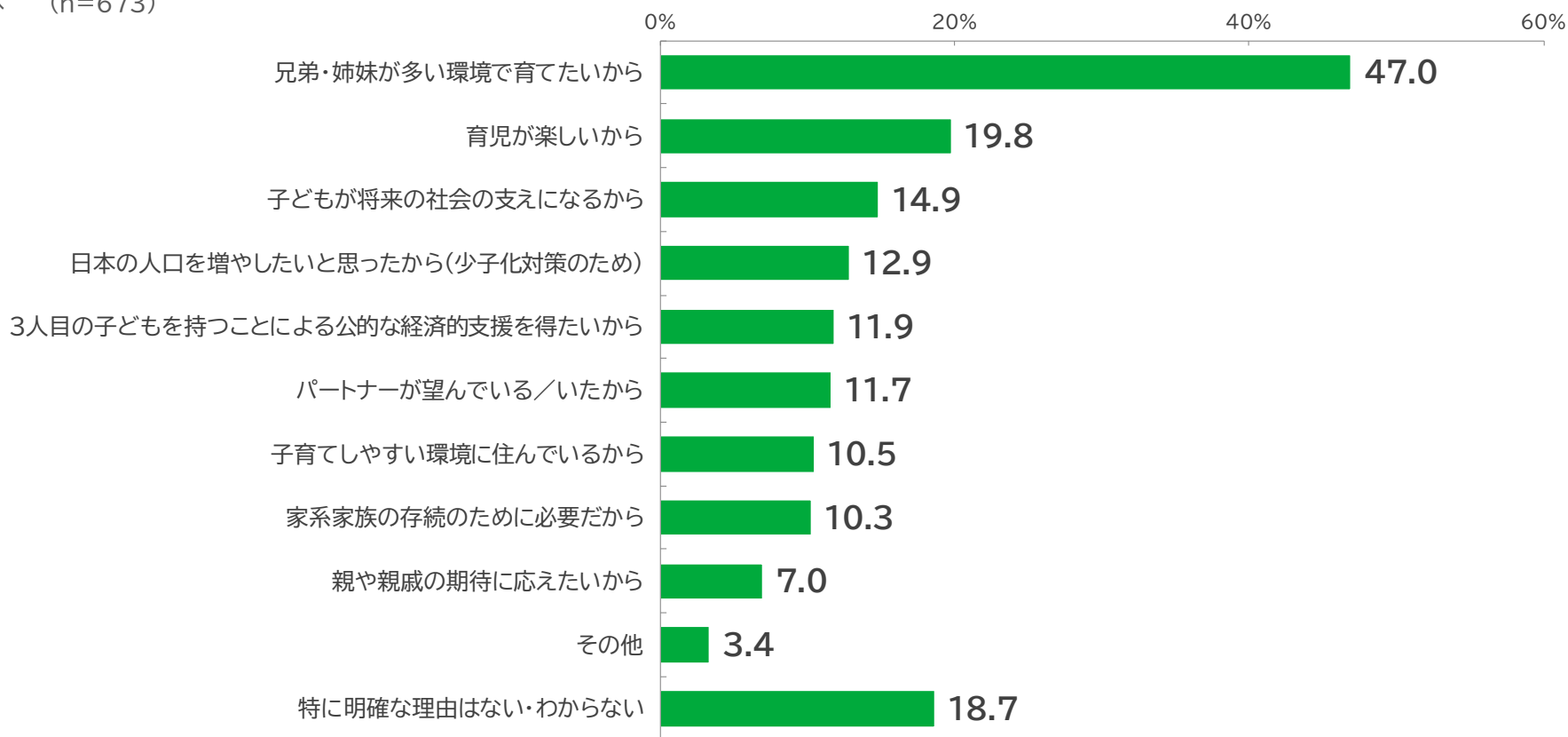
■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもを望む人：理想の子どもの数が3人以上、子あり：現在の子どもの数が3人以上の人】 3人以上の子どもを持った・持ちたい理由①

「兄弟・姉妹が多い環境で育てたいから」(47%)が最も多く、突出して高くなっている。以下「育児が楽しいから」(20%)、「子どもが将来の社会の支えになるから」(15%)と続く。

Q14.3人以上の子どもを持った・持ちたい理由は何ですか。

全体 (n=673)



【子どもを望む人:理想の子どもの数が3人以上、子あり:現在の子どもの数が3人以上の人】 3人以上の子どもを持った・持ちたい理由②



性年代別でみると、「兄弟・姉妹が多い環境で育てたい」は女性で高く、いずれの年代も5割を超える。「将来の社会の支えになる」や「家系家族の存続のために必要」は男性で高く、「日本の人口を増やしたい」は男性15-25歳で高い。居住区分別でみると、町村では「兄弟・姉妹が多い環境で育てたい」が他層を大きく下回る。中核市では「育児が楽しい」が高い。正規/非正規別でみると、正規雇用では「将来の社会の支えになる」「家系家族の存続のために必要」などが高く、非正規雇用では「育児が楽しい」が高い。

Q14.3人以上の子どもを持った・持ちたい理由は何ですか。



		全体 (n=673)	47.0	19.8	14.9	12.9	11.9	11.7	10.5	10.3	7.0	3.4	18.7	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=68)	35.3	16.2	25.0	33.8	17.6	8.8	11.8	16.2	13.2	1.5	13.2		
	男性 26-35歳 (n=85)	45.9	14.1	23.5	15.3	15.3	11.8	11.8	18.8	9.4	1.2	15.3		
	男性 36-45歳 (n=139)	38.1	12.2	21.6	13.7	10.1	19.4	6.5	16.5	5.0	1.4	26.6		
	女性 15-25歳 (n=105)	55.2	21.0	10.5	11.4	15.2	7.6	14.3	3.8	8.6	1.9	17.1		
	女性 26-35歳 (n=100)	50.0	28.0	11.0	12.0	12.0	12.0	14.0	9.0	7.0	2.0	13.0		
	女性 36-45歳 (n=176)	52.3	24.4	6.3	4.5	7.4	9.1	8.5	3.4	4.0	8.5	20.5		
居住区分	東京23区 (n=52)	51.9	15.4	13.5	19.2	17.3	13.5	15.4	17.3	7.7	1.9	7.7		
	政令指定都市 (n=139)	46.0	20.9	14.4	12.9	13.7	13.7	9.4	12.9	8.6	3.6	19.4		
	中核市 (n=152)	49.3	25.7	16.4	15.1	17.1	13.2	9.9	10.5	8.6	2.0	15.8		
	それ以外の市 (n=252)	49.6	19.0	15.9	11.9	7.1	11.1	10.7	8.3	5.6	3.6	17.9		
	町村 (n=78)	32.1	11.5	10.3	7.7	10.3	6.4	10.3	6.4	5.1	6.4	33.3		
正 / 非正規	正規雇用 (n=311)	46.9	18.6	17.7	13.2	11.9	13.2	9.6	15.1	6.4	3.9	16.7		
	非正規雇用 (n=121)	46.3	27.3	9.9	8.3	16.5	11.6	10.7	5.0	9.9	2.5	17.4		

■ : 全体より+5ポイント以上

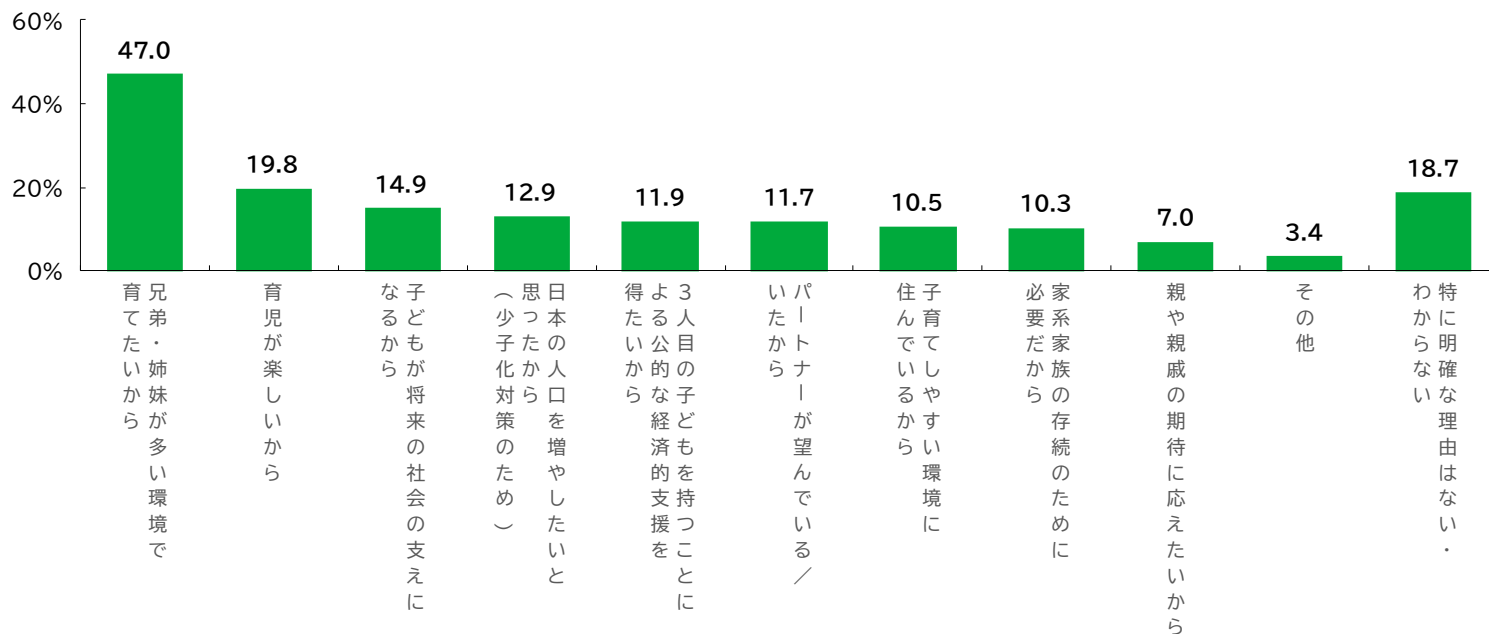
■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもを望む人：理想の子どもの数が3人以上、子あり：現在の子どもの数が3人以上の人】 3人以上の子どもを持った・持ちたい理由③



現在の子どもの人数別で見ると、子どもなし層では「将来の社会の支えになる」「日本の人口を増やしたい」などが他層より高く、子ども2人以下層では「育児が楽しいから」が他層より高い。子ども3人以上層では「兄弟・姉妹が多い環境で育てたい」が他層を大きく下回り、「パートナーが望んでいた」が他層より高く、「特に明確な理由はない・わからない」が3割を占める。

Q14.3人以上の子どもを持った・持ちたい理由は何ですか。



全体 (n=673)		47.0	19.8	14.9	12.9	11.9	11.7	10.5	10.3	7.0	3.4	18.7	(%)
3人理想の層数	現在子どもなし (n=275)	53.5	16.0	19.3	19.3	14.9	9.1	10.9	13.5	10.9	1.8	13.5	
	現在子ども2人以下 (n=172)	50.0	25.6	13.4	10.5	13.4	9.9	7.6	8.1	4.7	2.3	12.2	
	現在子ども3人以上 (n=226)	36.7	19.9	10.6	7.1	7.1	16.4	12.4	8.0	4.0	6.2	30.1	

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

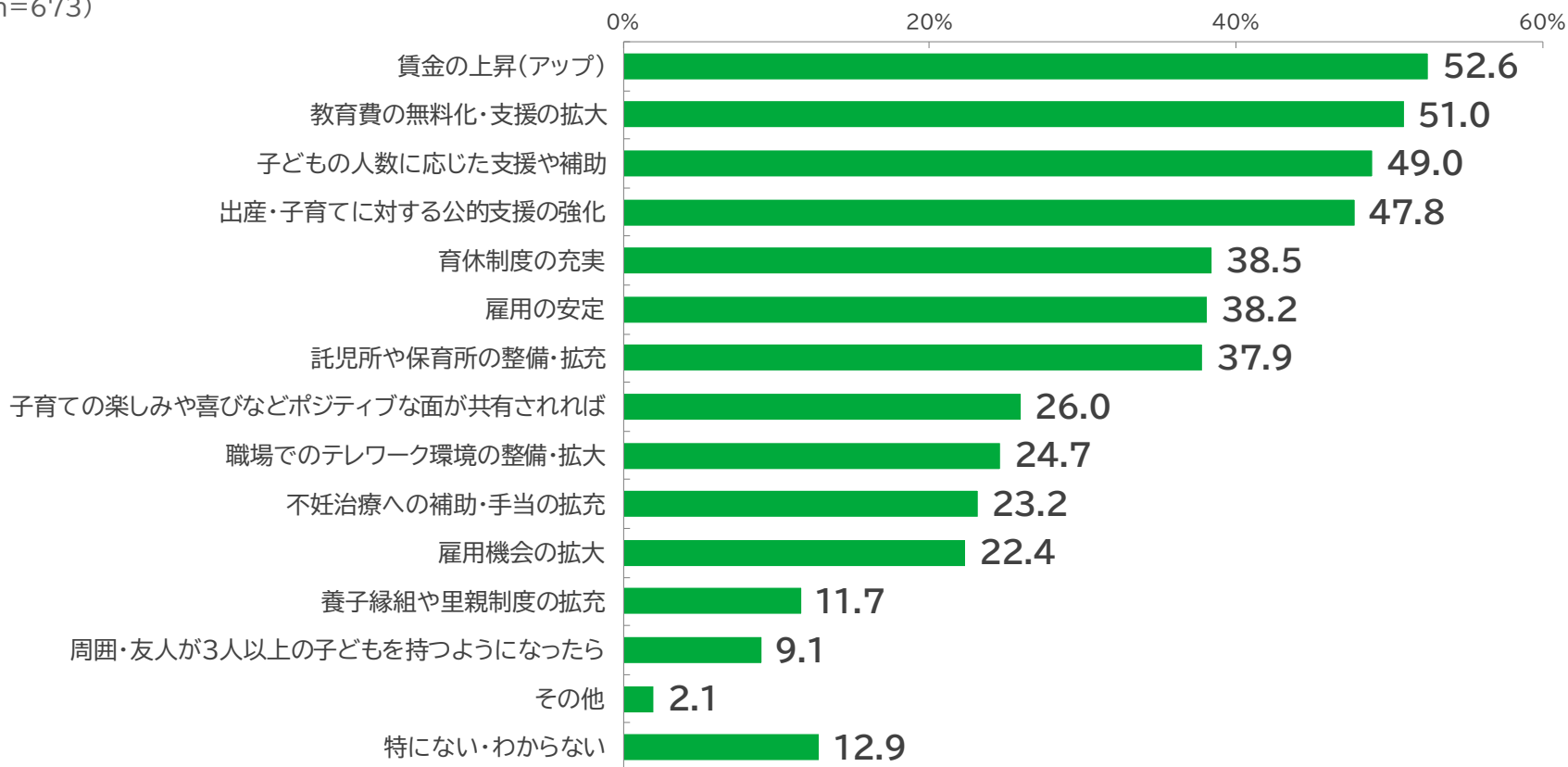
【子どもを望む人:理想の子どもの数が3人以上、子あり:現在の子どもの数が3人以上の人】 世の中全体で3人以上の子どもをもつことを可能にする条件①



「賃金の上昇」(53%)、「教育費の無料化・支援の拡大」(51%)、「子どもの人数に応じた支援や補助」(49%)、「出産・子育てに対する公的支援の強化」(48%)が上位に並ぶ。

Q15.どのような条件・環境があれば、世の中全体で3人以上の子どもを持つ人が増えると思いますか。

全体 (n=673)

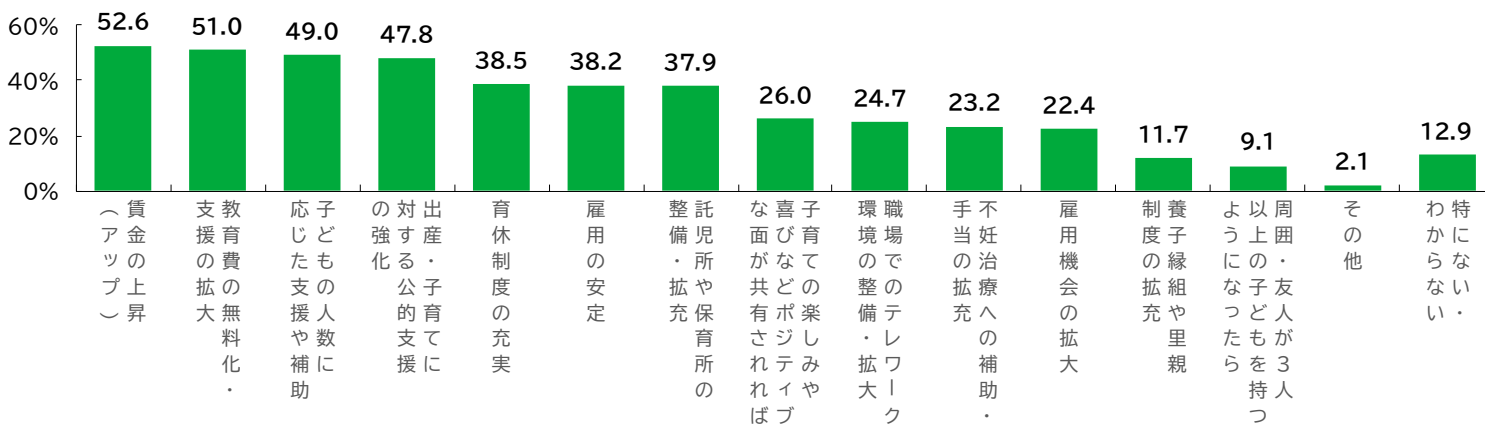


【子どもを望む人：理想の子どもの数が3人以上、子あり：現在の子どもの数が3人以上の人】 世の中全体で3人以上の子どもをもつことを可能にする条件②



性年代別でみると、「賃金の上昇」は男性15-25歳、女性36-45歳で特に高く、6割以上。女性36-45歳では「教育費の無料化・支援の拡大」「出産・子育てに対する公的支援の強化」も6割を超え、他層に比べて高くなっている。居住区分別では東京23区で「賃金の上昇」が多くあげられ、6割近い。正規/非正規別では、非正規雇用で「出産・子育てに対する公的支援の強化」が上位に入る。

Q15.どのような条件・環境があれば、世の中全体で3人以上の子どもを持つ人が増えると思いますか。



		全体 (n=673)	52.6	51.0	49.0	47.8	38.5	38.2	37.9	26.0	24.7	23.2	22.4	11.7	9.1	2.1	12.9
性年代	男性 15-25歳 (n=68)	64.7	51.5	50.0	36.8	35.3	41.2	23.5	19.1	26.5	17.6	25.0	17.6	7.4	2.9	10.3	
	男性 26-35歳 (n=85)	48.2	41.2	44.7	34.1	31.8	32.9	30.6	20.0	27.1	16.5	24.7	8.2	9.4	0.0	15.3	
	男性 36-45歳 (n=139)	50.4	49.6	50.4	48.2	33.1	36.7	33.8	26.6	23.0	23.7	20.1	13.7	11.5	2.9	14.4	
	女性 15-25歳 (n=105)	42.9	44.8	39.0	41.9	41.9	28.6	33.3	18.1	21.0	28.6	19.0	14.3	7.6	1.0	17.1	
	女性 26-35歳 (n=100)	48.0	49.0	44.0	50.0	38.0	41.0	42.0	24.0	26.0	19.0	23.0	10.0	8.0	1.0	13.0	
	女性 36-45歳 (n=176)	60.2	61.4	58.5	60.8	45.5	44.9	50.6	36.9	25.6	27.3	23.9	9.1	9.1	3.4	9.1	
居住区分	東京23区 (n=52)	57.7	51.9	42.3	46.2	38.5	42.3	30.8	23.1	38.5	26.9	34.6	11.5	13.5	1.9	5.8	
	政令指定都市 (n=139)	54.7	49.6	48.9	47.5	32.4	37.4	37.4	27.3	23.0	20.1	20.9	10.8	7.9	0.7	14.4	
	中核市 (n=152)	52.6	47.4	53.3	50.7	48.0	34.2	45.4	27.6	25.7	27.0	23.0	16.4	8.6	2.6	10.5	
	それ以外の市 (n=252)	54.0	55.2	49.2	48.0	38.9	40.5	38.1	26.6	23.4	22.6	20.6	9.5	9.9	3.2	12.3	
	町村 (n=78)	41.0	46.2	44.9	43.6	29.5	37.2	28.2	20.5	20.5	20.5	21.8	11.5	6.4	0.0	21.8	
正/非正規	正規雇用 (n=311)	55.6	50.5	50.5	48.2	37.6	38.6	36.3	24.1	26.7	23.2	21.5	9.3	9.0	2.3	11.3	
	非正規雇用 (n=121)	52.1	52.9	53.7	53.7	37.2	42.1	43.8	28.9	19.8	20.7	24.8	15.7	11.6	2.5	9.1	

■ : 全体より+5ポイント以上

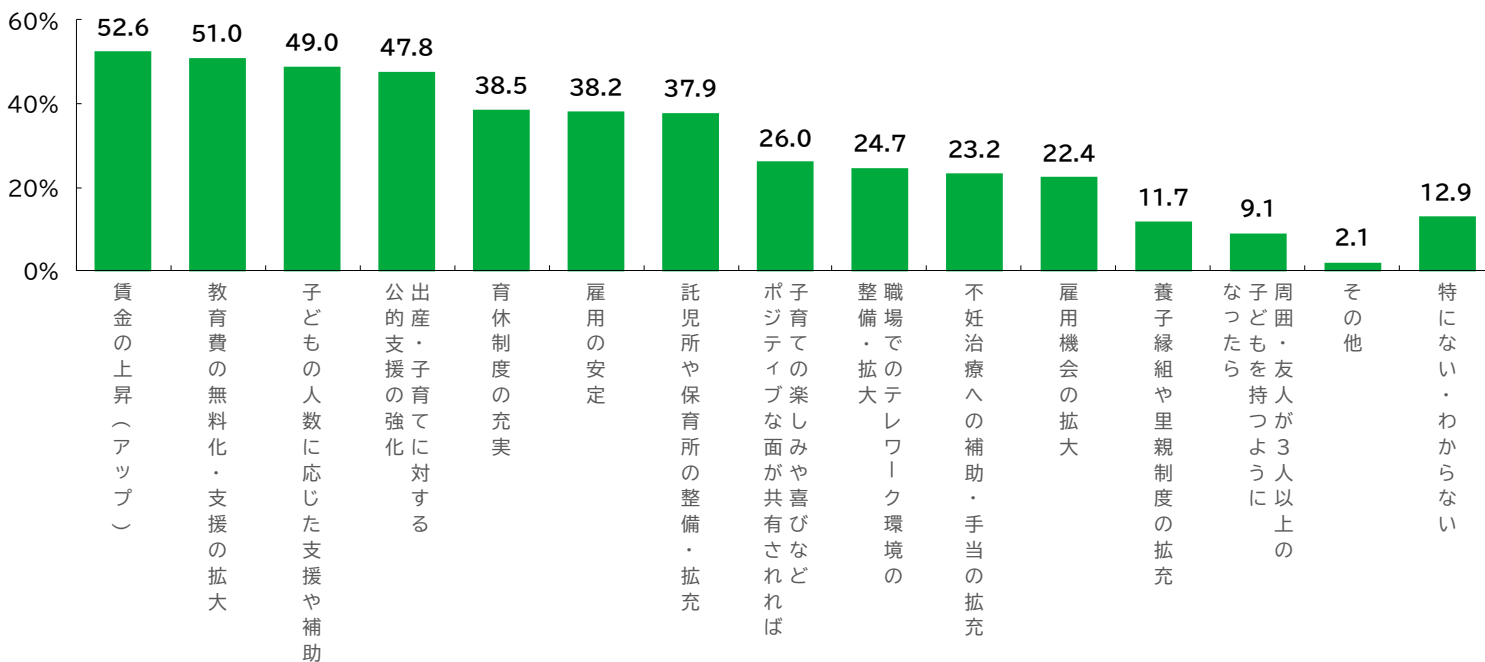
■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもを望む人:理想の子どもの数が3人以上、子あり:現在の子どもの数が3人以上の人】 世の中全体で3人以上の子どもをもつことを可能にする条件③



理想の子どもの数が3人以上層で現在の子どもの状況でみると、3人以上層では「教育費の無料化・支援の拡大」が最多で、次いで「子ども的人数に応じた支援や補助」「出産・子育てに対する公的支援の強化」と続き、教育費や公的支援・補助を求める声強い。

Q15.どのような条件・環境があれば、世の中全体で3人以上の子どもを持つ人が増えると思いますか。



		全体 (n=673)	52.6	51.0	49.0	47.8	38.5	38.2	37.9	26.0	24.7	23.2	22.4	11.7	9.1	2.1	12.9	(%)
3人理想以上の層数	現在子どもなし (n=275)	54.2	47.6	45.5	42.5	40.7	37.8	32.4	23.3	28.4	26.2	26.9	14.9	10.2	2.2	16.4		
	現在子ども2人以下 (n=172)	50.0	47.7	48.3	49.4	38.4	40.7	42.4	23.3	27.9	23.3	18.6	9.3	8.1	3.5	4.7		
	現在子ども3人以上 (n=226)	52.7	57.5	54.0	53.1	35.8	36.7	41.2	31.4	17.7	19.5	19.9	9.7	8.4	0.9	15.0		

■:全体より+5ポイント以上

■:全体より-5ポイント以下

【全員】少子化の状況に対する考え

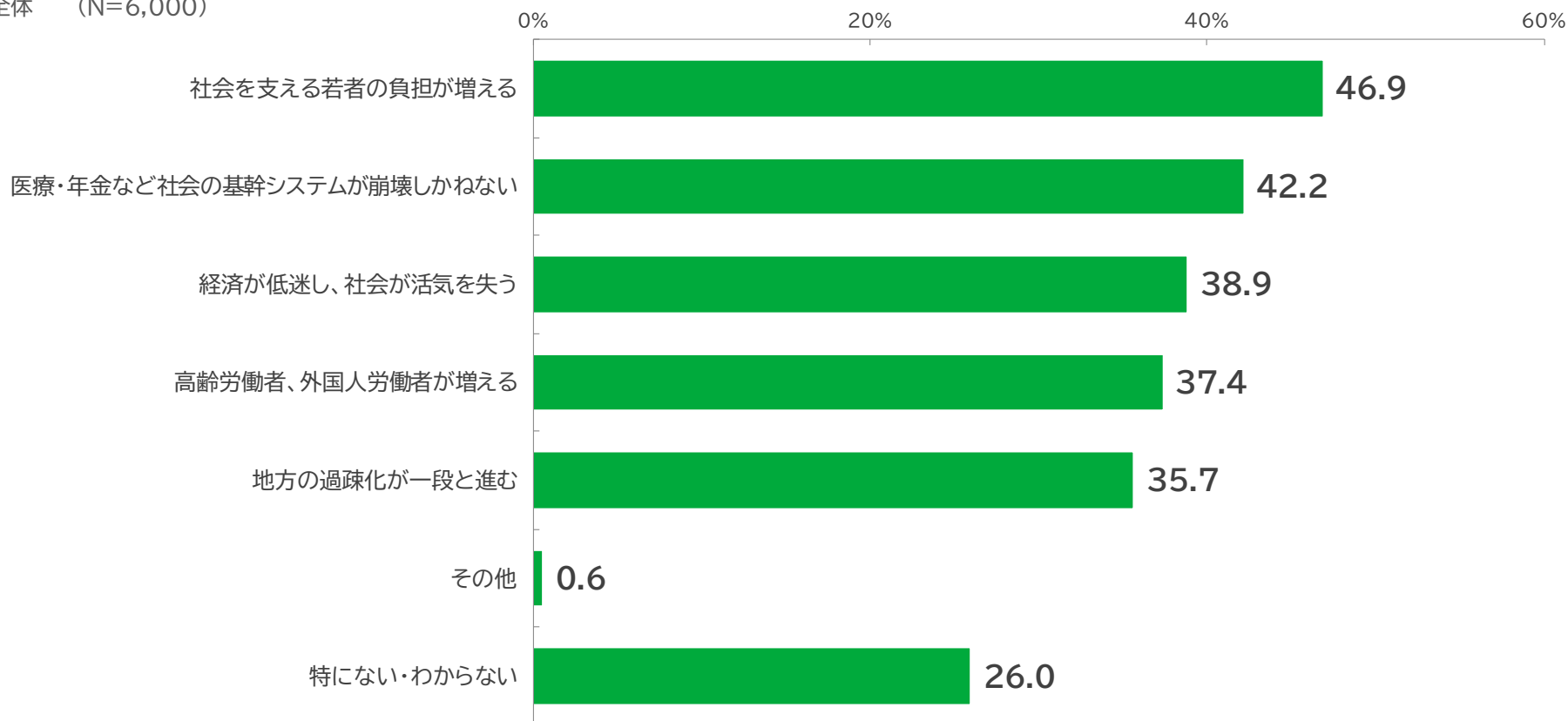
【全員】

少子化の進行で懸念されること

「社会を支える若者の負担が増える」が47%で最も多く、以下「医療・年金など社会の基幹システムが崩壊しかねない」(42%)、「経済が低迷し、社会が活気を失う」(39%)、「高齢労働者、外国人労働者が増える」(37%)と続く。

Q16.あなたは日本における少子化の進行により、どのような状況になることを懸念しますか。

全体 (N=6,000)



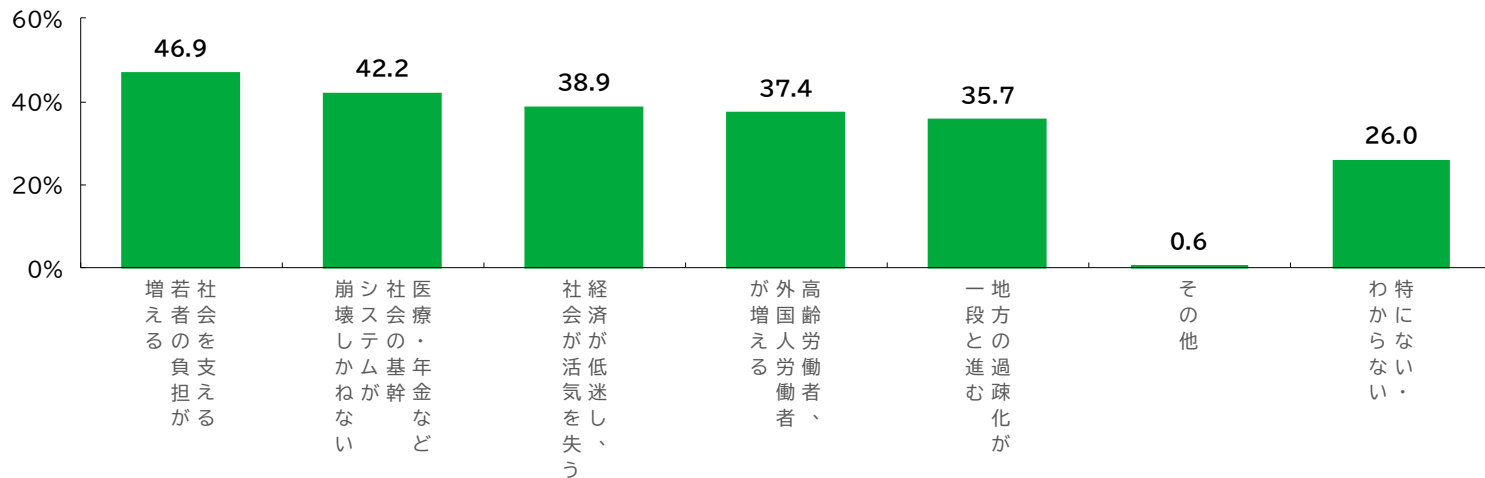
【全員】

少子化の進行で懸念されること



性年代別、居住区分別でも「社会を支える若者の負担が増える」が最多で、男女ともに36-45歳や政令指定都市では5割程度と高くなっている。このほか女性36-45歳では「医療・年金など社会の基幹システムが崩壊しかねない」、男性36-45歳では「経済が低迷し、社会が活気を失う」「地方の過疎化が一段と進む」も高く、4割を超える。

Q16.あなたは日本における少子化の進行により、どのような状況になることを懸念しますか。



		全体 (N=6,000)	46.9	42.2	38.9	37.4	35.7	0.6	26.0	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=938)	44.3	35.5	36.1	36.0	34.5	0.4	27.0		
	男性 26-35歳 (n=920)	43.2	42.1	40.4	37.1	37.8	1.0	27.8		
	男性 36-45歳 (n=1,190)	49.9	44.2	45.5	41.2	41.3	0.8	24.4		
	女性 15-25歳 (n=902)	45.6	40.5	30.7	32.7	29.2	0.0	28.3		
	女性 26-35歳 (n=893)	45.9	41.7	36.5	33.8	32.3	0.6	27.2		
	女性 36-45歳 (n=1,157)	50.6	47.3	41.1	41.1	37.0	0.5	22.5		
居住区分	東京23区 (n=594)	45.6	41.2	38.7	37.7	34.2	0.7	23.7		
	政令指定都市 (n=1,462)	51.9	45.8	42.5	41.8	35.2	0.4	22.8		
	中核市 (n=1,282)	44.4	40.5	38.0	35.3	36.4	0.5	25.5		
	それ以外の市 (n=2,077)	47.9	43.4	39.0	37.6	37.2	0.7	25.4		
	町村 (n=585)	37.6	33.5	31.3	29.7	31.8	0.5	39.0		

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

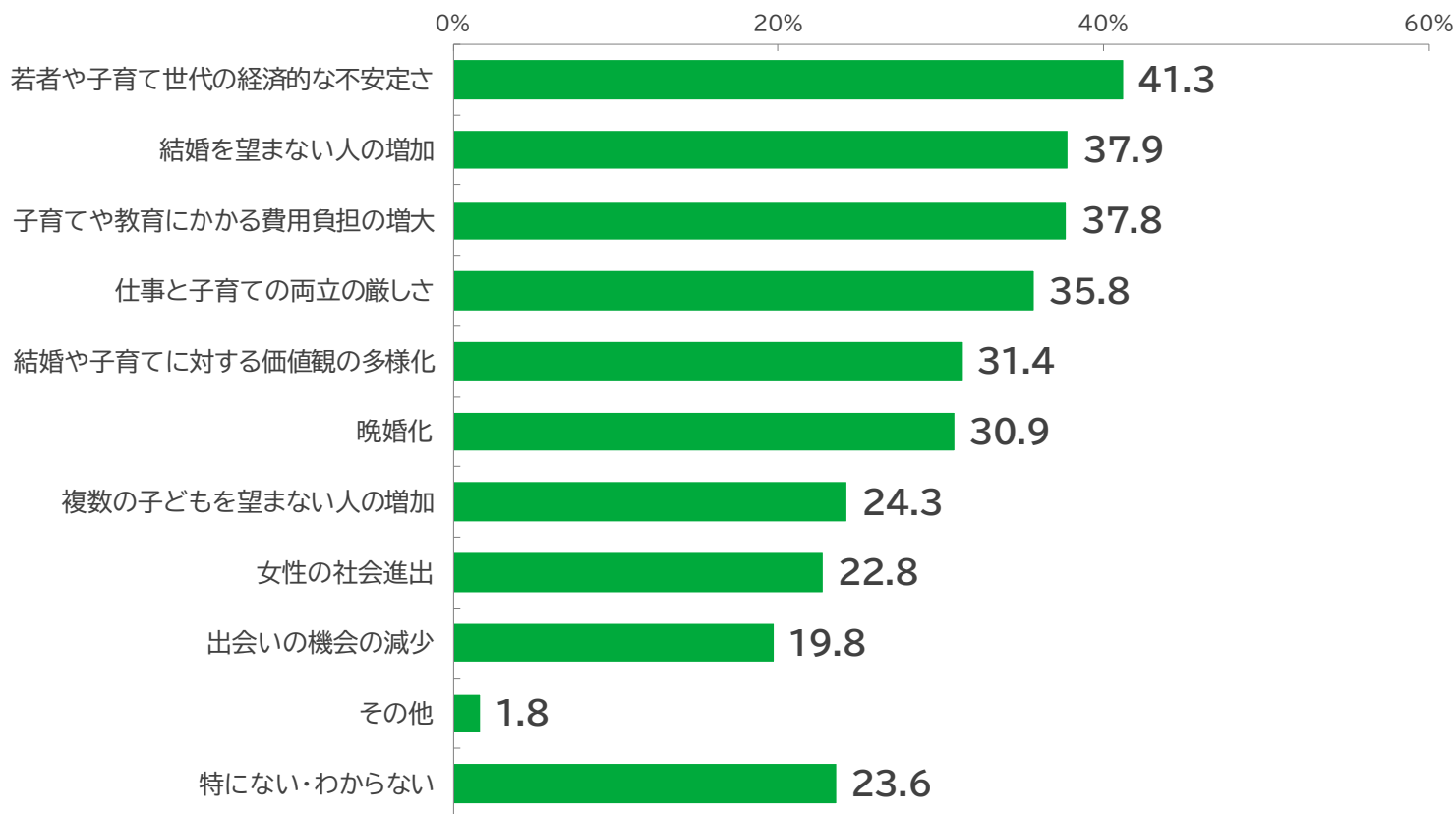
【全員】

合計特殊出生率の減少の原因①

「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」が41%で最多。次いで「結婚を望まない人の増加」(38%)、「子育てや教育にかかる費用負担の増大」(38%)、「仕事と子育ての両立の厳しさ」(36%)が上位に並ぶ。

Q17. 下記の表のように、合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に産む子どもの人数)が1970年から2020年にかけて減少しています。あなたは、この状況に対してどのようなことが原因だと思いますか。

全体 (N=6,000)



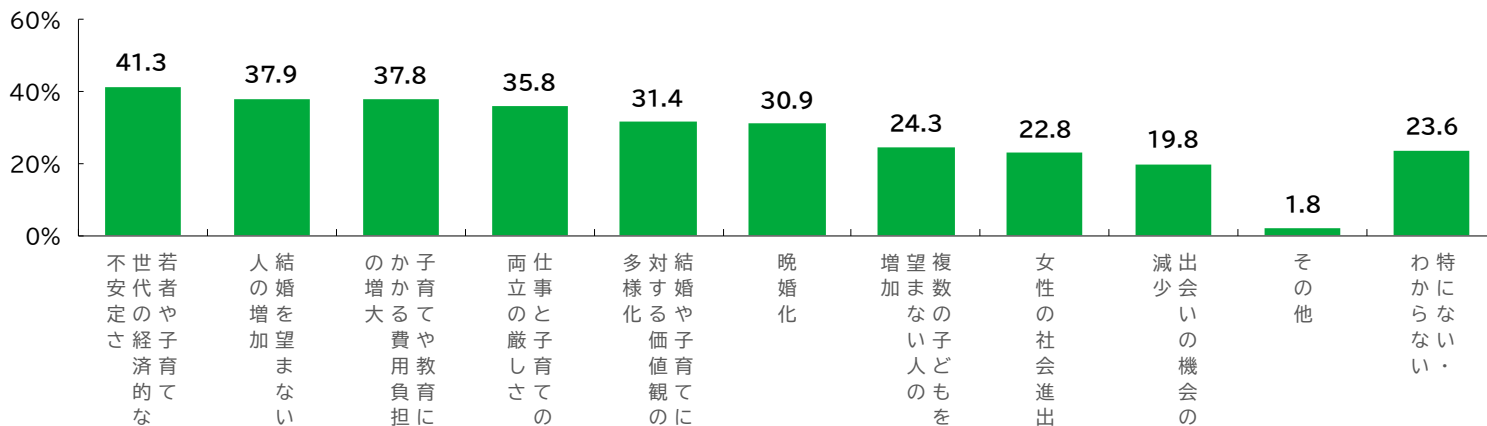
【全員】

合計特殊出生率の減少の原因②



性年代別でみると、男女ともに年代が上がるほど多くの項目について高い割合となっており、特に女性36-45歳で上位6項目が4~5割と高い。中でも「仕事と子育ての両立の厳しさ」は45%と、「若者や子育て世代の経済的な不安定さ」に次いで高くなっている。居住区分別でみると、全般に政令指定都市で高めで、「子育てや教育にかかる費用負担の増大」が2番目に高くなっている。

Q17. 下記の表のように、合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に産む子どもの人数）が1970年から2020年にかけて減少しています。あなたは、この状況に対してどのようなことが原因だと思いますか。



全体 (N=6,000)		41.3	37.9	37.8	35.8	31.4	30.9	24.3	22.8	19.8	1.8	23.6
性年代	男性 15-25歳 (n=938)	33.7	35.0	30.4	28.7	26.5	23.1	21.1	19.0	20.8	1.6	26.7
	男性 26-35歳 (n=920)	41.0	35.1	35.4	33.2	27.5	28.5	22.9	20.9	22.5	1.5	26.4
	男性 36-45歳 (n=1,190)	42.9	36.1	37.3	33.6	32.2	32.8	22.8	25.2	20.2	3.2	23.7
	女性 15-25歳 (n=902)	37.5	38.8	37.4	34.7	29.5	25.3	25.9	20.4	16.2	0.6	24.4
	女性 26-35歳 (n=893)	42.3	38.4	40.1	37.8	31.0	31.6	25.3	23.5	19.6	1.6	23.9
	女性 36-45歳 (n=1,157)	48.4	43.1	44.5	45.2	39.2	40.8	27.7	26.4	19.2	1.7	18.1
居住区分	東京23区 (n=594)	39.9	35.9	35.2	33.7	28.5	32.2	25.1	22.2	17.3	2.0	23.4
	政令指定都市 (n=1,462)	45.6	40.6	42.5	38.7	34.1	32.7	26.2	24.3	19.7	1.8	19.7
	中核市 (n=1,282)	39.2	37.1	35.1	34.4	29.8	29.8	24.3	23.6	20.9	1.6	22.6
	それ以外の市 (n=2,077)	43.0	39.2	39.4	37.4	33.3	31.8	24.4	22.6	20.0	1.6	23.1
	町村 (n=585)	30.8	30.1	28.5	28.0	23.9	23.9	18.8	19.0	18.8	2.1	37.6

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

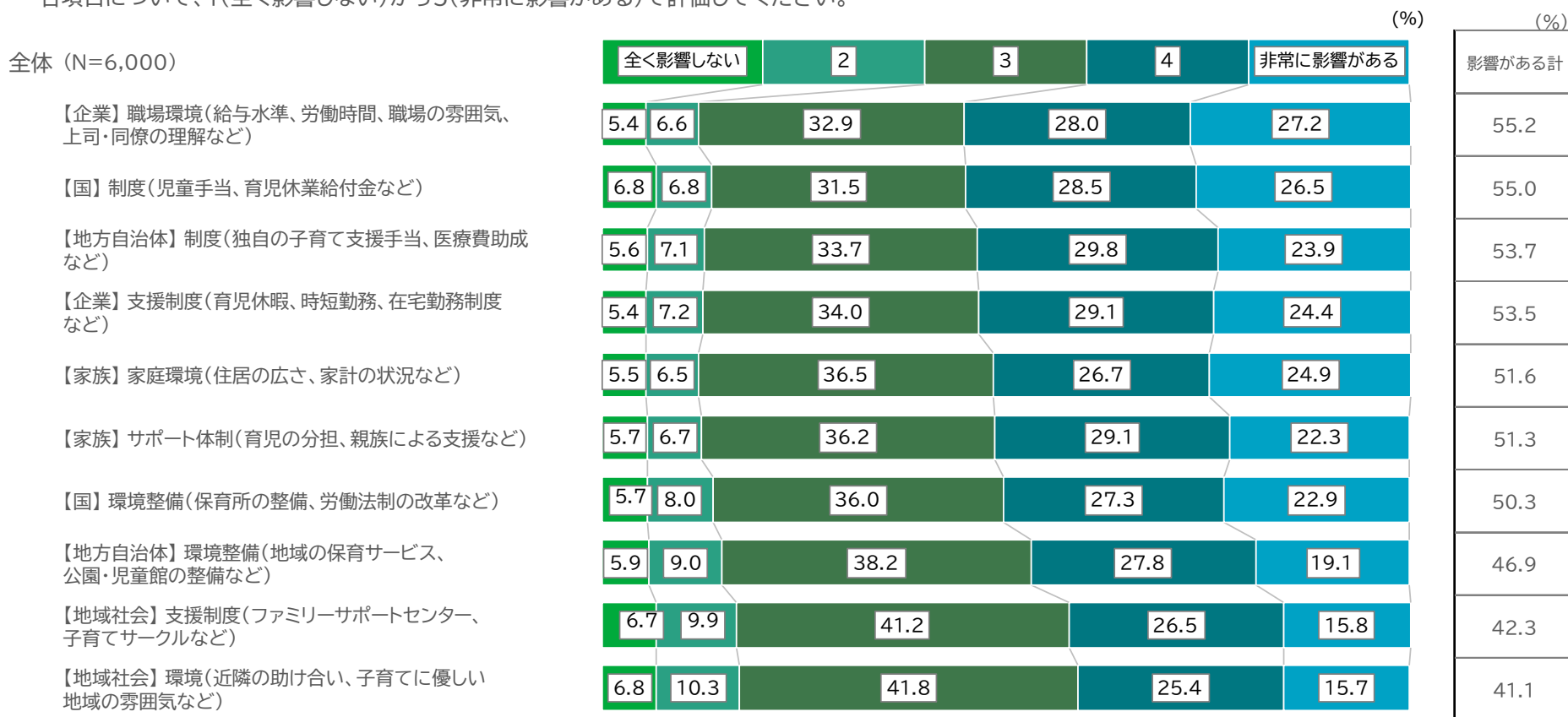
【全員】

出産・子育てに対する意思決定に対する影響度①



【企業】職場環境、【国】制度、【地方自治体】制度、【企業】支援制度、【家族】家庭環境、【家族】サポートは影響がある計が5割を超え、特に【企業】職場環境と【国】制度は「非常に影響がある」が27%と3割近い。

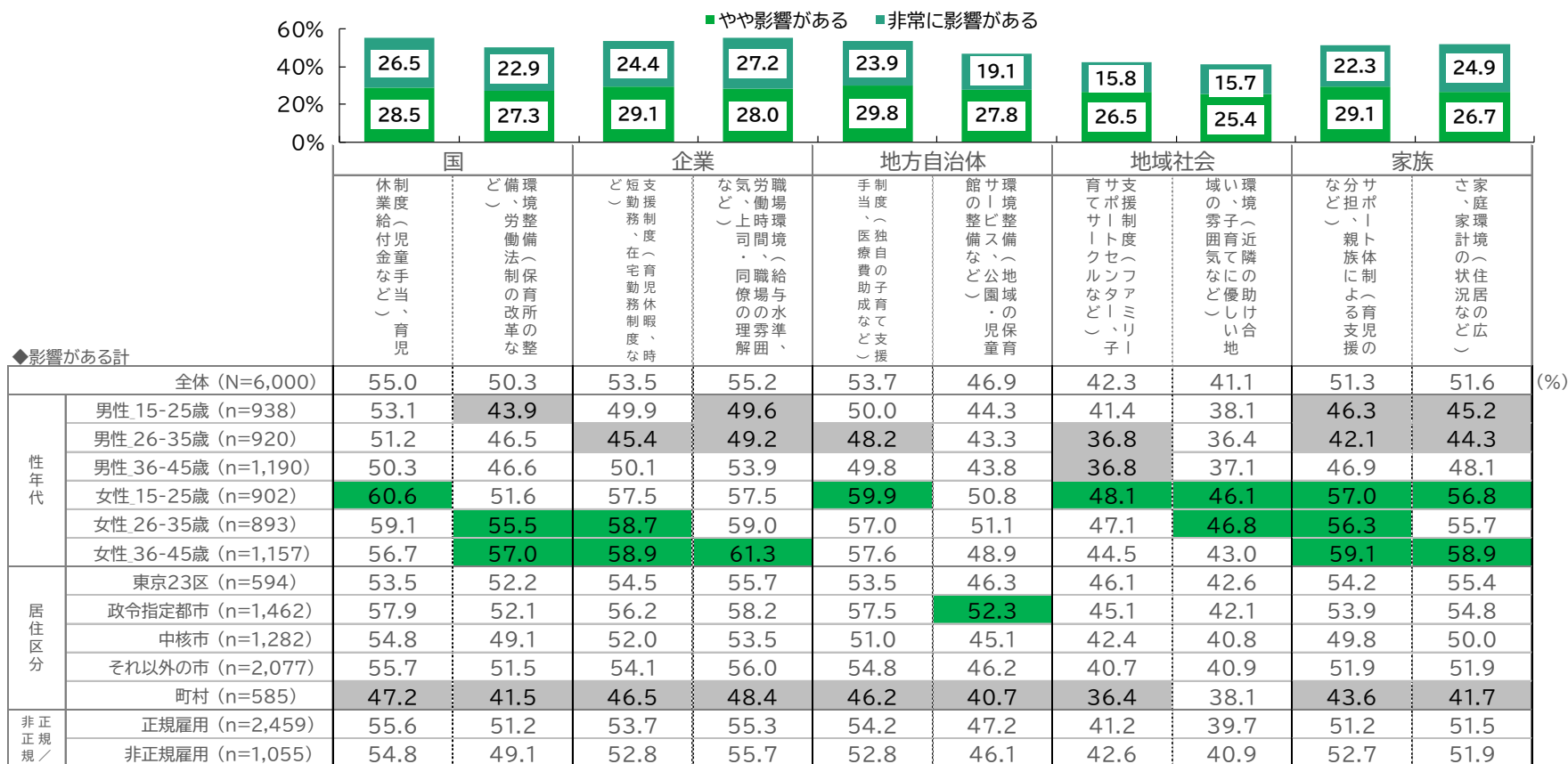
Q18.あなたは、以下のそれぞれの要因が、出産や子育てにどの程度影響を与えていると思いますか。各項目について、1(全く影響しない)から5(非常に影響がある)で評価してください。



出産・子育てに対する意思決定に対する影響度②

性年代別でみると、いずれも女性で「影響を与える」という認識が強くなっており、【国】や【地方自治体】の制度については女性15-25歳で6割にのぼる。【国】の環境整備や【企業】支援制度は女性の26-45歳で高く、【企業】職場環境は女性36歳以上で6割強に達する。【家族】サポート体制は女性はすべての年代で56%以上と高いのに対し、男性は女性よりも10ポイント程度低くなっている。居住区分別でみると、町村では全般に低く、影響がある計は5割を下回る。

Q18.あなたは、以下のそれぞれの要因が、出産や子育てにどの程度影響を与えますか。
各項目について、1(全く影響しない)から5(非常に影響がある)で評価してください。



【全員】
地域・企業・国の出産・子育てに対する対応についての考え

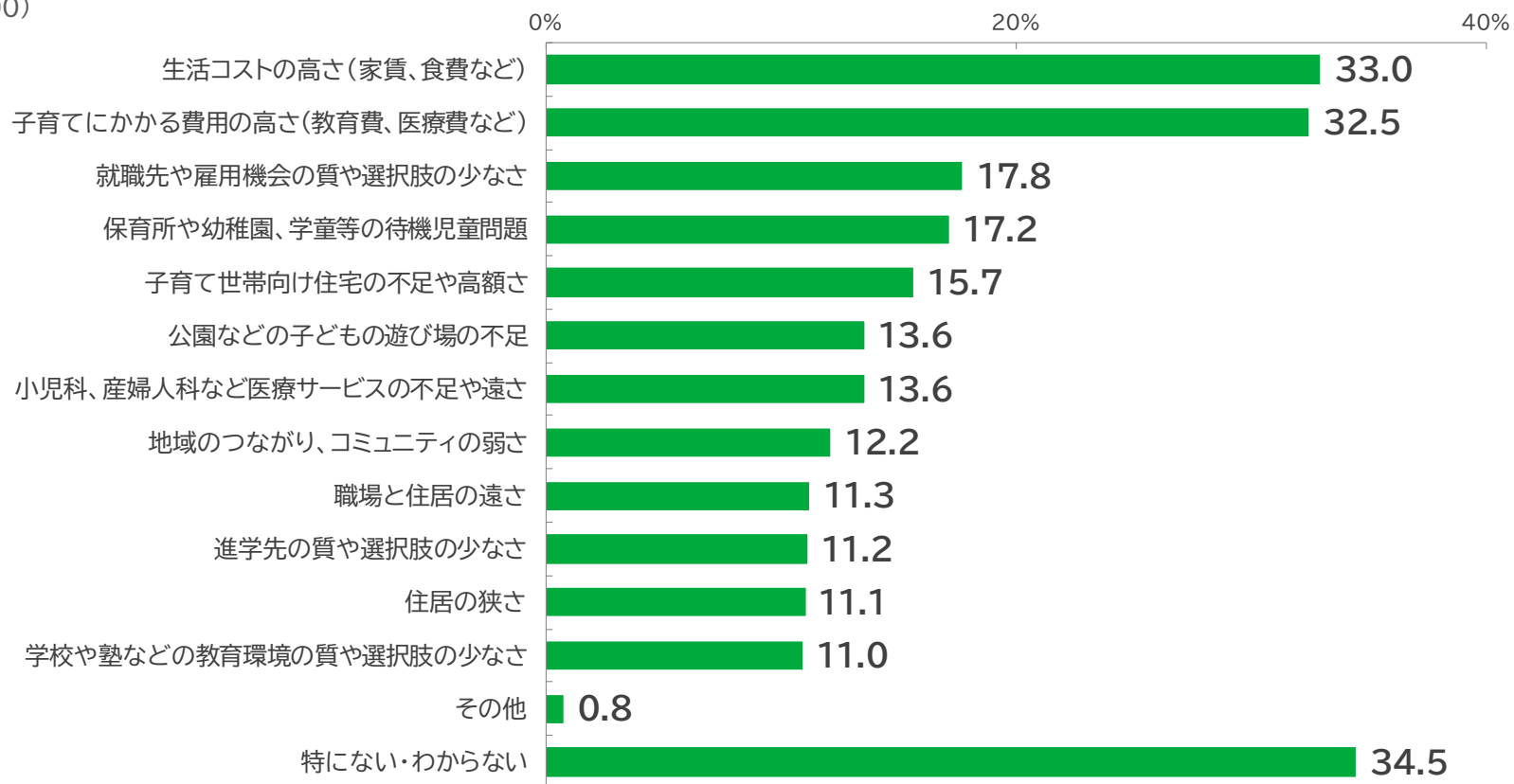
【全員】

地域で子育てをする上の障害①

上位2項目は「生活コストの高さ」(33%)、「子育てにかかる費用の高さ」(32.5%)で、「コスト」が主な障害となっているのがわかる。

Q19.あなたの住む地域で、出産・子育てをする上で障害となっていると感じる項目をすべてお選びください。

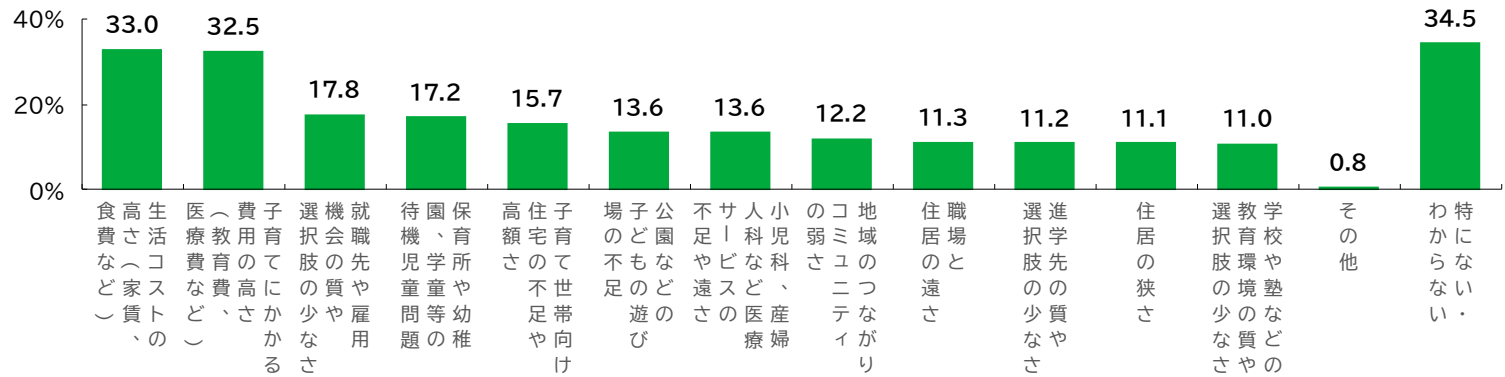
全体 (N=6,000)



地域で子育てをする上の障害②

「生活コストの高さ」は女性36-45歳と東京23区で約4割にのぼり、特に高いのが目立つ。一方で男性15-25歳や町村では2割台にとどまり、意識の違いが顕著となった。

Q19.あなたの住む地域で、出産・子育てをする上で障害となっていると感じる項目をすべてお選びください。



		全体 (N=6,000)	33.0	32.5	17.8	17.2	15.7	13.6	13.6	12.2	11.3	11.2	11.1	11.0	0.8	34.5
性年代	男性 15-25歳 (n=938)	25.7	25.7	12.7	12.5	13.4	16.7	12.2	14.0	11.5	13.9	10.1	12.4	0.4	37.3	
	男性 26-35歳 (n=920)	33.2	30.9	17.6	16.2	15.7	12.1	11.4	12.9	11.7	11.7	11.5	10.2	0.8	37.0	
	男性 36-45歳 (n=1,190)	33.9	34.2	19.7	16.4	14.9	10.6	12.0	11.0	12.5	9.8	11.8	9.7	1.4	34.0	
	女性 15-25歳 (n=902)	31.4	32.9	15.7	18.1	14.6	14.7	12.3	12.1	10.4	12.5	8.4	11.0	0.4	35.6	
	女性 26-35歳 (n=893)	33.7	33.4	19.3	20.6	19.5	13.9	15.5	10.3	11.1	9.2	10.4	10.4	0.8	32.3	
	女性 36-45歳 (n=1,157)	38.4	36.5	20.7	19.4	16.2	14.0	17.8	12.7	10.5	10.4	13.3	12.4	1.0	31.5	
居住区分	東京23区 (n=594)	39.9	33.7	15.7	20.5	17.8	15.8	10.6	12.5	13.1	11.6	17.3	10.4	1.0	29.1	
	政令指定都市 (n=1,462)	37.1	35.2	16.7	19.6	17.2	12.9	12.8	13.1	11.6	9.8	13.1	10.1	0.9	33.4	
	中核市 (n=1,282)	30.5	31.7	19.7	16.8	15.0	12.5	13.6	11.6	10.0	10.2	9.6	12.3	0.4	33.5	
	それ以外の市 (n=2,077)	32.2	32.5	18.2	16.3	15.0	14.4	14.8	11.8	11.4	12.4	9.9	10.9	1.0	34.5	
	町村 (n=585)	23.8	26.3	17.4	12.1	13.7	12.1	14.7	12.0	11.5	11.8	7.2	11.3	0.9	44.4	
意向別	子どもあり (n=1,569)	37.5	37.1	18.1	21.9	19.3	17.8	17.7	12.9	11.7	11.5	15.6	12.7	0.8	23.4	
	子どもなし&持つ意向あり (n=1,650)	34.7	32.5	18.2	19.0	18.1	15.1	15.3	14.5	13.7	14.1	12.4	12.6	0.6	27.3	
	子どもなし&持つ意向なし (n=1,580)	33.6	33.5	19.7	15.0	12.7	11.6	11.3	11.6	10.6	10.4	8.7	9.8	1.1	38.4	

■ : 全体より+5ポイント以上 ■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】

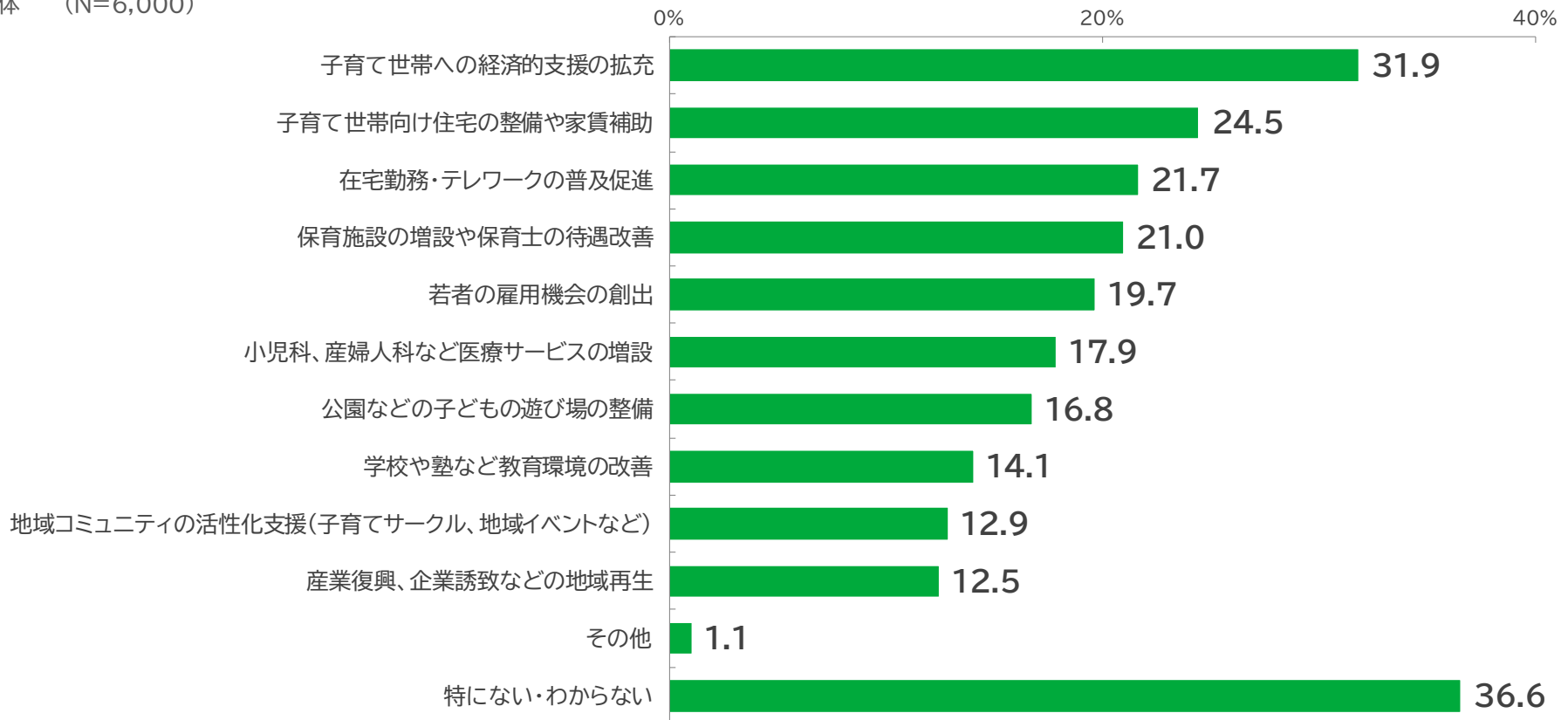
地域で子育ての障害を解消するためにほしい取り組み①



「子育て世帯への経済的支援の拡充」(32%)を筆頭に、「子育て世帯向け住宅の整備や家賃補助」(25%)、「在宅勤務・テレワークの普及促進」(22%)、「保育施設の増設や保育士の待遇改善」(21%)が上位に挙げられている。

Q20.あなたの住む地域で、出産・子育ての障害を解消するため、実施してほしい取り組みをすべてお選びください。

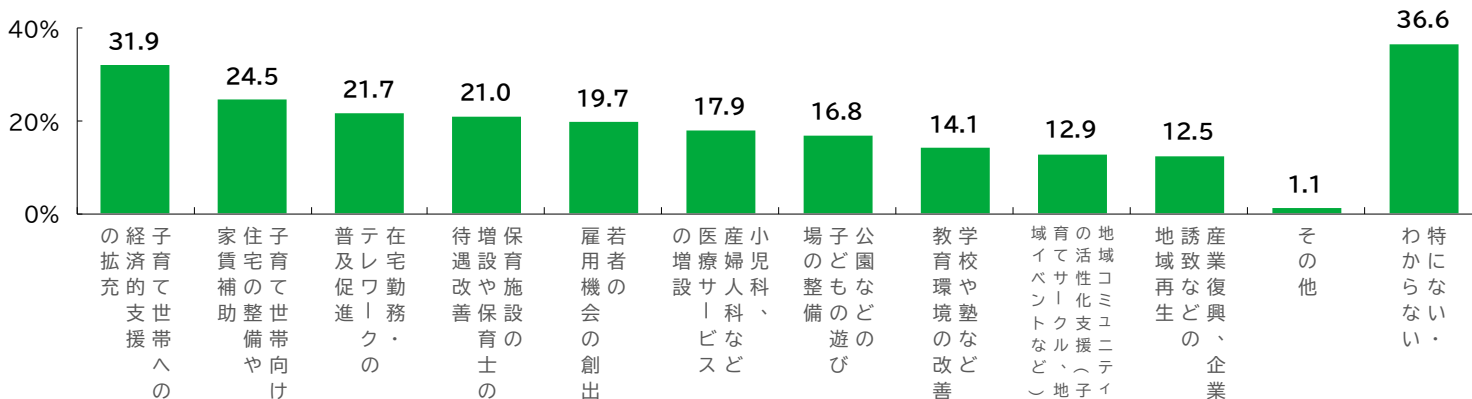
全体 (N=6,000)



地域で子育ての障害を解消するためにほしい取り組み②

いずれの年代も「子育て世帯への経済的支援の拡充」が最多で、年代が上がるほどその割合が高い。女性の26-35歳では「在宅勤務・テレワークの普及促進」が2番目に高く、また「子育て世帯向け住宅の整備や家賃補助」も3割近くにのぼり、他層に比べて高めとなっている。子どもあり層では上位2項目が特に高いほか、「小児科、産婦人科など医療サービスの増設」「公園などの子どもの遊び場の整備」も2割を超え、子ども持つ意向あり層とともにニーズが高い。

Q20.あなたの住む地域で、出産・子育ての障害を解消するため、実施してほしい取り組みをすべてお選びください。



		全体 (N=6,000)	31.9	24.5	21.7	21.0	19.7	17.9	16.8	14.1	12.9	12.5	1.1	36.6
性年代	男性 15-25歳 (n=938)	28.4	21.1	18.4	17.8	19.0	14.0	17.3	16.5	13.1	13.6	0.7	37.8	
	男性 26-35歳 (n=920)	29.8	23.2	20.2	20.0	21.5	15.1	15.2	12.5	12.7	12.6	1.3	38.8	
	男性 36-45歳 (n=1,190)	32.9	25.6	19.7	19.6	21.2	17.5	15.0	13.8	11.8	15.7	2.0	35.2	
	女性 15-25歳 (n=902)	28.0	23.9	23.7	21.3	19.3	17.3	17.4	14.1	13.5	10.5	0.3	36.4	
	女性 26-35歳 (n=893)	35.2	26.7	27.3	25.4	19.4	20.7	17.4	13.2	12.8	11.4	0.9	35.4	
	女性 36-45歳 (n=1,157)	35.6	26.1	21.6	22.4	17.8	22.2	18.5	14.6	13.6	10.5	1.1	36.3	
居住区分	東京23区 (n=594)	28.1	24.7	24.1	22.6	20.4	15.3	16.3	13.0	14.5	12.8	1.2	34.2	
	政令指定都市 (n=1,462)	34.5	26.7	24.6	22.5	19.2	17.4	16.7	14.8	14.4	11.8	1.3	34.9	
	中核市 (n=1,282)	31.4	24.0	21.3	21.4	20.5	17.9	15.8	14.7	13.9	13.7	0.7	35.3	
	それ以外の市 (n=2,077)	33.3	25.0	21.1	21.2	20.4	19.1	18.1	14.7	11.3	12.3	1.1	36.4	
	町村 (n=585)	24.8	18.1	15.2	14.5	15.9	18.1	14.7	10.3	11.1	12.0	1.5	46.8	
意向別	子どもあり (n=1,569)	42.9	31.7	21.6	24.4	17.1	22.9	22.6	18.7	14.5	11.5	1.3	23.7	
	子どもなし&持つ意向あり (n=1,650)	34.4	27.6	24.4	23.6	23.1	21.1	19.5	16.3	16.8	16.1	0.8	29.2	
	子どもなし&持つ意向なし (n=1,580)	26.2	20.6	22.7	19.2	21.5	14.1	12.2	11.1	9.7	11.9	1.4	43.2	

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】

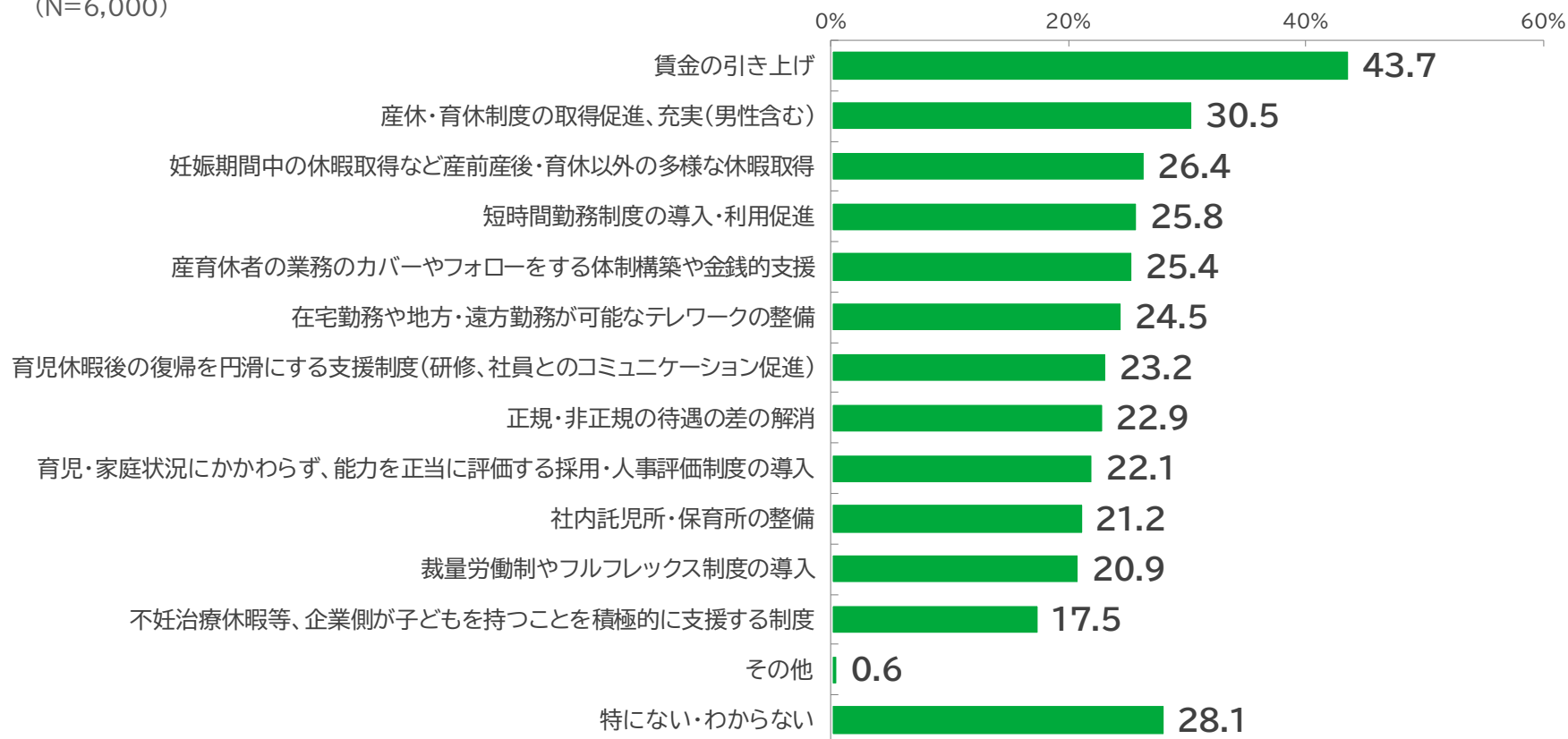
出産や子育てをしやすくするために企業が力をいれるべきこと①



「賃金の引き上げ」が44%で最も多く、次いで「産休・育休制度の取得促進、充実」(31%)。その他の項目についても2割台の僅差で続き、多様なニーズがみとれる。

Q21.あなたは、出産や子育てをしやすくするために、企業が力をいれるべきことは何だと思いますか。

全体 (N=6,000)



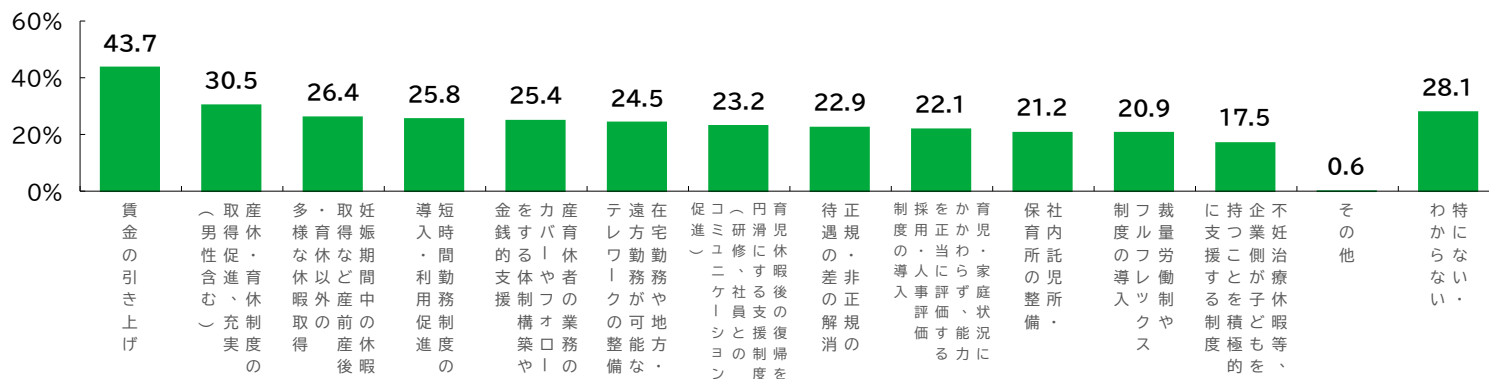
【全員】

出産や子育てをしやすくするために企業が力をいれるべきこと②



性年代別でみると、「賃金の引き上げ」は男女差もなく、いずれの年代でも最多となっているが、「短時間勤務制度の導入・利用促進」については女性の26-45歳で3割以上と高くなっている。また女性では「社内託児所・保育所の整備」が年代が上がるほど高い割合となっているのが特徴的。全般に女性で高めとなっており、ニーズは多岐にわたる。

Q21.あなたは、出産や子育てをしやすくするために、企業が力をいれるべきことは何だと思いませんか？



		全体 (N=6,000)	43.7	30.5	26.4	25.8	25.4	24.5	23.2	22.9	22.1	21.2	20.9	17.5	0.6	28.1
性年代	男性 15-25歳 (n=938)	38.6	27.4	23.1	19.8	19.8	20.9	20.7	21.2	18.2	15.9	16.0	15.1	0.6	30.9	
	男性 26-35歳 (n=920)	42.9	28.0	22.0	24.5	26.4	22.5	22.3	21.4	20.5	17.4	21.8	15.2	0.7	30.4	
	男性 36-45歳 (n=1,190)	48.2	28.5	23.5	22.6	22.9	23.5	19.7	24.7	19.7	18.7	21.9	14.4	1.0	26.3	
	女性 15-25歳 (n=902)	37.8	34.7	31.2	24.5	24.5	25.1	23.8	18.6	23.8	20.8	18.3	19.3	0.2	29.6	
	女性 26-35歳 (n=893)	44.5	32.5	30.6	30.9	29.1	27.7	27.4	21.6	25.5	25.5	22.4	19.9	0.2	26.8	
	女性 36-45歳 (n=1,157)	47.8	32.2	28.7	31.9	29.6	27.3	26.0	27.8	25.2	27.9	24.0	20.9	0.9	25.6	
居住区分	東京23区 (n=594)	41.8	29.3	26.1	24.9	25.6	27.6	22.4	21.7	21.4	21.0	23.9	19.9	1.0	25.9	
	政令指定都市 (n=1,462)	45.9	32.4	29.0	27.4	27.4	25.8	23.7	25.2	23.6	23.1	21.0	17.0	0.6	25.6	
	中核市 (n=1,282)	40.6	28.5	25.8	25.4	23.8	24.6	21.8	22.0	22.2	20.7	21.0	18.6	0.5	27.5	
	それ以外の市 (n=2,077)	46.8	32.5	27.0	26.7	26.0	24.3	25.4	23.7	22.3	21.5	21.6	17.3	0.6	27.5	
	町村 (n=585)	35.6	23.9	19.5	19.8	22.1	19.0	18.5	17.1	18.5	16.8	15.0	13.8	0.7	39.8	
正 / 正規 非正規	正規雇用 (n=2,459)	46.0	29.0	25.6	25.4	26.4	24.5	22.8	21.4	21.4	19.9	22.9	17.6	0.7	24.5	
	非正規雇用 (n=1,055)	45.9	31.0	26.6	27.9	25.1	23.9	23.7	31.2	22.7	23.4	19.8	16.8	0.5	27.2	

■ : 全体より+5ポイント以上 ■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】岸田政権の「異次元の少子化対策」への評価

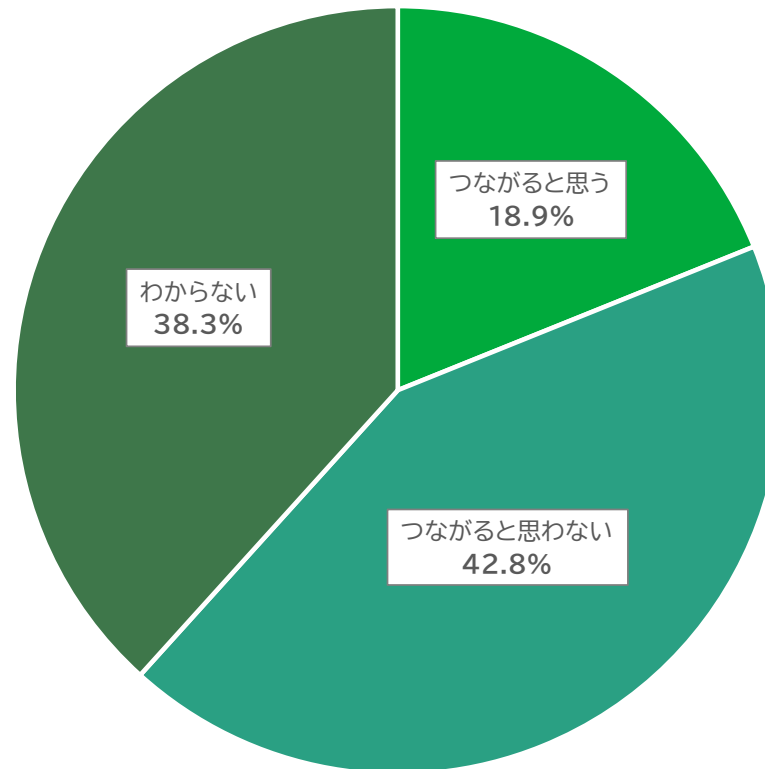
【全員】

「異次元の少子化対策」が少子化改善につながるか①

「つながると思う」は19%と2割程度。「つながると思わない」(43%)と「わからない」(38%)がともに4割前後を占める。

Q22.岸田政権の「異次元の少子化対策」は少子化の改善につながると思えますか。

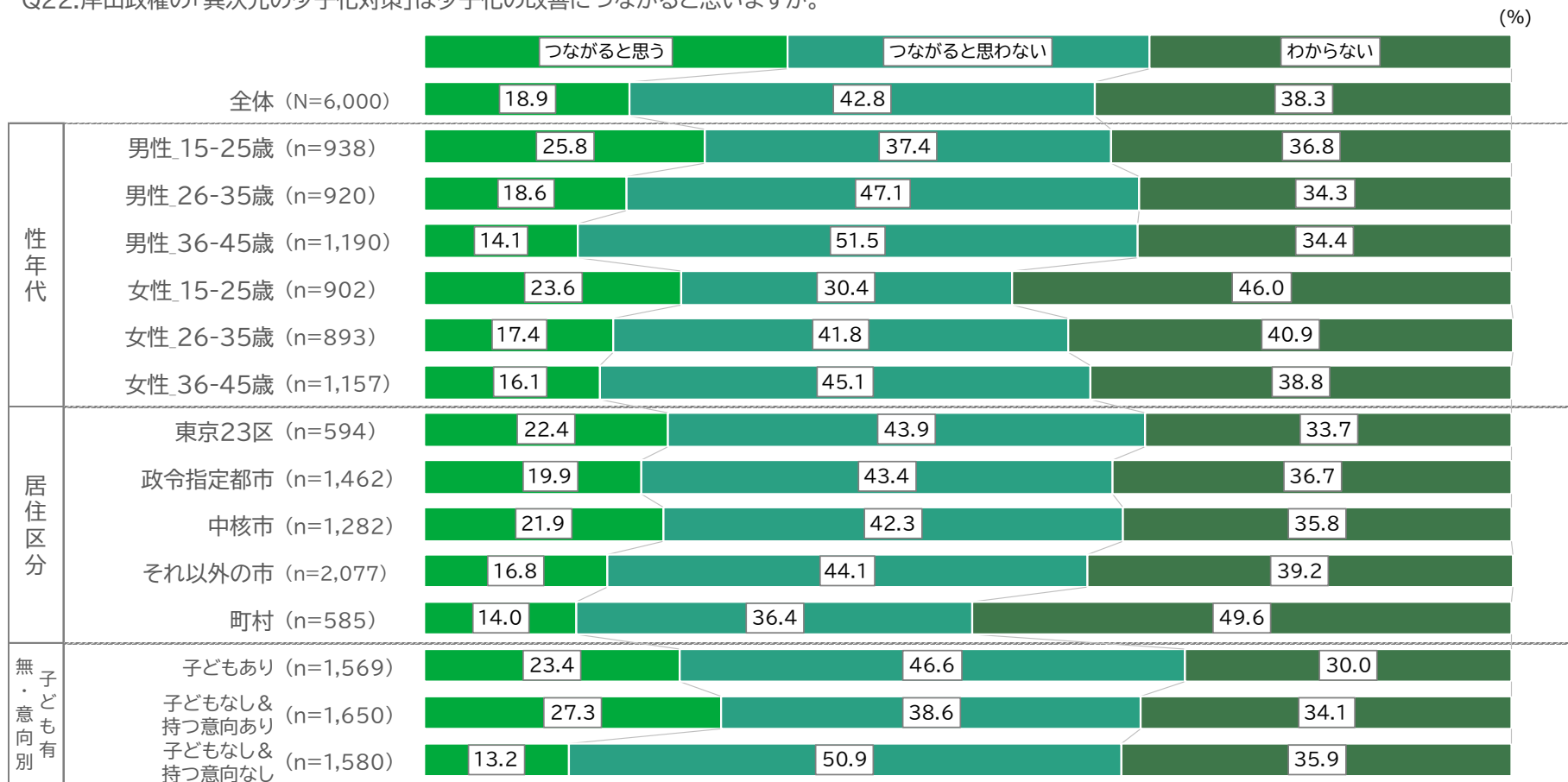
(N=6,000)



「異次元の少子化対策」が少子化改善につながるか②

女性では「わからない」の回答が男性に比べて多く、4割前後を占める。男性の26歳以上では「つながると思わない」が5割前後を占め、女性よりも高くなっている。居住区別では東京23区や政令指定都市、中核市では「つながると思う」が2割前後を占め、それ以外の市や町村に比べて高い。子ども有無・意向別では、子どもなし・意向あり層で「つながると思う」が他層に比べて高いが、回答は大きく分かれる。子どもなし・意向なし層では「つながると思わない」が5割を占める。

Q22.岸田政権の「異次元の少子化対策」は少子化の改善につながると感じますか。

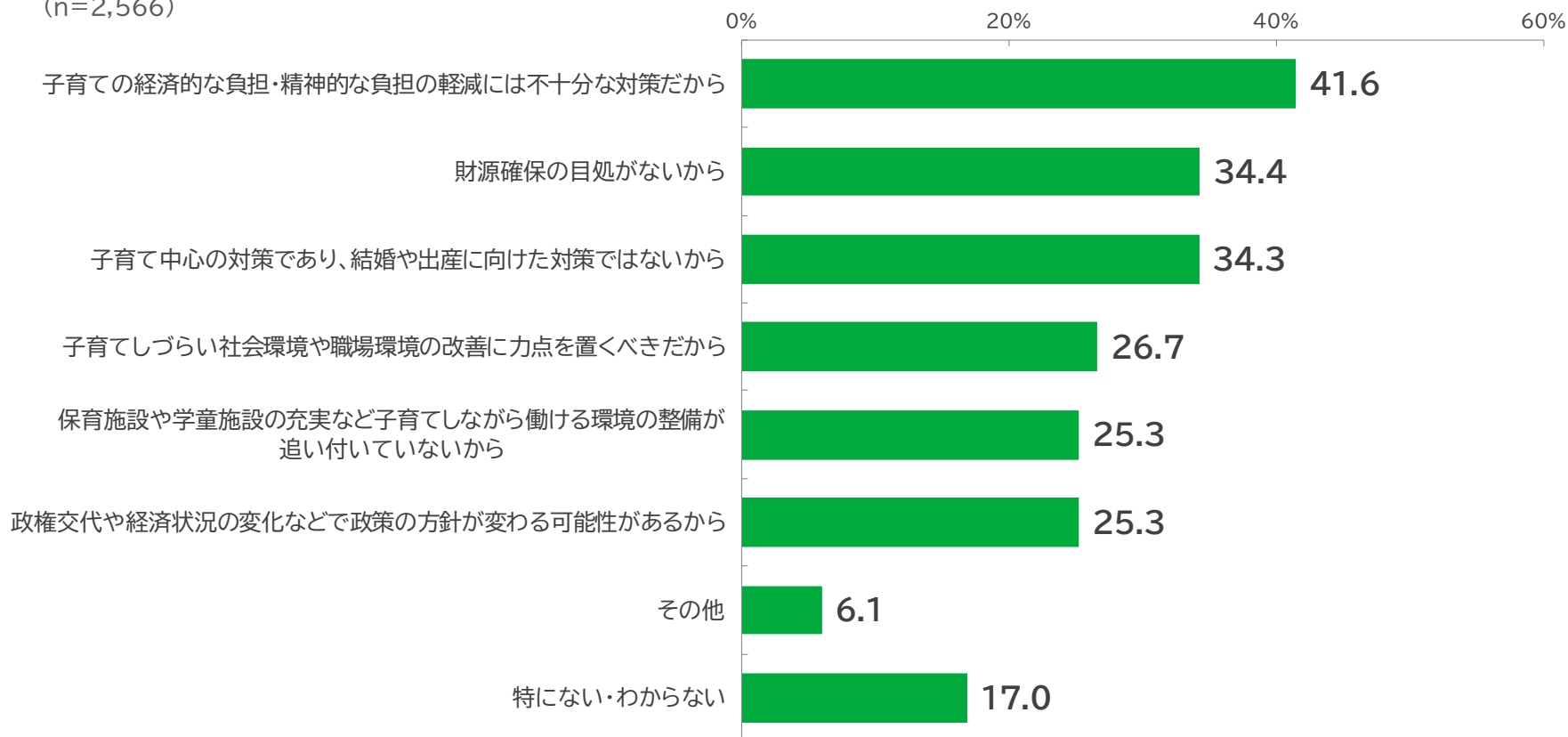


【前問で「異次元の少子化対策」は「改善につながると思わない」と回答した人】 「異次元の少子化対策」が少子化改善になぜつながらないか①

「子育ての経済的な負担・精神的な負担の軽減には不十分は対策だから」が最も多く(42%)、次いで「財源確保の目処がないから」、「子育て中心の対策であり、結婚や出産に向けた対策ではないから」(ともに34%)が続く。

Q23.なぜ岸田政権の「異次元の少子化対策」は少子化の改善につながらないと思いますか。

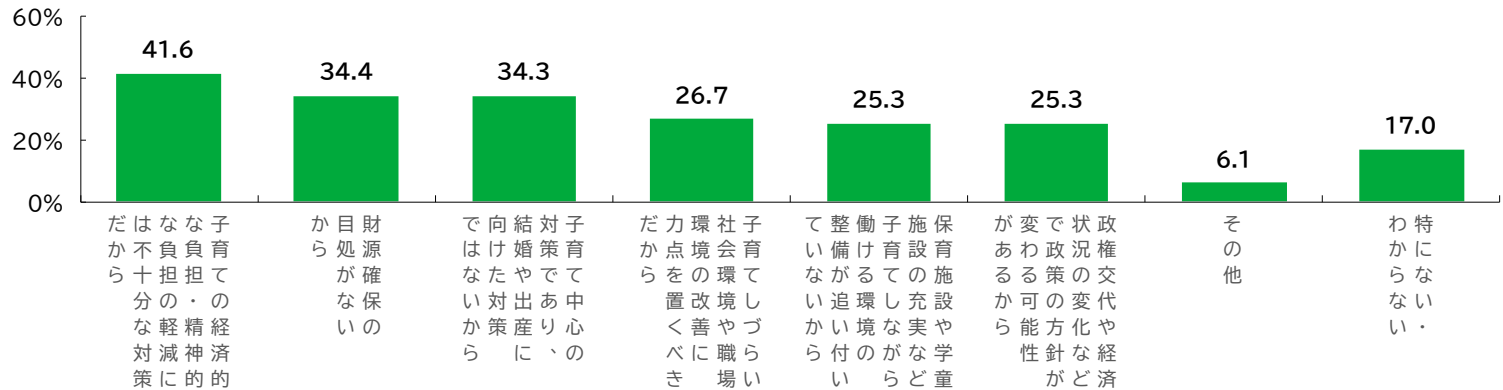
全体 (n=2,566)



【前問で「異次元の少子化対策」は「改善につながると思わない」と回答した人】 「異次元の少子化対策」が少子化改善になぜつながらないか②

性年代別では大きな差はみられないが、「子育ての経済的な負担・精神的負担の軽減には不十分な対策だから」は男女ともに26歳以上の各層で、「財源確保の目処がないから」は男女ともに15-25歳と36-45歳で、それぞれ高め。居住区分別でみると、東京23区で「財源確保の、目処がないから」が他層より高く、4割にのぼる。町村ではすべての項目で全体値を下回り、「特になし・わからない」が2割を超える。子ども有無・意向別では、子どもあり層で「子育ての経済的な負担・精神的負担の軽減には不十分な対策だから」が目立って高く、5割近い。

Q23.なぜ岸田政権の「異次元の少子化対策」は少子化の改善につながらないと思いますか。



		全体 (n=2,566)	41.6	34.4	34.3	26.7	25.3	25.3	6.1	17.0
性年代	男性 15-25歳 (n=351)	35.3	33.6	31.3	25.9	20.2	23.6	5.1	18.5	
	男性 26-35歳 (n=433)	40.4	30.5	36.7	26.8	22.9	26.1	5.5	21.2	
	男性 36-45歳 (n=613)	44.5	35.9	38.5	25.3	25.0	27.6	9.6	15.7	
	女性 15-25歳 (n=274)	39.1	38.0	29.6	26.3	24.5	19.0	3.6	16.8	
	女性 26-35歳 (n=373)	43.7	33.5	31.1	26.5	29.8	23.1	5.9	16.1	
	女性 36-45歳 (n=522)	43.1	35.2	33.9	29.3	28.2	28.0	4.6	14.6	
居住区分	東京23区 (n=261)	40.2	39.8	38.7	23.4	25.3	23.0	6.5	16.9	
	政令指定都市 (n=635)	39.8	36.2	32.8	29.9	26.5	25.4	7.6	17.5	
	中核市 (n=542)	41.3	33.9	36.0	27.1	24.9	29.0	5.2	16.1	
	それ以外の市 (n=915)	44.3	33.1	34.3	26.3	26.6	24.2	6.0	15.4	
	町村 (n=213)	37.6	29.1	28.6	22.1	16.9	23.5	4.2	24.4	
意向別	子どもあり (n=731)	48.2	33.4	30.1	27.9	27.2	26.5	6.6	13.5	
	子どもなし&持つ意向あり (n=637)	37.5	37.5	35.8	25.1	24.3	25.1	5.7	16.0	
	子どもなし&持つ意向なし (n=805)	40.7	32.8	37.9	27.7	24.7	23.6	6.2	17.0	

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】少子化対策の財源や社会的責任についての考え

【全員】

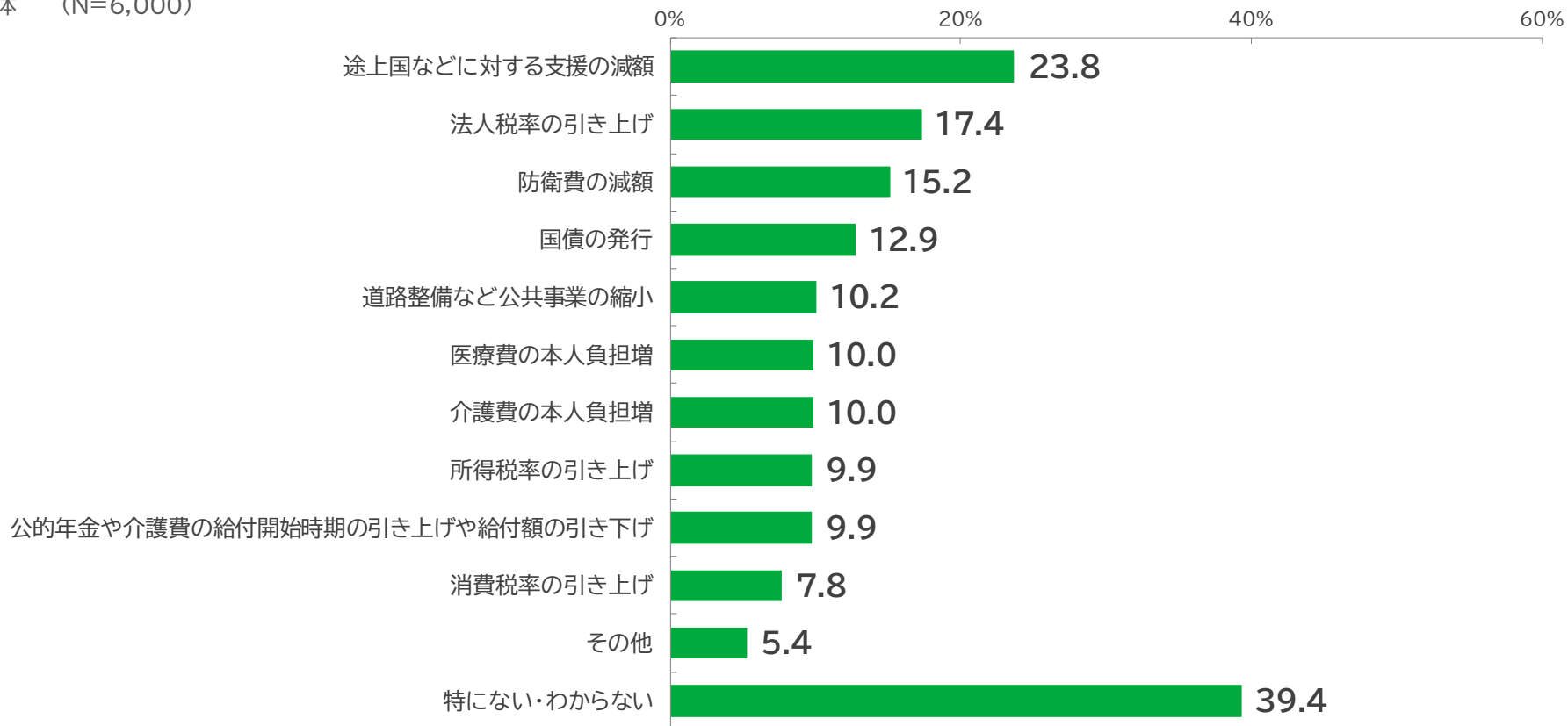
財源確保の方法



「途上国などに対する支援の減額」(24%)を筆頭に、「法人税率の引き上げ」(17%)、「防衛費の減額」(15%)、「国債の発行」(13%)と続く。

Q24. 少子化対策の予算増額のためには、どのような方法で財源を確保したらよいと思いますか。

全体 (N=6,000)



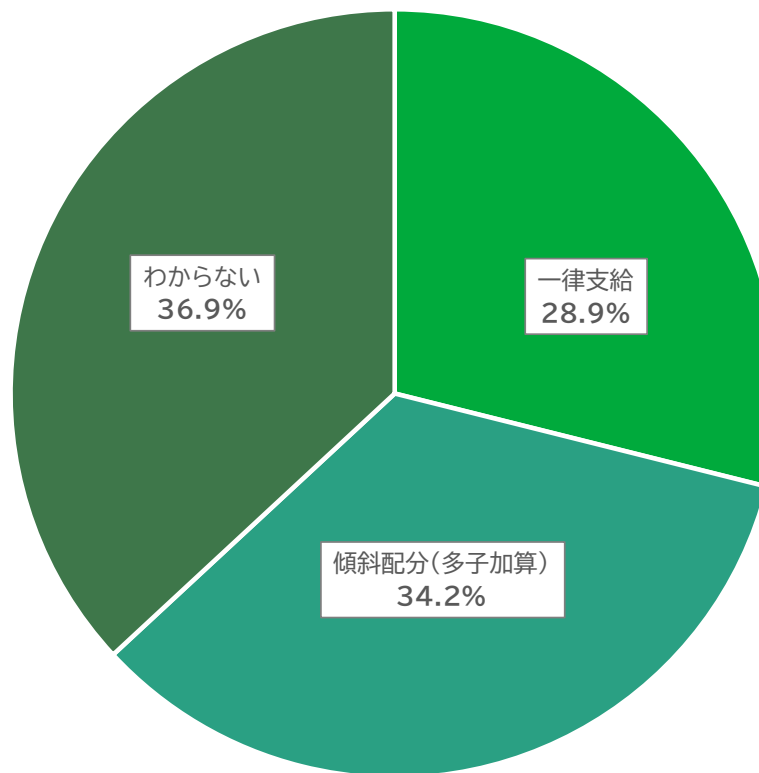
【全員】

子育て支援(手当)の在り方①

子育て支援については、「一律支援」が29%、「傾斜配分」が34%を占める。「わからない」の回答が最も多く、37%と4割近い。

Q25.子育て支援(手当)には、子どもの人数に関わらず一律に支給する方法と、子どもの人数に応じて支給する方法とがあり、支援の在り方としてはどちらが望ましいと思いますか。

(N=6,000)



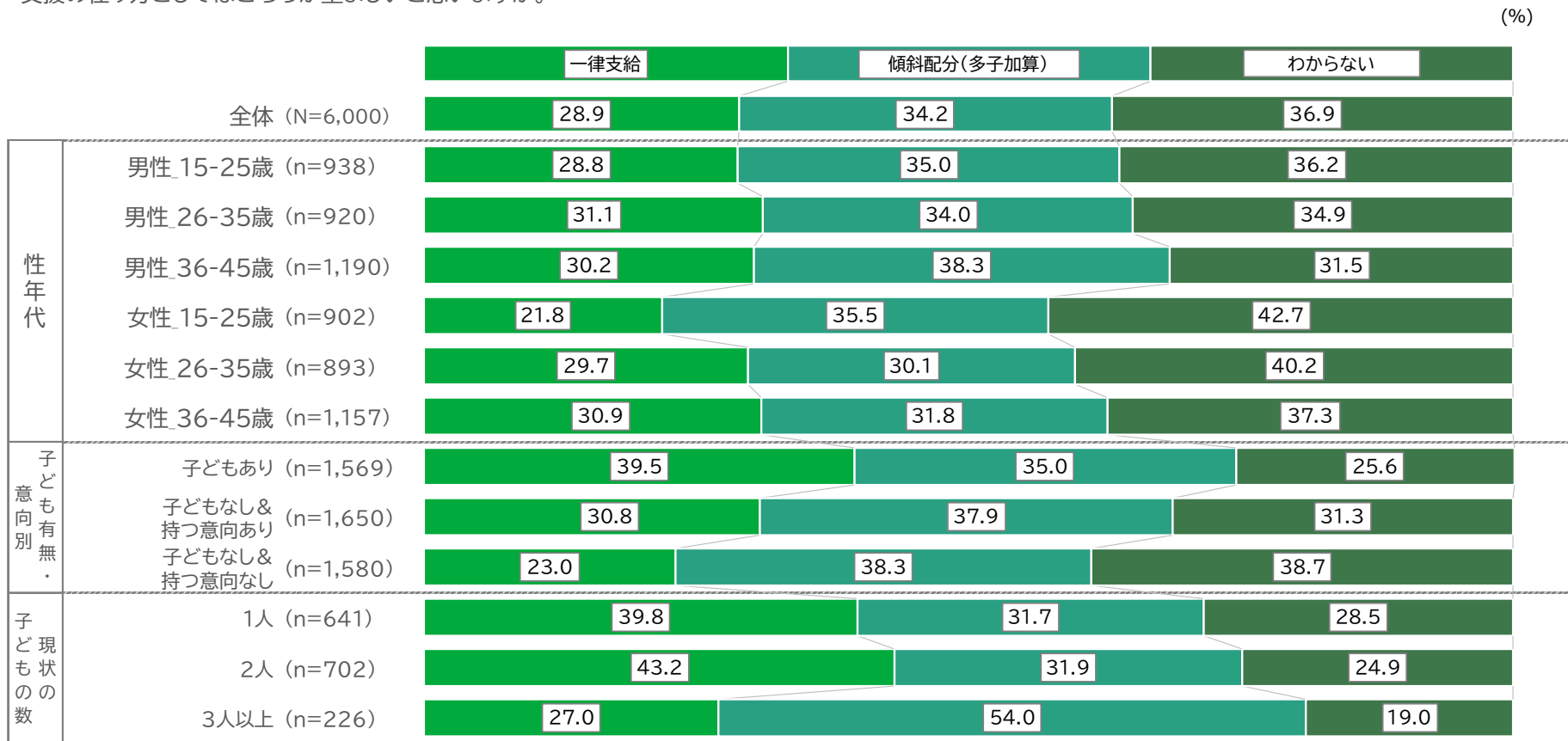
【全員】

子育て支援(手当)の在り方②



男性は36-45歳で「傾斜配分」の回答が多く、「一律支給」はいずれの年代も3割程度。女性は15-25歳で「傾斜配分」が36%と、「一律支給」(22%)を大きく上回るが、26歳以上では「一律支給」と「傾斜配分」が30~32%で同程度。また女性は「分からない」の回答が男性に比べて多く、4割前後を占める。子ども有無・意向別では子どもあり層で「一律支給」が4割と多いが、子どもなし&意向なし層では「傾斜配分」が4割弱と多い。現状の子どもの数別では1人、2人の各層では「一律支給」が多く、3人以上層では「傾斜配分」が5割を超える。

Q25.子育て支援(手当)には、子ども的人数に関わらず一律に支給する方法と、子ども的人数に応じて支給する方法とがあり、支援の在り方としてはどちらが望ましいと思いますか。



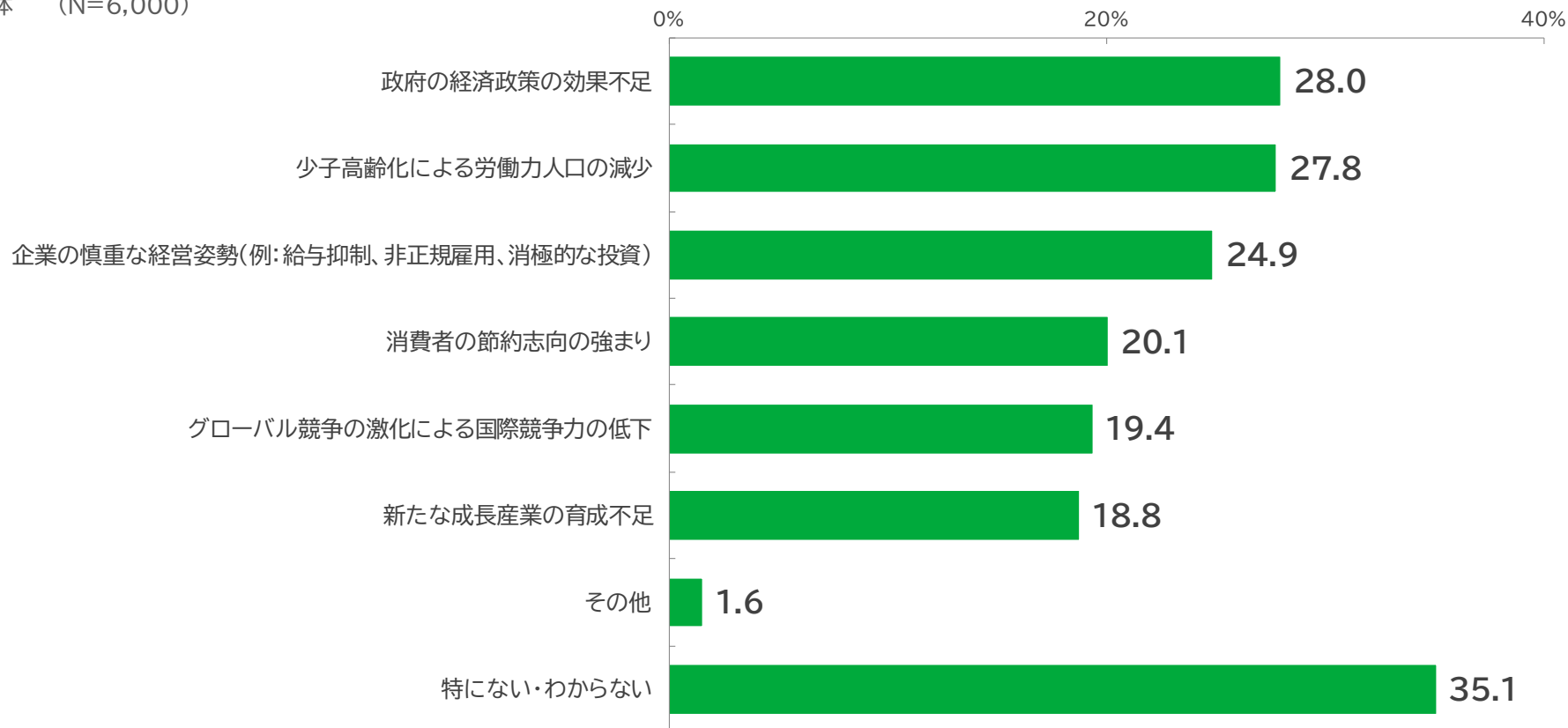
【全員】

失われた30年の要因①

「政府の経済政策の効果不足」「少子高齢化による労働力人口の減少」がともに28%で上位に並ぶ。次いで「企業の慎重な経営姿勢」(25%)、「消費者の節約志向の強まり」(20%)が2割以上。「特にない・わからない」が35%となっている。

Q26. 1990年代初頭のバブル経済崩壊後、日本の経済成長率は低くとどまり、賃金水準も低迷が続いています。
あなたの経験や見聞きしたことを踏まえ、この期間の経済停滞に影響を与えたと思われる要因を3つまでお選びください。

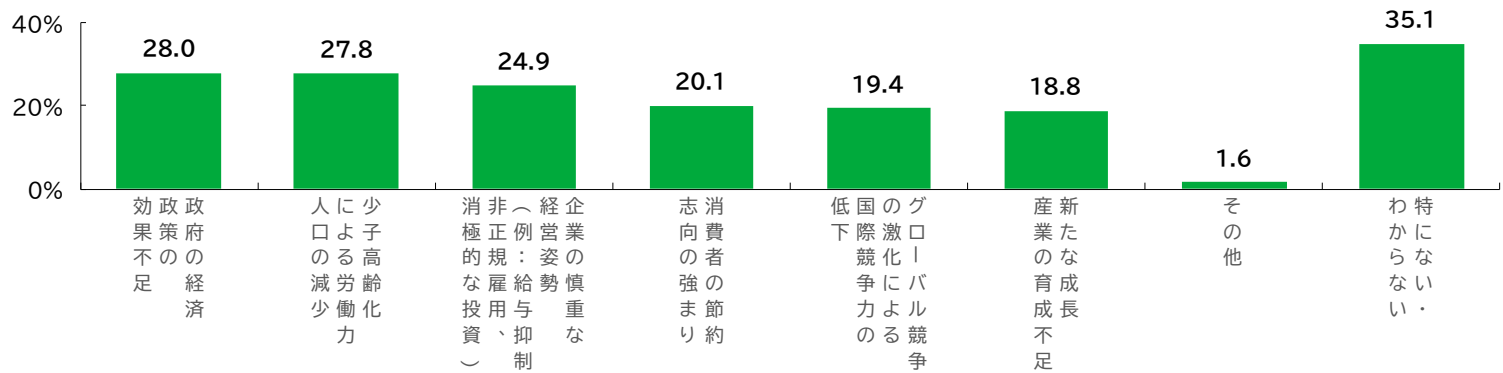
全体 (N=6,000)



失われた30年の要因②

性年代別でみると、男性36-45歳は「企業の慎重な経営姿勢」が3割を超え、「政府の経済政策の効果不足」(33%)とともに上位に入る。女性の35歳以下では「少子高齢化による労働力人口の減少」が3割前後で最多。居住区別では大きな差はみられないが、町村では全般に低く、「特にない・わからない」が5割近い。正規・非正規別では、正規雇用で「グローバル競争の激化による国際競争力の低下」の割合が2割を超え、非正規雇用との差がやや大きい。

Q26.1990年代初頭のバブル経済崩壊後、日本の経済成長率は低くとどまり、賃金水準も低迷が続いています。あなたの経験や見聞きしたことを踏まえ、この期間の経済停滞に影響を与えたと思われる要因を3つまでお選びください。



		全体 (N=6,000)	28.0	27.8	24.9	20.1	19.4	18.8	1.6	35.1	(%)
性年代	男性 15-25歳 (n=938)	26.7	27.8	20.9	20.8	20.1	19.9	1.6	35.0		
	男性 26-35歳 (n=920)	29.2	26.7	27.3	20.0	21.2	20.3	1.7	34.2		
	男性 36-45歳 (n=1,190)	32.9	25.9	30.8	20.5	22.9	22.2	3.4	29.3		
	女性 15-25歳 (n=902)	25.4	32.7	20.6	18.1	18.6	15.1	0.2	37.4		
	女性 26-35歳 (n=893)	24.3	28.3	22.8	19.9	15.2	17.4	1.0	40.0		
	女性 36-45歳 (n=1,157)	27.8	26.5	24.9	21.1	17.6	16.9	1.3	36.3		
居住区分	東京23区 (n=594)	28.1	26.4	26.6	22.9	20.9	22.4	2.7	31.0		
	政令指定都市 (n=1,462)	28.9	30.2	27.1	20.7	22.7	20.8	1.5	31.6		
	中核市 (n=1,282)	28.2	27.3	24.3	20.5	19.3	19.1	1.7	33.8		
	それ以外の市 (n=2,077)	29.2	28.3	24.8	19.7	18.7	17.6	1.5	36.1		
	町村 (n=585)	20.7	22.9	19.0	16.4	12.5	13.3	1.0	47.4		
正 / 非正規	正規雇用 (n=2,459)	29.2	28.6	26.4	21.6	22.2	20.3	1.8	31.2		
	非正規雇用 (n=1,055)	26.4	27.5	26.7	18.8	15.5	16.3	1.2	38.7		

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

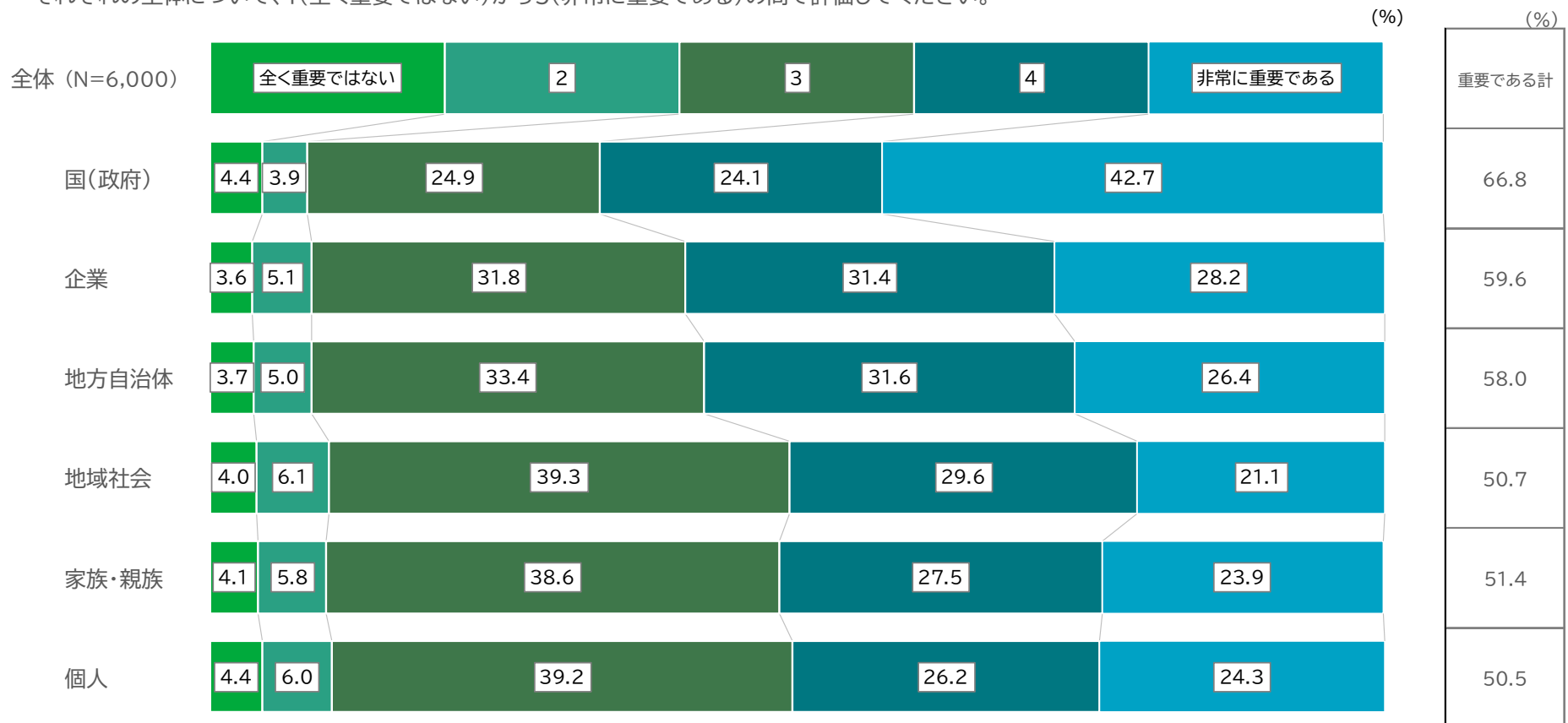
【全員】

子どもを産み育てやすい社会における社会的責任や役割①



重要度が最も高いのは、国(政府)で67%。「非常に重要である」が43%を占める。次いで、企業(60%)、地方自治体(58%)の順となっている。地域社会、家族・親族、個人についても約5割が重要と認識している。

Q27. 今後、日本が子どもを産み育てやすい社会になるために、以下の各主体の社会的責任や役割がどの程度重要だと思いますか。それぞれの主体について、1(全く重要ではない)から5(非常に重要である)の間で評価してください。



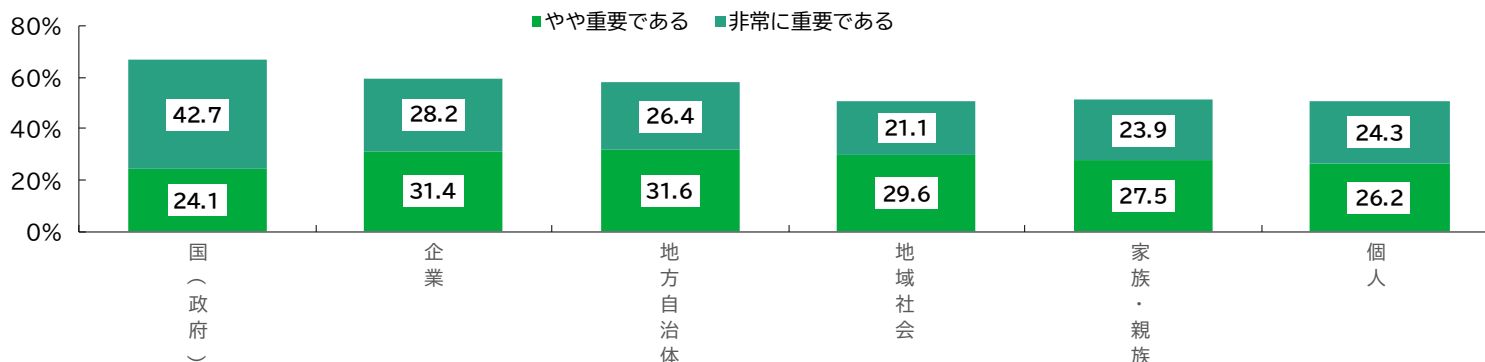
【全員】

子どもを産み育てやすい社会における社会的責任や役割②



性年代別で見ると、女性ではすべての項目について重要合計が5割を超え、中でも36-45歳では企業や地方自治体が66~67%と7割近い。家族・親族についても15-25歳とともに重要な認識が強いが、男性では5割未満となっており、認識に違いがみとれる。居住区分別で見ると、町村では全般に低く、各主体に対する責任や役割についての意識はやや低い。

Q27. 今後、日本が子どもを産み育てやすい社会になるために、以下の各主体の社会的責任や役割がどの程度重要だと思いますか。それぞれの主体について、1(全く重要ではない)から5(非常に重要である)の間で評価してください。



◆重要である計

		全体 (N=6,000)	国 (政府)	企業	地方自治体	地域社会	家族・親族	個人	(%)
性年代	全体 (N=6,000)	66.8	59.6	58.0	50.7	51.4	50.5		
	男性 15-25歳 (n=938)	63.0	55.9	52.9	47.0	49.1	46.9		
	男性 26-35歳 (n=920)	62.4	53.4	52.7	44.5	44.0	45.8		
	男性 36-45歳 (n=1,190)	66.6	59.7	57.6	47.1	47.1	46.3		
	女性 15-25歳 (n=902)	68.3	58.4	57.2	54.4	56.5	54.2		
	女性 26-35歳 (n=893)	69.0	61.8	59.9	54.0	53.6	54.2		
女性 36-45歳 (n=1,157)	70.9	66.5	65.9	56.9	57.8	55.5			
居住区分	東京23区 (n=594)	67.7	60.8	57.6	52.0	55.2	55.1		
	政令指定都市 (n=1,462)	70.2	61.8	61.6	53.2	52.7	52.4		
	中核市 (n=1,282)	65.4	56.5	55.6	49.1	50.2	48.2		
	それ以外の市 (n=2,077)	68.5	62.0	60.3	52.0	52.6	51.4		
	町村 (n=585)	55.0	51.1	46.3	41.7	42.9	42.6		
正 / 正規 非正規	正規雇用 (n=2,459)	68.4	60.6	60.4	51.1	50.5	50.1		
	非正規雇用 (n=1,055)	66.2	58.7	58.5	52.5	51.5	49.4		

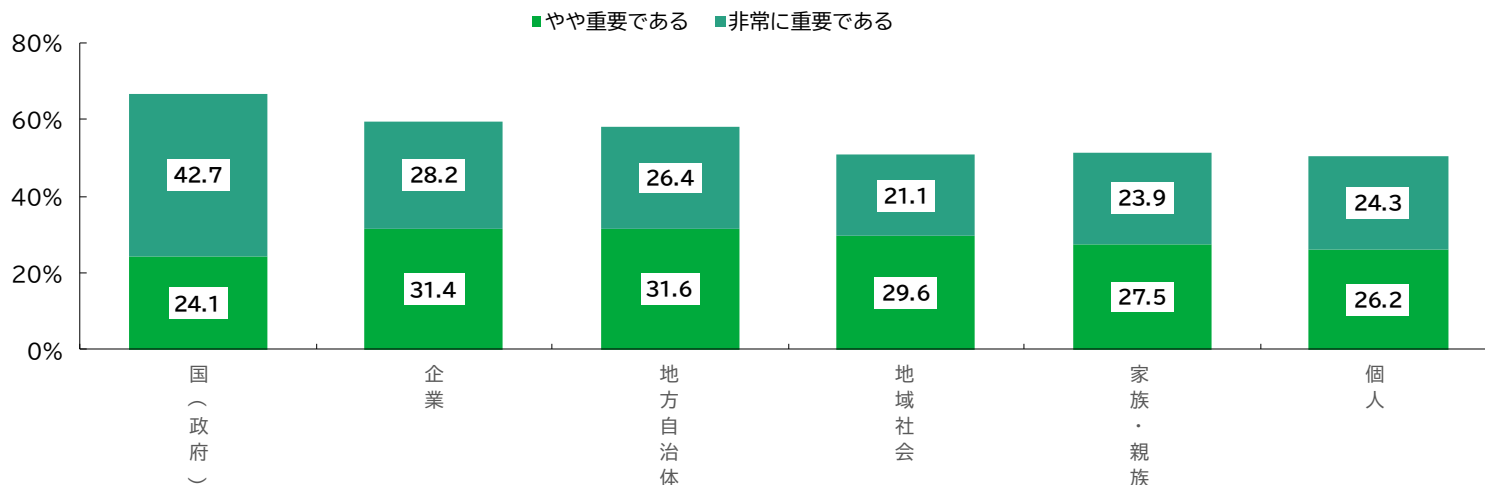
■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

子どもを産み育てやすい社会における社会的責任や役割③

現状の子どもの数別で見ると、2人や3人以上になると各主体に対する責任や役割が重要という意識が強くなる傾向が顕著で、国(政府)については7割を超え、3人以上では企業や地方自治体についても7割近い。子ども有無・意向別で見ると、子どもなし&持つ意向あり層では家族・親族や個人についても重要という認識が強い。

Q27. 今後、日本が子どもを産み育てやすい社会になるために、以下の各主体の社会的責任や役割がどの程度重要だと思いますか。それぞれの主体について、1(全く重要ではない)から5(非常に重要である)の間で評価してください。



◆重要である計

		全体 (N=6,000)	国(政府)	企業	地方自治体	地域社会	家族・親族	個人	(%)
子ども現状の数	1人 (n=641)	67.7	67.7	59.8	60.4	54.1	53.5	54.0	
	2人 (n=702)	72.5	72.5	63.8	64.7	55.8	57.5	54.8	
	3人以上 (n=226)	73.0	73.0	66.8	66.8	59.3	56.2	52.2	
子ども意向	子どもあり (n=1,569)	70.6	70.6	62.6	63.2	55.6	55.7	54.1	
	子どもなし&持つ意向あり (n=1,650)	70.0	70.0	63.9	61.9	56.8	57.5	57.3	
	子どもなし&持つ意向なし (n=1,580)	68.9	68.9	61.1	56.6	48.0	50.5	49.2	

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】少子化による労働力不足に対する考え

【全員】

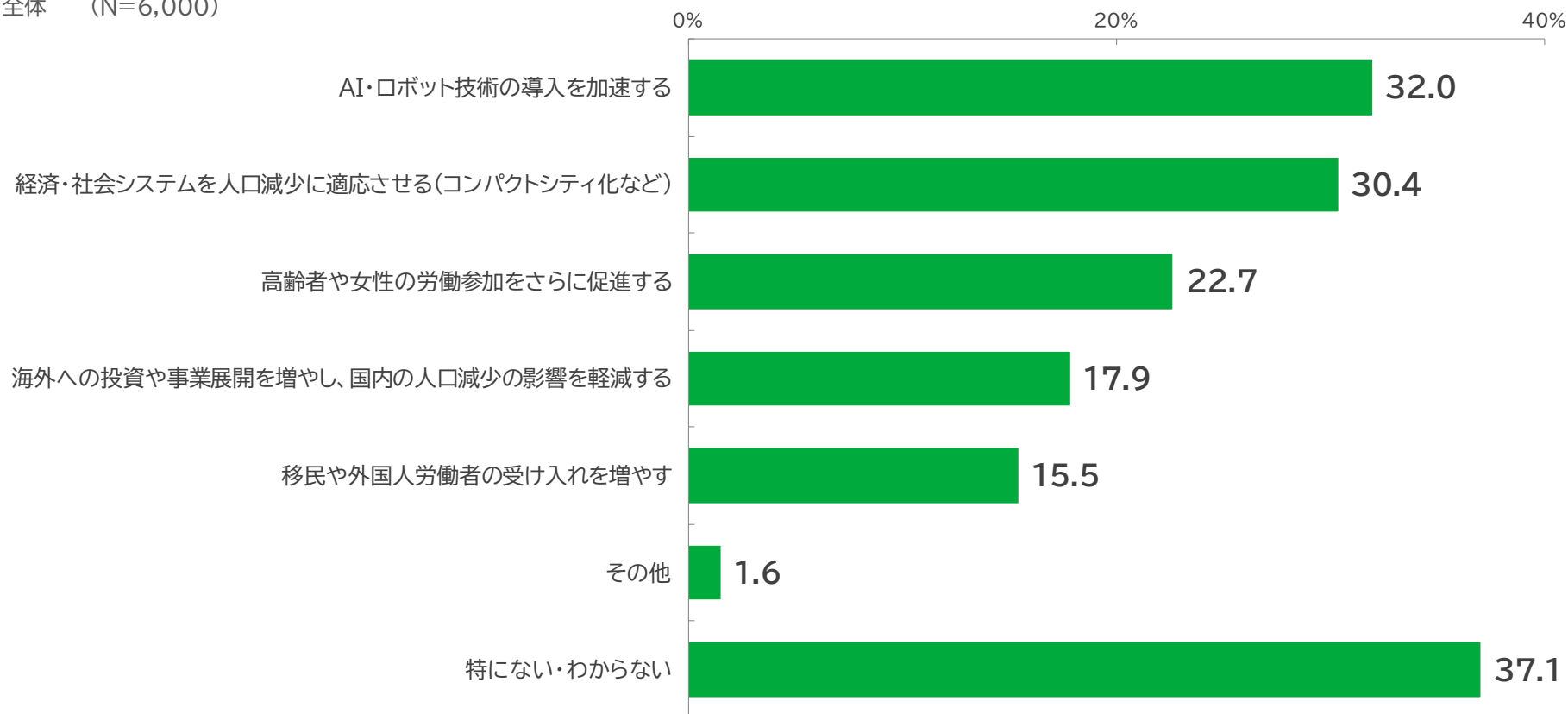
日本はどのような対策を講じるべきか



「AI・ロボット技術の導入を加速する」(32%)、「経済・社会システムを人口減少に適応させる」(30%)が上位に並ぶ。次いで「高齢者や女性の労働参加をさらに促進する」(23%)が続く。

Q28. 少子化対策が十分な効果が挙げられず、労働力が不足すると仮定した際に、日本はどのような対策を講じるべきだと思いますか。

全体 (N=6,000)



【前問で「移民や外国人労働者の受け入れを増やすべき」と回答した人】 移民や外国人労働者の受け入れを増やす際に必要なこと

移民や外国人労働者を増やす際については「移民や外国人が家族で定住できる環境・制度の整備」(63%)が最も多く、「医療保険や教育制度などの受け入れ体制の強化」(54%)、「受け入れに向けた国民の合意形成」(52%)、「出入国管理法など関連法制の見直し」(51%)と続く。

Q29.移民や外国人労働者の受け入れを増やす際に必要なことは何だと思いませんか。

全体 (n=931)

